鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（27）

国分上野原テクノパーク第３工区造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅰ）

上野原遺跡

（第10地点）

所在地　鹿児島県国分市大字上之段水ケ迫ほか

第２分冊

2000年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

凡　　例

1　集石遺構については，調査の現場図面は原則として１／10で作成することとし，調査担当者がそれぞれ分担して作成した。写真撮影についてもそれぞれを分担したため，作図者と撮影者は一致しない。

本報告書には，現場図面を実寸トレースしたうえで50％縮小して掲載したので，各図１／20の仕上がりである。

2　集石遺構内出土遺物は，集石遺構実測図内にその出土位置を記号で明示した。なお，記号の番号は挿図での遺物番号に符号する。

（凡例）

土１，土２ … 集石遺構内出土土器№１，２……

石１，石２ … 集石遺構内出土石器№１，２……

3　集石遺構内出土土器は，実測図50％縮小した。

4　集石遺構内出土石器の縮小率は以下のとおりである。

剥片石器　80％　（剥片素材の石斧を含む）

礫核石器　40％　（ただし，石皿は20％）

5　石器集積・埋納遺構については，現場図面が１／５と１／10と混じっていたので，全て１／５の下図を作成のうえトレースし，版下とした。それを50％縮小して掲載した。なお，断面図・断面見通し図・見通し図と統一されていないうえ，それらが１面であったり２面もしくは４面とその数も統一されていない。調査が進むにつれて，その重要性を深く認識するようになったからにほかならない。調査の記録として，あえて不統一のままとした。お詫びするとともに御寛恕を乞う次第である。

6　石器集積・埋納遺構出土の石器は，実測図を80％縮小のうえトレースし，版下とした。それを50％縮小して掲載した。

7　土器埋納遺構については，遺構検出状況図は１／５のスケールで統一し，断面見通し１面もしくは必要に応じて２面作成することとした。本報告書作成にあたっては，１／５のままトレースし，版下とした。それを50％縮小して掲載した。

埋納土器は実測図を25％縮小して掲載している。

8　石斧埋納遺構出土石斧の実測・製図にあたっては，㈱エーテックの協力を得た。

9　本分冊の執筆分担は次のとおりである。編集は冨田，八木澤両名で共同して行った。

第８節　縄文時代早期の調査

１　遺　　構

(1)　集石遺構

①集石遺構　　八木澤一郎

②集石遺構内出土土器　　同　上

③集石遺構内出土石器　冨田　逸郎

(2)　集積遺構

1)石核母岩集積遺構　　冨田　逸郎

2)磨石集積遺構　　同　上

3)石斧埋納遺構　　同　上

(3)　土器埋納遺構　　八木澤一郎

2 分 冊 目 次

第Ⅳ章　発掘調査 …… 8
第8節　縄文時代早期の調査 …… 8
1　遺　構 …… 8
(1)　集石遺構
1)　集石遺構 …… 8
2)　集石遺構内出土の遺物 …… 186
①土　器 …… 186
②石　器 …… 193
(2)　集積遺構 …… 219
1)　石核母岩集積遺構 …… 219
2)　磨石集積遺構 …… 219
3)　石斧埋納遺構 …… 227
(3)　土器埋納遺構 …… 242
1)　定　義 …… 242
2)　遺　構 …… 242
3)　小　結 …… 255
付　篇　壺形土器内の自然科学分析

挿　図　目　次

第１図　縄文時代早期遺構配置図 …… 9
第２図　Ｒ－５区集石遺構配置図 …… 13
第３図　集石遺構１（Ｒ－５区） …… 14
第４図　Ｓ－５区集石遺構配置図 …… 15
第５図　集石遺構２（Ｓ－５区） …… 16
第６図　集石遺構３（Ｓ－５区） …… 17
第７図　Ｒ－６区集石遺構配置図 …… 18
第８図　集石遺構４（Ｒ－６区） …… 19
第９図　Ｐ－７区集石遺構配置図 …… 20
第10図　集石遺構５（Ｐ－７区） …… 20
第11図　Ｑ－７区集石遺構配置図 …… 21
第12図　集石遺構６（Ｑ－７区） …… 21
第13図　Ｒ－７区集石遺構配置図 …… 22
第14図　集石遺構７（Ｒ－７区） …… 23
第15図　Ｏ・Ｐ－８区集石遺構配置図 …… 24
第16図　集石遺構８（Ｏ・Ｐ－８区） …… 25
第17図　Ｑ－８区集石遺構配置図 …… 27
第18図　集石遺構10（Ｑ－８区） …… 28
第19図　Ｒ－８区集石遺構配置図 …… 30
第20図　集石遺構11（Ｒ－８区） …… 31
第21図　Ｓ－８区集石遺構配置図 …… 33
第22図　集石遺構12（Ｓ－８区） …… 34
第23図　集石遺構13（Ｓ－８区） …… 35
第24図　Ｏ－９区集石遺構配置図 …… 38
第25図　集石遺構14（Ｏ－９区） …… 39
第26図　集石遺構15（Ｏ－９区） …… 40
第27図　Ｐ－９区集石遺構配置図 …… 41
第28図　集石遺構16（Ｐ－９区） …… 42
第29図　Ｑ－９区集石遺構配置図 …… 43
第30図　集石遺構17（Ｑ－９区～１） …… 44
第31図　集石遺構18（Ｑ－９区～２） …… 45
第32図　集石遺構19（Ｑ－９区～３） …… 46
第33図　集石遺構20（Ｑ－９区～４） …… 47
第34図　集石遺構21（Ｑ－９区～５） …… 48
第35図　集石遺構22（Ｑ－９区～６） …… 49
第36図　Ｒ－９区集石遺構配置図 …… 52
第37図　集石遺構23（Ｒ－９区～１） …… 53
第38図　集石遺構24（Ｒ－９区～２） …… 54
第39図　集石遺構25（Ｒ－９区～３） …… 55
第40図　集石遺構26（Ｒ－９区～４） …… 56
第41図　集石遺構27（Ｒ－９区～５） …… 57
第42図　集石遺構28（Ｒ－９区～６） …… 58
第43図　集石遺構29（Ｒ－９区～７） …… 59
第44図　集石遺構30（Ｒ－９区～８） …… 60
第45図　集石遺構31（Ｒ－９区～９） …… 61
第46図　集石遺構32（Ｒ－９区～10） …… 62
第47図　Ｓ－９区集石遺構配置図 …… 66
第48図　集石遺構33（Ｓ－９区～１） …… 66
第49図　集石遺構34（Ｓ－９区～２） …… 67
第50図　集石遺構35（Ｓ－９区～３） …… 68
第51図　集石遺構36（Ｓ－９区～４） …… 69
第52図　Ｐ－10区集石遺構配置図 …… 71
第53図　集石遺構37（Ｐ－10区～１） …… 72
第54図　集石遺構38（Ｐ－10区～２） …… 73
第55図　Ｑ－10区集石遺構配置図 …… 74
第56図　集石遺構39（Ｑ－10区～１） …… 75
第57図　集石遺構40（Ｑ－10区～２） …… 76
第58図　集石遺構41（Ｑ－10区～３） …… 77
第59図　Ｒ－10区集石遺構配置図 …… 79
第60図　集石遺構42（Ｒ－10区～１） …… 80
第61図　集石遺構43（Ｒ－10区～２） …… 81
第62図　集石遺構44（Ｒ－10区～３） …… 82
第63図　集石遺構45（Ｒ－10区～４） …… 83
第64図　集石遺構46（Ｒ－10区～５） …… 84
第65図　集石遺構47（Ｒ－10区～６） …… 85
第66図　集石遺構48（Ｒ－10区～７） …… 86
第67図　集石遺構49（Ｒ－10区～８） …… 87
第68図　集石遺構50（Ｒ－10区～９） …… 88
第69図　集石遺構51（Ｒ－10区～10） …… 89
第70図　Ｓ－10区集石遺構配置図 …… 94
第71図　集石遺構52（Ｓ－10区） …… 95
第72図　Ｐ－11区集石遺構配置図 …… 96
第73図　集石遺構53（Ｐ－11区） …… 97
第74図　Ｑ－11区集石遺構配置図 …… 98
第75図　集石遺構54（Ｑ－11区～１） …… 99
第76図　集石遺構55（Ｑ－11区～２） …… 100
第77図　集石遺構56（Ｑ－11区～３） …… 101
第78図　集石遺構57（Ｑ－11区～４） …… 102

第79図　集石遺構58（Q－11区～５）…… 103
第80図　集石遺構59（Q－11区～６）…… 104
第81図　集石遺構60（Q－11区～７）…… 105
第82図　集石遺構61（Q－11区～８）…… 106
第83図　集石遺構62（Q－11区～９）…… 107
第84図　R－11区集石遺構配置図 …… 110
第85図　集石遺構63（R－11区～１）…… 111
第86図　集石遺構64（R－11区～２）…… 112
第87図　集石遺構65（R－11区～３）…… 113
第88図　S－11区集石遺構配置図 …… 116
第89図　集石遺構66（S－11区） …… 117
第90図　O－12区集石遺構配置図 …… 119
第91図　集石遺構67（O－12区） …… 120
第92図　P－12区集石遺構配置図 …… 121
第93図　集石遺構68（P－12区～１）…… 122
第94図　集石遺構69（P－12区～２）…… 123
第95図　集石遺構70（P－12区～３）…… 124
第96図　集石遺構71（P－12区～４）…… 125
第97図　Q－12区集石遺構配置図 …… 127
第98図　集石遺構72（Q－12区～１）…… 128
第99図　集石遺構73（Q－12区～２）…… 129
第100図 R－12区集石遺構配置図 …… 130
第101図 集石遺構74（R－12区～１）…… 130
第102図 集石遺構75（R－12区～２）…… 131
第103図 S－12区集石遺構配置図 …… 134
第104図 集石遺構76（S－12区） …… 135
第105図 O－13区集石遺構配置図 …… 137
第106図 集石遺構77（O－13区～１）…… 138
第107図 集石遺構78（O－13区～２）…… 139
第108図 P－13区集石遺構配置図 …… 140
第109図 集石遺構79（P－13区～１）…… 141
第110図 集石遺構80（P－13区～２）…… 142
第111図 集石遺構81（P－13区～３）…… 143
第112図 Q－13区集石遺構配置図 …… 145
第113図 集石遺構82（Q－13区～１）…… 145
第114図 集石遺構83（Q－13区～２）…… 146
第115図 集石遺構84（Q－13区～３）…… 147
第116図 R－13区集石遺構配置図 …… 150
第117図 集石遺構85（R－13区～１）…… 151
第118図　集石遺構86（R－13区～２）…… 152
第119図　集石遺構87（R－13区～３）…… 153
第120図　P－14区集石遺構配置図 …… 157
第121図　集石遺構88（P－14区～１）…… 158
第122図　集石遺構89（P－14区～２）…… 159
第123図　Q－14区集石遺構配置図 …… 160
第124図　集石遺構90（Q－14区～１）…… 161
第125図　集石遺構91（Q－14区～２）…… 162
第126図　集石遺構92（Q－14区～３）…… 163
第127図　集石遺構93（Q－14区～４）… 165・166
第128図　集石遺構94（Q－14区～５）…… 167
第129図　R－14区集石遺構配置図 …… 170
第130図　集石遺構95（R－14区） …… 171
第131図　O－15区集石遺構配置図 …… 172
第132図　集石遺構96（O－15区～１）…… 173
第133図　集石遺構97（O－15区～２）…… 174
第134図　P－15区集石遺構配置図 …… 176
第135図　集石遺構98（P－15区～１）…… 177
第136図　集石遺構99（P－15区～２）…… 178
第137図　Q－15区集石遺構配置図 …… 180
第138図　集石遺構 100（Q－15区） …… 181
第139図　P－16区集石遺構配置図 …… 182
第140図　集石遺構 101（P－16区～１）…… 182
第141図　集石遺構 102（P－16区～２）…… 183
第142図　集石遺構内出土土器１ …… 185
第143図　集石遺構内出土土器２ …… 186
第144図　集石遺構内出土土器３ …… 187
第145図　集石遺構内出土土器４ …… 188
第146図　集石遺構内出土土器５ …… 189
第147図　集石遺構内出土土器６ …… 190
第148図　集石遺構内出土石器１ …… 192
第149図　集石遺構内出土石器２ …… 193
第150図　集石遺構内出土石器３ …… 194
第151図　集石遺構内出土石器４ …… 195
第152図　集石遺構内出土石器５ …… 196
第153図　集石遺構内出土石器６ …… 197
第154図　集石遺構内出土石器７ …… 198
第155図　集石遺構内出土石器８ …… 199
第156図　集石遺構内出土石器９ …… 200
第157図　集石遺構内出土石器10 …… 201
第158図　集石遺構内出土石器11 …… 202
第159図　集石遺構内出土石器12 …… 203
第160図　集石遺構内出土石器13 …… 204

第161図　集石遺構内出土石器14 …… 205
第162図　集石遺構内出土石器15 …… 206
第163図　集石遺構内出土石器16 …… 207
第164図　集石遺構内出土石器17 …… 208
第165図　石核母岩集積遺構・磨石集積遺構・磨製石斧埋納遺構位置図 …… 218
第166図　石核母岩集積遺構周辺コンタ図・出土状況図 …… 219
第167図　1・2号磨石集積遺構周辺コンタ図　221
第168図　1号磨石集積遺構出土状況図・出土磨石 …… 221
第169図　1号磨石集積遺構出土磨石 …… 222
第170図　2号磨石集積遺構出土状況図・出土磨石 …… 222
第171図　3・4号磨石集積遺構周辺コンタ図　223
第172図　3号磨石集積遺構出土状況図 …… 223
第173図　4号磨石集積遺構出土状況図 …… 223
第174図　3・4号磨石集積遺構出土磨石 …… 224
第175図　1号石斧埋納遺構周辺コンタ図 …… 228
第176図　1号石斧埋納遺構土状況図 …… 229
第177図　1号石斧埋納遺構出土石斧 …… 229
第178図　2・4号石斧埋納遺構周辺コンタ図　230
第179図　2号石斧埋納遺構出土状況図 …… 231
第180図　2号石斧埋納遺構出土石斧 …… 231
第181図　4号石斧埋納遺構出土状況図 …… 232
第182図　4号石斧埋納遺構出土石斧 …… 232
第183図　3・6号石斧埋納遺構周辺コンタ図　233
第184図　3号石斧埋納遺構出土状況図 …… 234
第185図　3号石斧埋納遺構出土石斧 …… 235
第186図　6号石斧埋納遺構出土状況図 …… 236
第187図　6号石斧埋納遺構出土石斧 …… 236
第188図　6号石斧埋納遺構出土石斧 …… 237
第189図　5号石斧埋納遺構周辺コンタ図 …… 238
第190図　5号石斧埋納遺構出土状況図 …… 245
第191図　5号石斧埋納遺構出土石斧 …… 239
第192図　土器埋納遺構検出状況 …… 241
第193図　土器埋納遺構1検出状況 …… 242
第194図　埋納土器1－1，1－2 …… 243
第195図　土器埋納遺構2検出状況 …… 244
第196図　埋納土器2 …… 244
第197図　土器埋納遺構3検出状況 …… 245
第198図　埋納土器3 …… 245
第199図　土器埋納遺構4検出状況 …… 246
第200図　埋納土器4 …… 246
第201図　土器埋納遺構5検出状況 …… 248
第202図　埋納土器5 …… 248
第203図　土器埋納遺構6検出状況 …… 248
第204図　埋納土器6 …… 248
第205図　土器埋納遺構7検出状況 …… 249
第206図　埋納土器7 …… 249
第207図　土器埋納遺構8（上）・9（下） … 250
第208図　埋納土器8 …… 250
第209図　土器埋納遺構10検出状況 …… 251
第210図　埋納土器10 …… 251
第211図　土器埋納遺構11検出状況 …… 252
第212図　埋納土器11 …… 252
第213図　土器埋納遺構12検出状況 …… 252
第214図　埋納土器12 …… 252

重要文化財　鹿児島県上野原遺跡出土品　一覧

分　類	指定物件名	箇数
	深鉢形土器	12
	鉢形土器	1
土器類	壺形土器	14
	椀形土器	2
	小形土器	6
	土製品耳飾残欠	18
	土　偶	1
土製品類	棒状土製品残欠	3
	異形土製品残欠共	6
	土製円盤残欠共	39
	磨製石斧	65
	打製石斧	11
	環状石斧残欠	5
	環　石	1
	石　匙	53
	石槍残欠共	10
	石　鏃	148
	掻　器	63
	彫　器	10
石器類	削　器	63
	石　錐	12
	篦状石器	18
	楔形石器	24
	石　鋸	2
	礫　器	92
異	形石器	16
	磨　石	12
	敲　石	15
	石　皿	4
	石製垂飾	3
石製品類	石製耳飾	8
	軽石製品	5
附	線刻土器片	4
	石　核	21

（指定理由）

本件は，上野原遺跡から出土した縄文時代早期後半の遺物一括である。

上野原遺跡は，鹿児島県国分市上之段に所在する。遺跡は，通称シラスと呼ばれる入戸火砕流が約30mの厚さで堆積し，周囲を浸食された標高約260m，総面積約9万3千㎡の台地上に立地する。

調査は，県工業団地の建設に先立ち，この台地をほぼ4分割して進められたが，本件の一括はこのうち第3工区（平成3～6年調査）から出土した資料である。

資料は，深鉢形土器12箇・壺形土器14箇・土製耳飾残欠18箇・土偶1箇を含む土器・土製品類102箇と，石鏃・磨製石斧・打製石斧等の石器・石製品類640箇，及び附の線刻土器片4箇分，石核等21箇で構成される。このうち土器は，平栫式を中心に塞ノ神式に及ぶが，通有な深鉢形土器と共に壷形土器が多く含まれ，これに鉢形土器等が組み合う。特に壷形土器は，うち13箇が土坑内から，正位に埋納された状態で出土した。この遺構の性格は判然としないが，墓壙あるいは集落に近接した祭祀の場が想定されている。

また，磨製石斧が一括埋納された遺構も6箇所発見されている。

土偶は一点のみの出土だが，九州で現在最古の資料で，胸に明瞭な乳房表現や肋骨様の細沈線文が描かれる。

土製耳飾はいわゆる滑車形で，土器の模様に共通する装飾が施されるが，早期にまで遡る滑車形の耳飾が本件のように，一遺跡から多数出土した例はほかにない。

以上本件は，これまでの縄文時代早期の遺跡では知り得なかった遺物を数多く含む，充実したものである。

とりわけ完形の壺形土器は極めて遺存状態が良い個体を含み，また滑車形耳飾，土偶，環状石斧等の存在も，すでに縄文時代早期の段階で，南九州の地域では多彩な縄文文化が開花していたことを余すところなく物語る。

これらは，日本列島における縄文文化の創世，発展を知る上で重要な知見を提供するものであり，その学術的価値には高いものがある。

第Ⅳ章　発掘調査（承前）

第８節　縄文時代早期の調査

Ⅵ層およびⅦ層が遺物包含層であった縄文時代早期の時期の発掘調査は，各グリッドごとに進捗状況に応じて適宜行った。

今回，第３工区の発掘調査を行った結果は，約15万点にのぼる多量で多種多様な遺物が出土したことと，多様な遺構が検出されたことであった。これは，南九州では縄文時代早期の段階においてすでに全国に先駆けて多彩な縄文文化が開花していたことを示すものとして，発掘調査期間中から注目された。

その成果として，平成10年６月30日には767点の上野原遺跡出土品が重要文化財として指定された（前頁一覧表参照）。

なお，この第２分冊では検出した遺構について報告を行う。出土した土器・土製品および石器・石製品については第４分冊以降で報告を行うので，併せて参照されたい。

１．遺構（第１図）

縄文早期の遺構としては，集石遺構252基，石核母岩集積遺構１基，磨石集積遺構４基，磨製石斧集積遺構６基，土器埋納土坑12基が検出された。

このうち集石遺構以外の遺構から出土した土器および石器は，すべて重要文化財に指定されている。

これらの遺構群は，すべてⅥ層もしくはⅦ層から検出されたものである。

Ⅵ層およびⅦ層からは，縄文時代早期中葉の時期に編年されている下剥峯式土器や桑ノ丸式土器などの土器群と，早期後葉の時期に編年されている平栫式土器・塞ノ神式土器などの土器群とが出土している。しかしながら，その出土量の比率は，早期後葉の時期の土器群が出土土器全体の９割以上を占める状況にあった。

一方，土器埋納土坑内から出土した埋納土器はすべて早期後葉の時期に属する土器であった。

このことから石核母岩および磨石集積遺構と石斧埋納遺構および土器埋納土坑とは，全て早期後葉の時期に比定できると考えられる。

一方，252基が検出された集石遺構の帰属時期について，全ての集石遺構を早期中葉の時期のものと早期後葉の時期のものとに明瞭に分けることはできなかった。そこで早期後半の時期に属するものとして一括して述べることにする。

(1)　集石遺構

1)　集石遺構（第２図～第 141図）

①　概要

上野原遺跡第３工区で出土した縄文時代早期の時期に属する集石遺構は 252基を数えた。そのうち資料化できた 239基について報告を行う。この項では，報告を行うにあたっての留意事項を述べる。

第３工区の緊急発掘調査は，平成４年度から平成６年度まで３年間にわたり行われた。そのために集石遺構の調査は，検出した順に集石遺構番号を振りながら進められた。その結果，遺跡全体を通して概観すると，集石遺構番号の振り方には規則性がなくなり，報告を行うにあたり検索しづらい状況となった。そこで，以下のような方針で，報告を行うにあたり改めて集石番号を振り直した。

１．遺構番号はグリッドでまとめながら，１号集石から239号集石まで通し番号をつける。

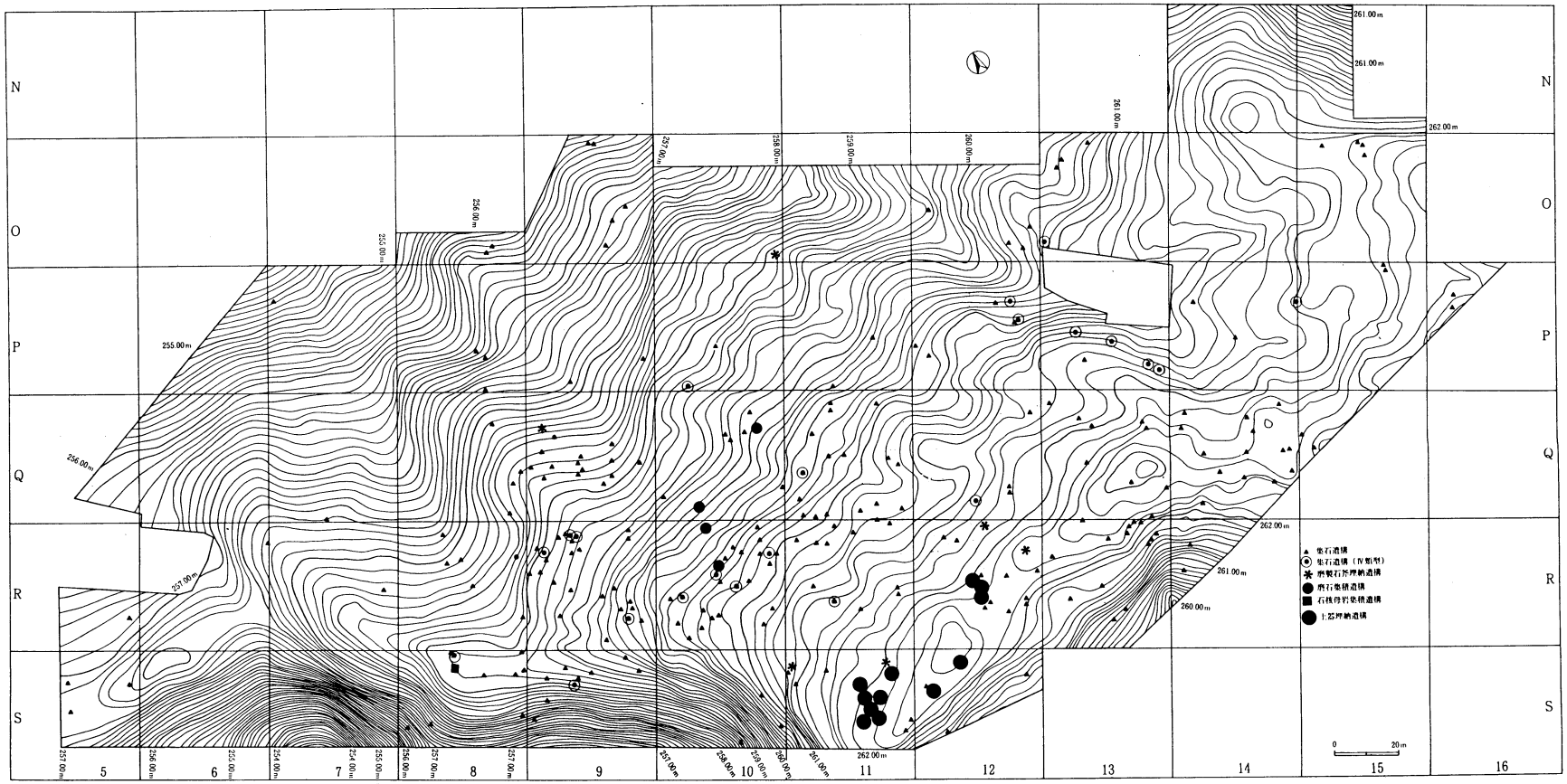
２．報告するグリッドの順序は，まず東西方向で西側グリッドから東側グリッドへ（算数字の方向で昇順（５区→１６区）に）報告する。次に東西方向グリッドが同じ区では南北方向で北側グリッドから南側グリッドへ（英字の方向で昇順（Ｎ区→Ｓ区）に）報告する。

３．グリッド内では，原則として北西側から南東側へつける。

したがって本報告では，集石遺構番号が南北方向で隣り合っているグリッドでは連続した番号がついているものの，東西方向で隣り合っているグリッドでは集石遺構番号が連続しない，という状況となった点についてはご了承願いたい。

なお，集石遺構別データ表中においては発掘調査時の集石遺構番号を「取上集石番号」，今回振り直した集石遺構番号を「報告書集石番号」として，その対照を明記した。

ところで発掘調査において縄文時代早期の集石遺



第１図　縄文時代早期遺構配置図

構は，Ⅵ層とⅦ層との両方の層で検出された。したがって，本来ならば各層ごとに項を分けて報告すべきところではある。しかし両層の間には，発掘調査現場においても，その後の整理作業の段階においても，時間軸で明瞭な差は見いだしにくい状況であった。そのため本報告では，集石遺構を検出した層で区別せずに一括して示した。なお集石遺構別データ表では出土層を明示した。

さらに遺構の断面ラインについても，発掘調査時においては各担当者に任されたが，本報告にあたり原則として西－東ラインをＡ－Ａ’と，北－南ラインをＢ－Ｂ’として全区の統一を図っている。

さて，各集石遺構の特徴を把握するために今回の報告では，全ての集石遺構について「集石遺構別データ表」と「分散グラフ」とを提示した。

「集石遺構別データ表」では，上段に遺構データとして先に述べた「取上集石番号」,「出土層」の項目のほかに,「大きさ」,「総礫数」，形態分類の「類型」の５項目を示した。形態分類の「類型」については項を改めて説明を行う。「大きさ」は，１欄目に集石遺構と認定した範囲全体の規模を長径＊短径＊深さで示した。単位はcmである。[] 内の数値は，集石遺構と認定した範囲の中に集中部がある場合に，その規模を長径＊短径＊深さで示した。２欄目には集石遺構に掘り込みが伴う場合における，その掘り込みの規模を示した。

下段には，集石遺構を構成する礫のデータを示した。構成礫の重量および最大長の「最小値」,「最大値」,「中央値」,「平均値」，重量の「合計」値を記載した。

特に重量においては飛び抜けた数値を示す礫があるために,「平均値」と「中央値」とを示した。「平均値」は，値の総和を単に礫数で除した数値であるが,「中央値」は大きさの順に配列した場合の中央の値であり，両者を示すことでその集石遺構の特徴がより明瞭になると判断した。

一方，個々の集石遺構図には「重量値」と「最大長値」の分散グラフを添付した。集石構成礫個々の「重量値」と「最大長値」との相関の散らばりを示すことで集石遺構１基の傾向を視覚的に示した。

また今回整理作業を行うにあたり，各集石遺構内の構成礫に関してのみ接合作業を行い，集石遺構図の平面図および断面図で接合図を示した。

② 形態分類

1 分類の概念

縄文時代の集石遺構は，その形態的特徴から次に示すように分類されることが多い。すなわち，

Ⅰ．構成礫が集中せずに，掘り込み部も確認できずに検出された集石遺構。

Ⅱ．構成礫が集中するが，掘り込みが確認できずに検出された集石遺構。

Ⅲ．構成礫が集中し，掘り込み部が確認できたものの，底石や壁石などの施設は確認できずに検出された集石遺構。

Ⅳ．構成礫が集中し，掘り込み部が確認できたうえに，底石あるいは壁石などの施設を伴い検出された集石遺構。

と，４類型に分類できることが多いといわれる。

そこで，上野原遺跡第３工区で検出できた集石遺構をこれらの類型に当てはめたところ，多くの集石遺構はこの４類型に属するものの，これらの類型にあてはまらない集石遺構が数多く見られた。既存の類型にあてはまらない集石遺構について形態的特徴を観察したところ，一定の型があると判断できたので，Ｖ類型に分類することとした。

Ｖ．構成礫が集中し，底石あるいは壁石などの施設になる礫は確認できたものの，掘り込み部が確認できず検出された集石遺構。

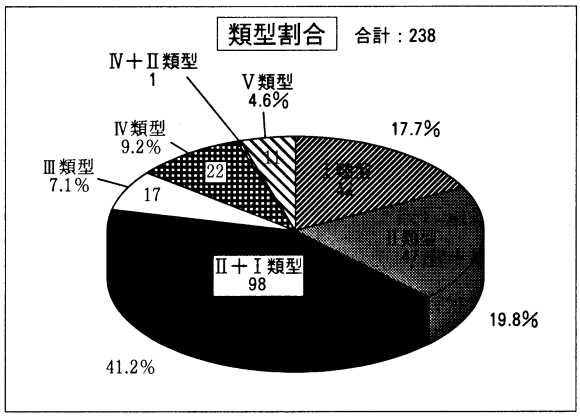
そこで報告を行うにあたり，各区で検出できた集石遺構を以上の類型に基づいて分類し，報告を行うことにする。

しかしながら，上野原遺跡第３工区では各類型の混合型に分類できる集石遺構も数多く検出できた。これらの集石遺構についてはそれらの類型を併記し，項目をたて分類することとした。例えば，Ⅱ類型に分類できる部分の周囲に，Ⅰ類型に分類できる部分が確認できた集石遺構については，「Ⅱ＋Ⅰ」のように記載し，分類した。

②－2　分類の結果

「②－1　分類の概念」で示した類型に基づいて分類した結果を次頁に示す。数字は，報告書集石番号である。

下に示したグラフは，類型分類ごとの基数とその全体に占める割合を示したものである。すなわち，Ⅰ類型が42基(17.7%)，Ⅱ類型が47基(19.8%)，Ⅱ＋Ⅰ類型が98基(41.2%)，Ⅲ類型が17基(7.1%)，Ⅳ類型が22基(9.2%)，Ⅳ＋Ⅱ類型が1基(0.4%)，そしてⅤ類型が11基(4.6%)となった。



このグラフで注目できることは，まずⅡ＋Ⅰ類型に帰属する集石遺構が全体の約4割を占め，さらにⅡ類型とⅡ＋Ⅰ類型とをあわせた，「Ⅱ類型を含む集石遺構」が全体の6割を越えることである。

このことからⅡ類型が，本遺跡における集石遺構の最も基本的な形態であるといえる。

一方，Ⅲ類型とⅣ類型とをあわせた，いわゆる「施設を有する集石遺構」は全体の16.3%を占める。さらにⅤ類型まで加えると，全体に占める割合は20.1%に達する。このことは，本遺跡において「施設を有する集石遺構」が，当時の生活様式に必要不可欠な機能を持つ，施設として定着した形態の一つといえる。

さて，Ⅴ類型に帰属する集石遺構は11基を検出した。全体に占める割合は5%未満と少ない。しかし，該当する集石遺構の検出状況を検討すると，構成礫が密接した状態で検出されたり，板状の石が組み合わさった状態で検出されたりしている。

この検出状況からⅤ類型に帰属する集石遺構は，決してⅣ類型に帰属する集石遺構が廃棄された形態と解釈する遺構ではなく，「施設を有する集石遺構」の一つの形態として解釈できる遺構である。

さてⅠ類型に属する集石遺構は，様々な形態で検出され，その構成礫のあり方も様々であった。しかしⅠ類型に属する集石遺構のうち多くの遺構では，構成礫の中に変色した礫が出土しており，加熱を受けていたことがわかる。

以上のことからⅠ類型に属する大部分の集石遺構は，概ね形態的にはⅡ＋Ⅰ類型に属する集石遺構がさらに分散化したと考えられる。ただし，その分散化が自然の営力の結果なのか，人為的結果なのかは，個別の集石遺構により異なろう。

このことはⅡ類型に属する集石遺構でも同じことが言える。遺構の形態や構成礫の破損の状況など，あり方は様々であった。現在のところ，これらの現象は形成過程の段階が異なるからだと言われているようである。この問題についても，遺構個別に観察をしていかなければいけない。

そこで，ここから集石遺構個別の提示を行っていきたい。ここでは全ての集石遺構についてコメントをしていきたいところであるが，紙数の制限もあるので，区ごとにまとめて特徴のある集石遺構について考えていきたい。

類　型　分　類

Ⅰ類型：４２基

R－５区：１，R－６区：５，Q－７区：７
O－８区：９，10，Q－８区：16，17
R－８区：18，19，S－８区：29
O－９区：33，36
Q－９区：39，44，45，48，49，50
R－９区：70，72，73，74，77
S－９区：81，Q－10区：89，92
P－11区：122，Q－13区:191，195，196
R－13区：202，205
Q－14区：213，214，216，223，226
O－15区：230，P－15区：234，235
Q－15区：236，P－16区：238

Ⅱ類型：４７基

P－７区：６，P－８区：12
R－８区：20，S－８区：24
O－９区：34，35，Q－９区：52
R－９区：53，56，57，58，63，65，66
Q－10区：93
R－10区：99，107，114，116，117
Q－11区：127，128，133，135
R－11区：139，141，S－11区：152，153
O－12区：154，155，Q－12区：163，165
R－12区：169，170，171，172，173，174
S－12区：178，P－13区：187
Q－13区：188，190，R－13区：198，204
Q－14区：217，R－14区：227
Q－15区：237

Ⅱ＋Ⅰ類型：９８基

S－５区：２，３，４，P－８区：11，13
Q－８区：14，R－８区：21，22
S－８区：25，27，28，30，O－９区：32
P－９区：37，38
Q－９区：41，42，43，46，47，51
R－９区：55，59，62，64，71
S－９区：78，79，83，85，86
P－10区：87，Q－10区：90，91
R－10区：95，97，98，100，102，103，104，105，109，110，111，112，115
S－10区：118，119，120，P－11区：121
Q－11区：124，126，129，130，132，136，137
R－11区：138，140，142，143，146，148
S－11区：150，O－12区：156
P－12区：157，159，161
R－12区：167，168，175
S－12区：176，177，O－13区：179，180
Q－13区：192，193，194
R－13区：197，199，201，203，206，207 210
P－14区：211，212
Q－14区：215，218，219，220，221，222，224，225
R－14区：228，O－15区：232

Ⅲ類型：１７基

Q－８区：15，S－8区：23，31
R－９区：67，68，76，S－9区：80
R－10区：101，Q－11区：123，134
R－11区：145，147，S－11区：151
O－13区：182，O－15区：231
P－15区：233，239

Ⅳ類型：２２基

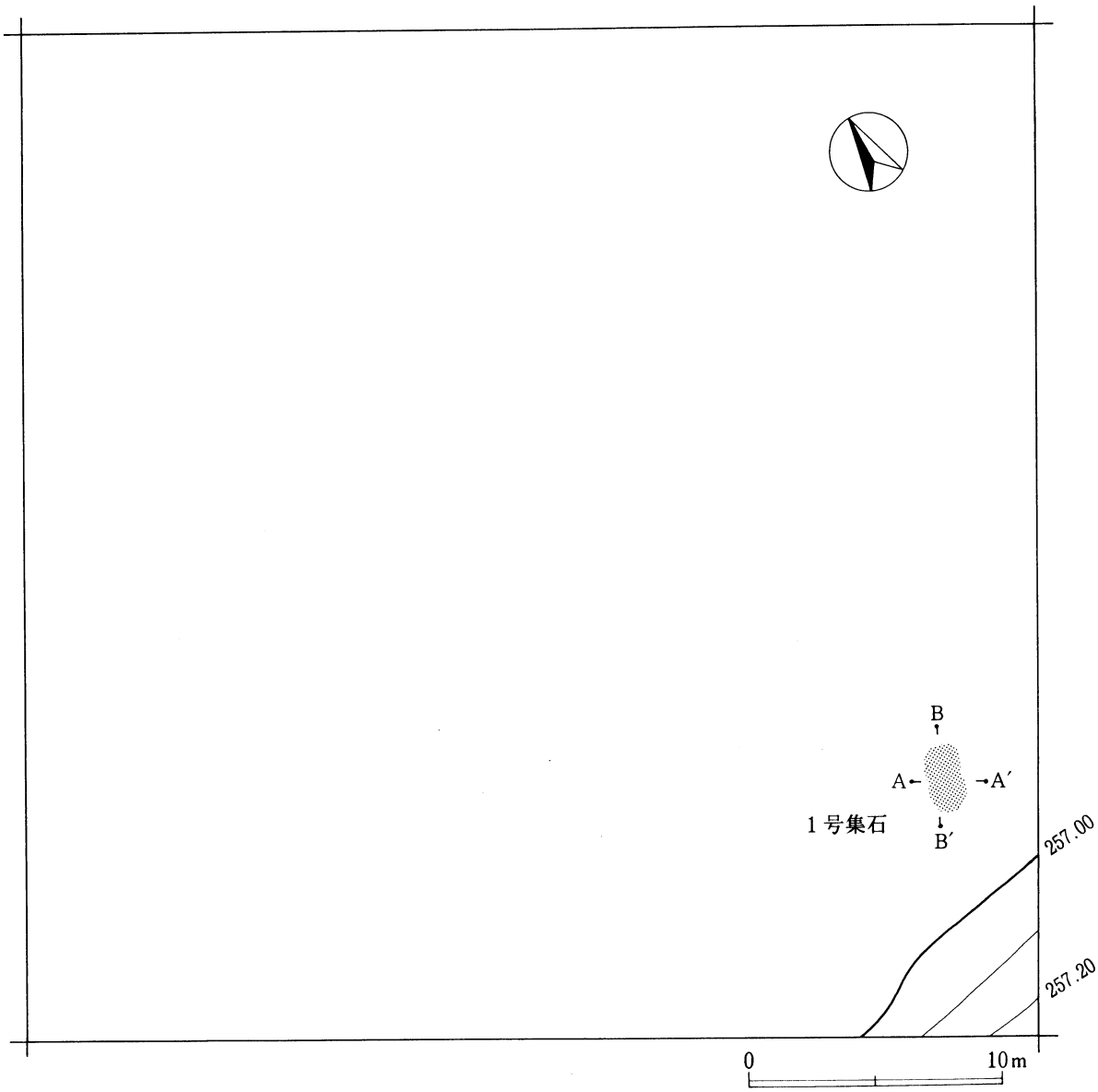
S－８区：26，R－9区：54，60，61，75
S－９区：84，P－10区：88，Q－10区：94
R－10区：96，106，108，113
Q－11区：125，R－11区：144
P－12区：160，162，Q－12区：166
O－13区：181，P－13区：183，186
Q－13区：189，O－15区：229

Ⅳ＋Ⅱ類型：１基

Q－11区：131

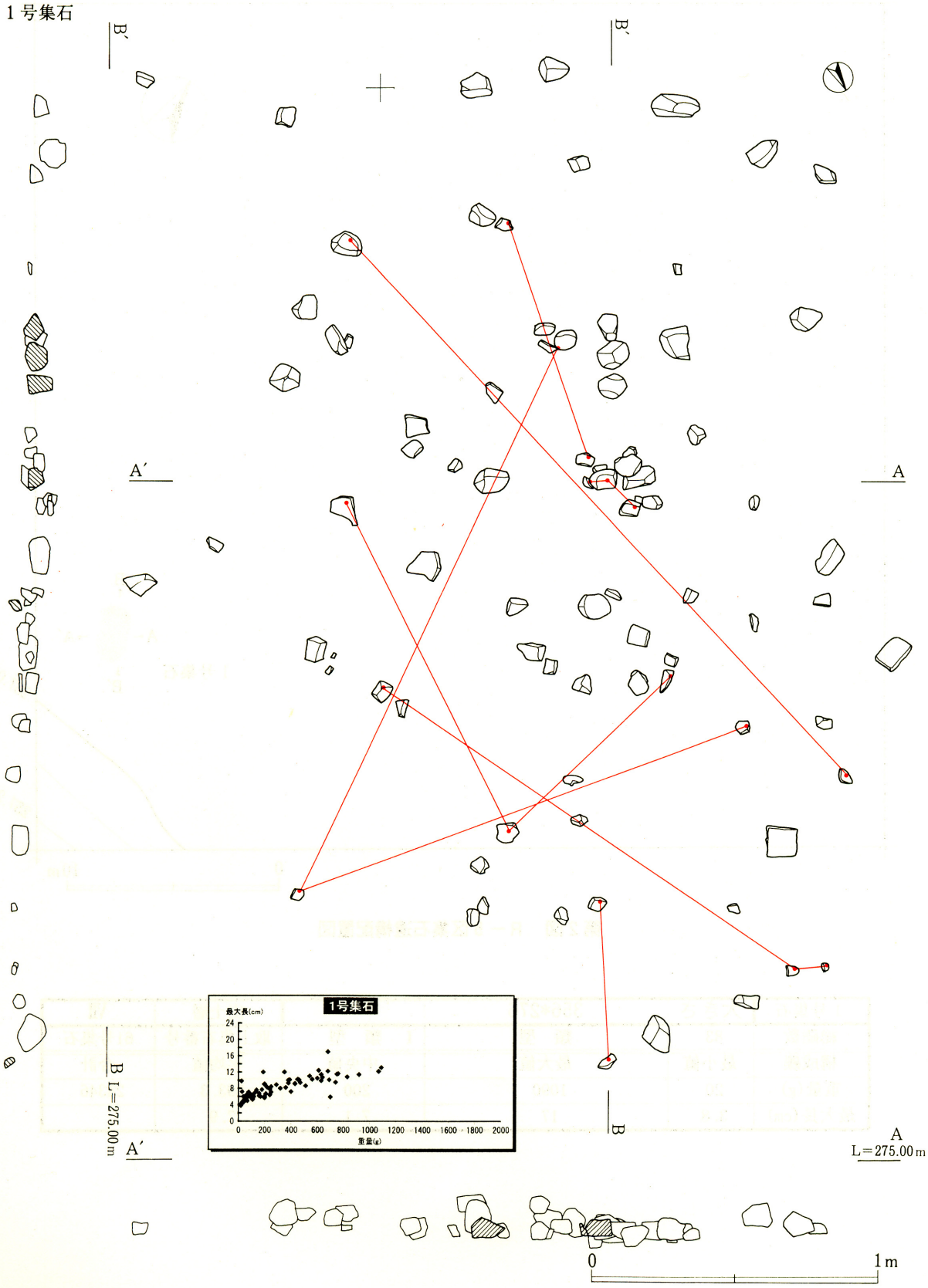
Ⅴ類型：１１基

R－７区：8，Q－9区：40，R－9区：69
S－９区：82，S－11区：149，P－12区：158
Q－12区：164，P－13区：184
R－13区：200，208，209

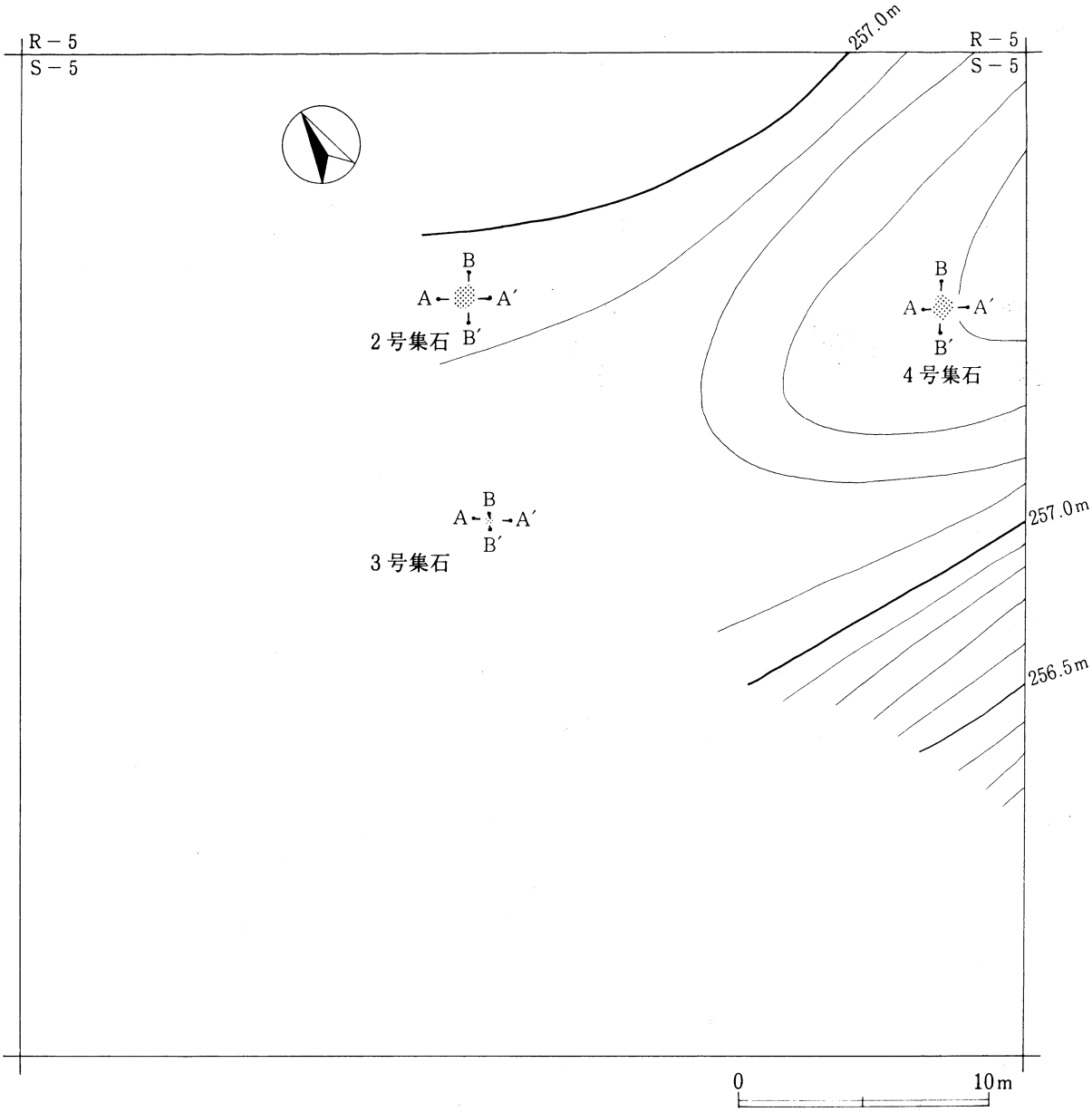


第2図　R－5区集石遺構配置図

1号集石	大きさ	356*276		出土層	Ⅶ
総礫数	83	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	61号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	20	1090	200	293.3	24346
最大長(cm)	3.8	17	7.1	7.9	



第3図　集石遺構1（R－5区）



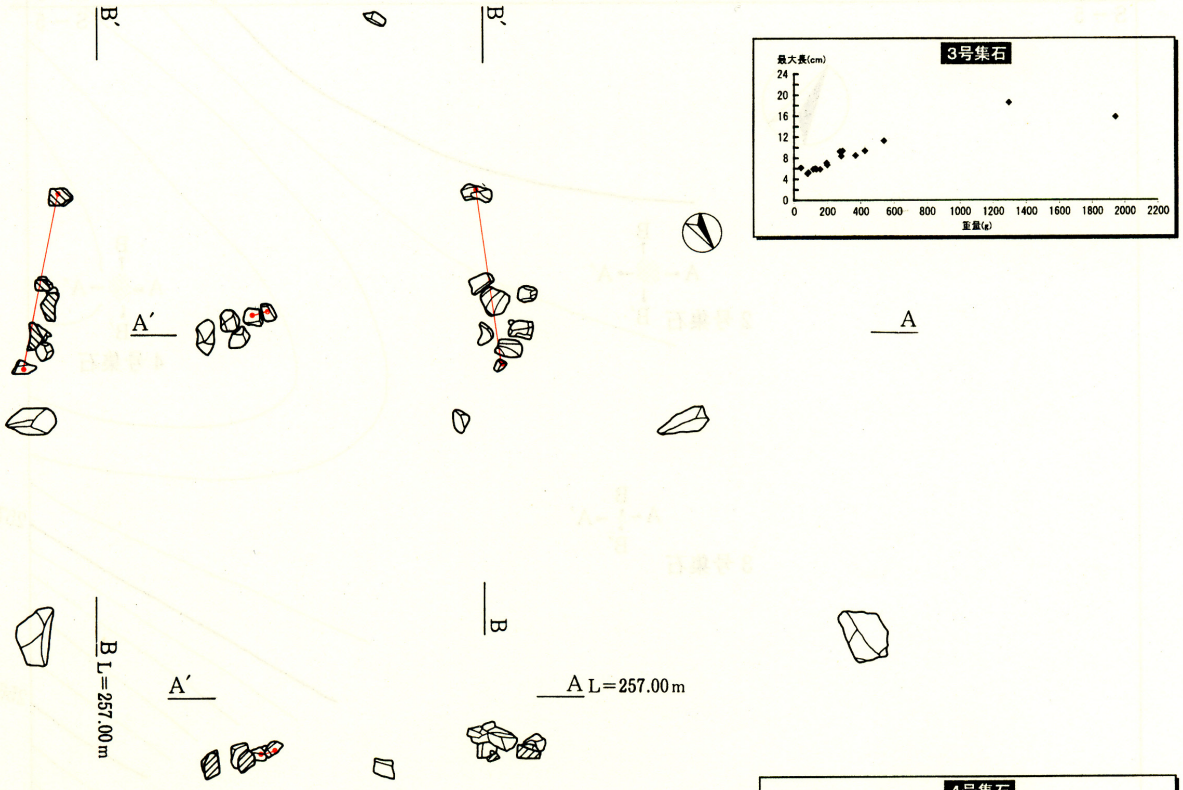
第4図　S－5区集石遺構配置図

2号集石	大きさ	266*239		出土層	Ⅶ
総礫数	74	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	90号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	12	2425	237.5	483.1	35753
最大長(cm)	3.6	16.9	8.25	9	

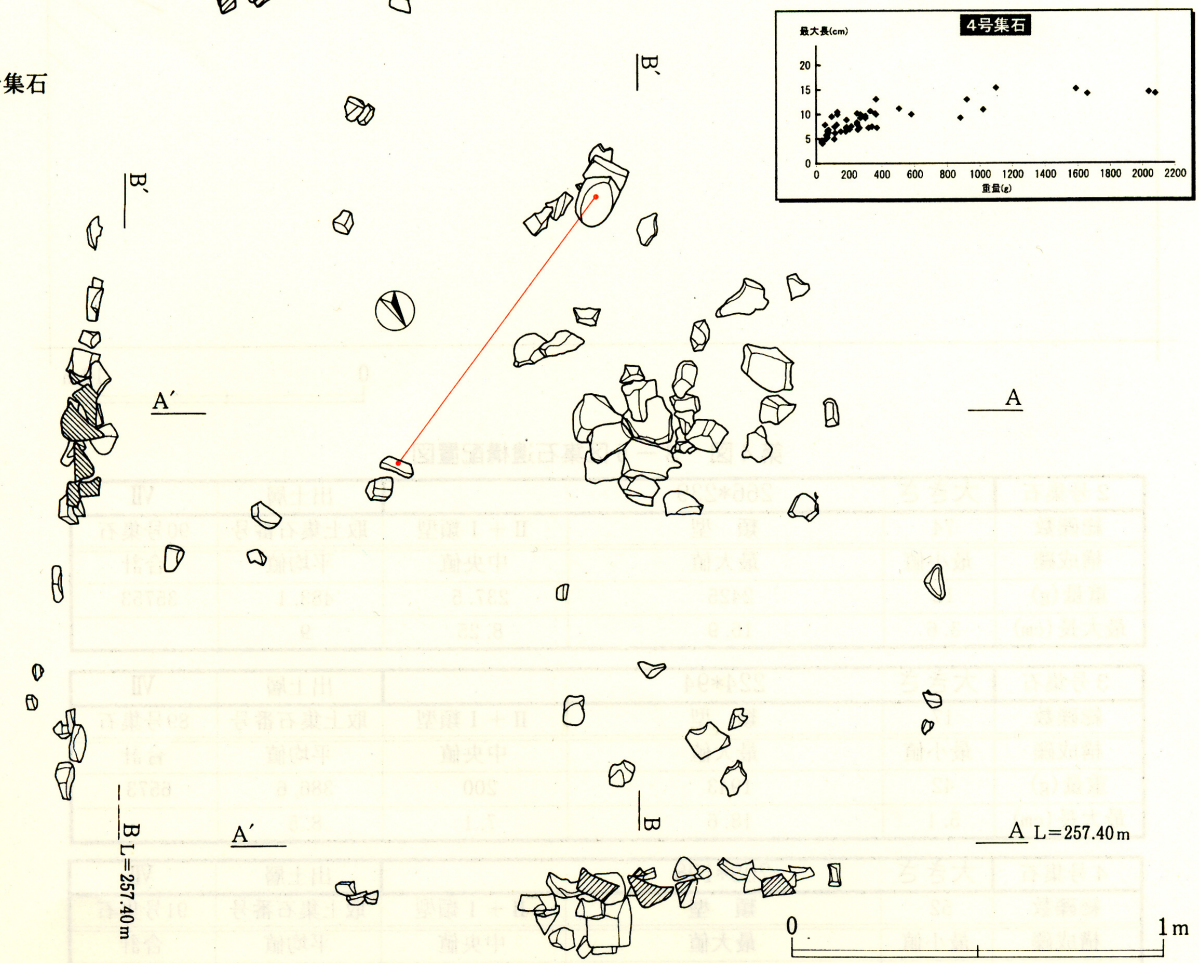
3号集石	大きさ	224*94		出土層	Ⅶ
総礫数	17	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	89号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	42	1943	200	386.6	6573
最大長(cm)	5.1	18.6	7.1	8.5	

4号集石	大きさ	208*198		出土層	Ⅶ
総礫数	52	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	91号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	35	2080	232.5	385.6	20050
最大長(cm)	4.1	15.4	7.9	8.6	

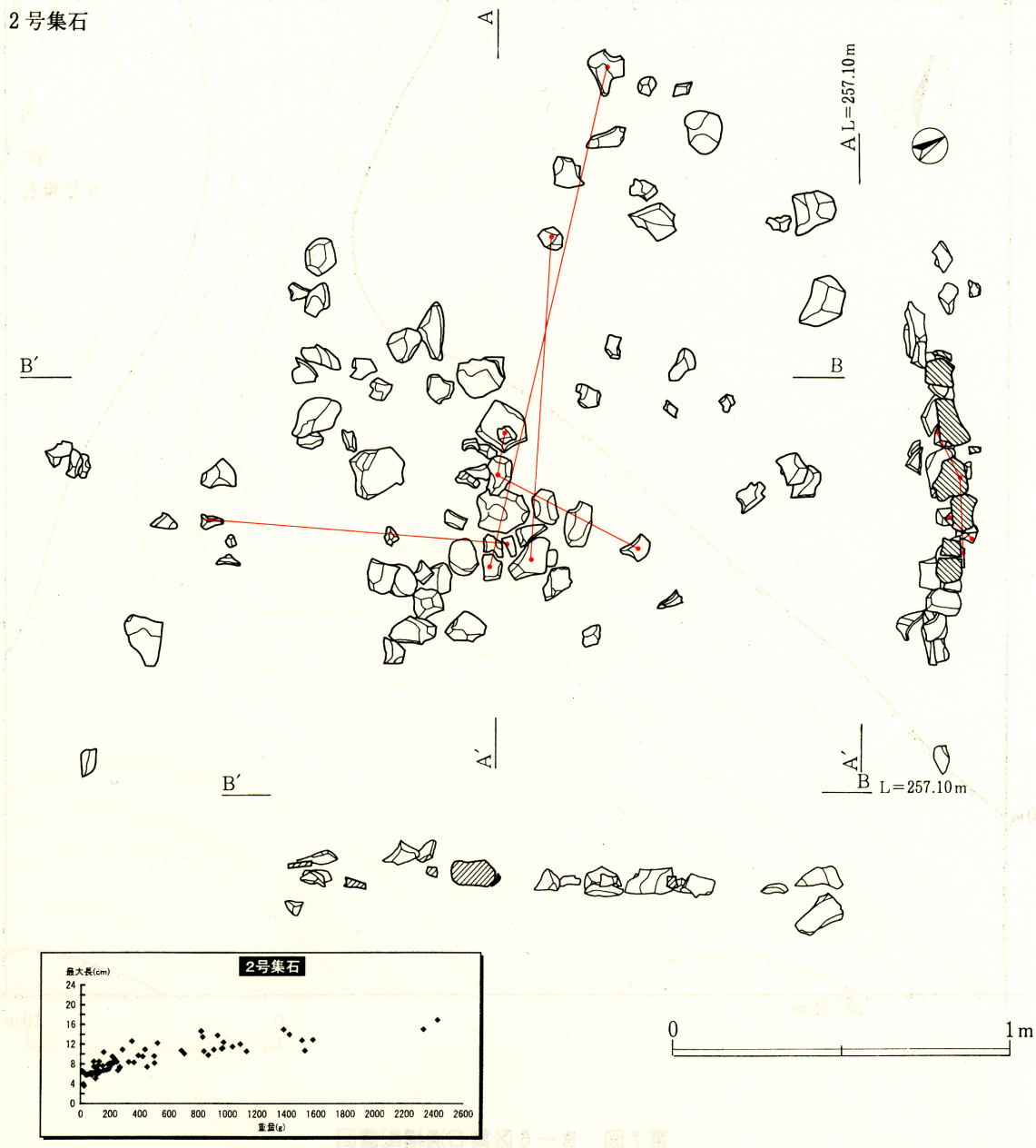
3号集石



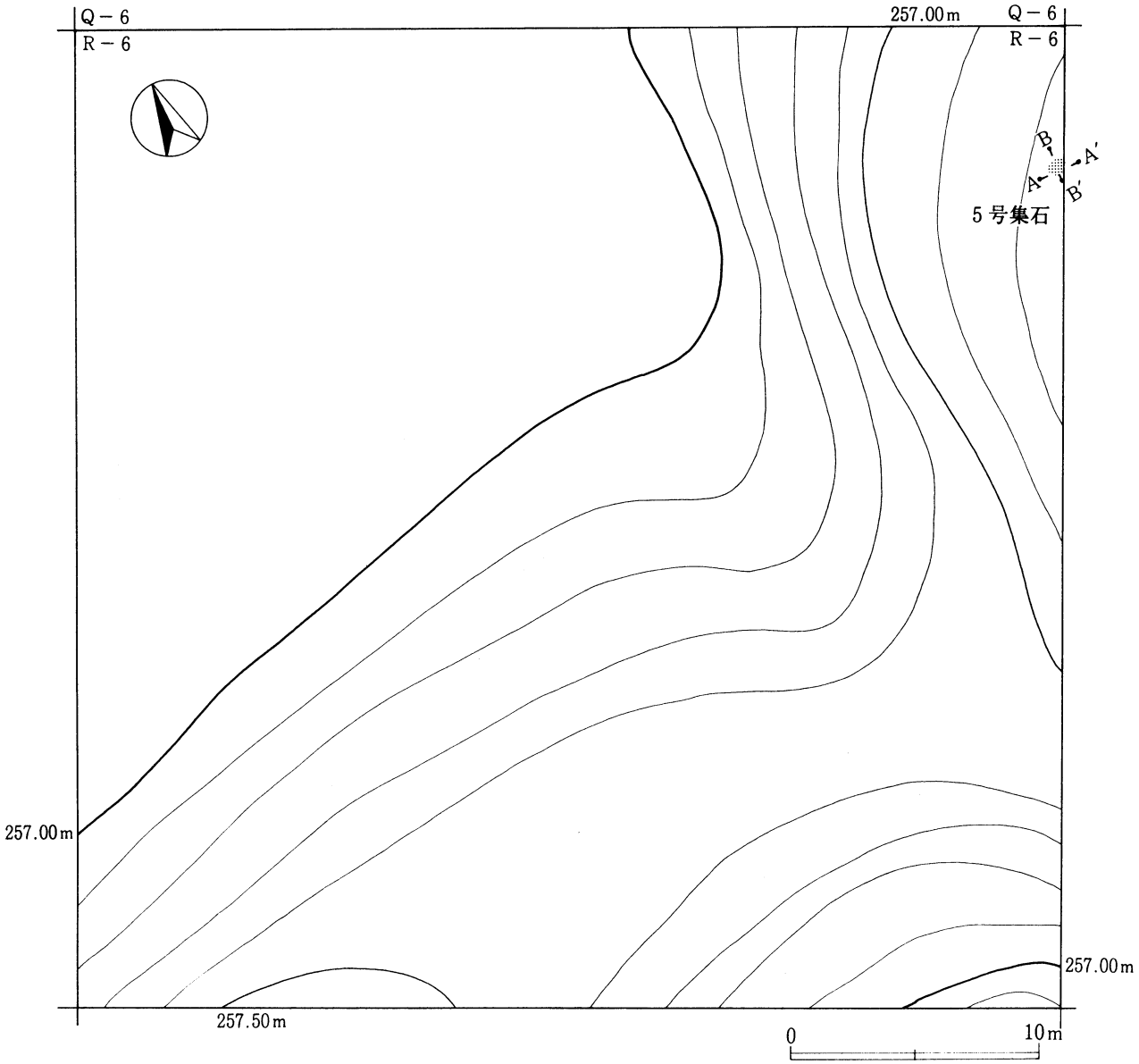
4号集石



第5図　集石遺構2（S－5区）

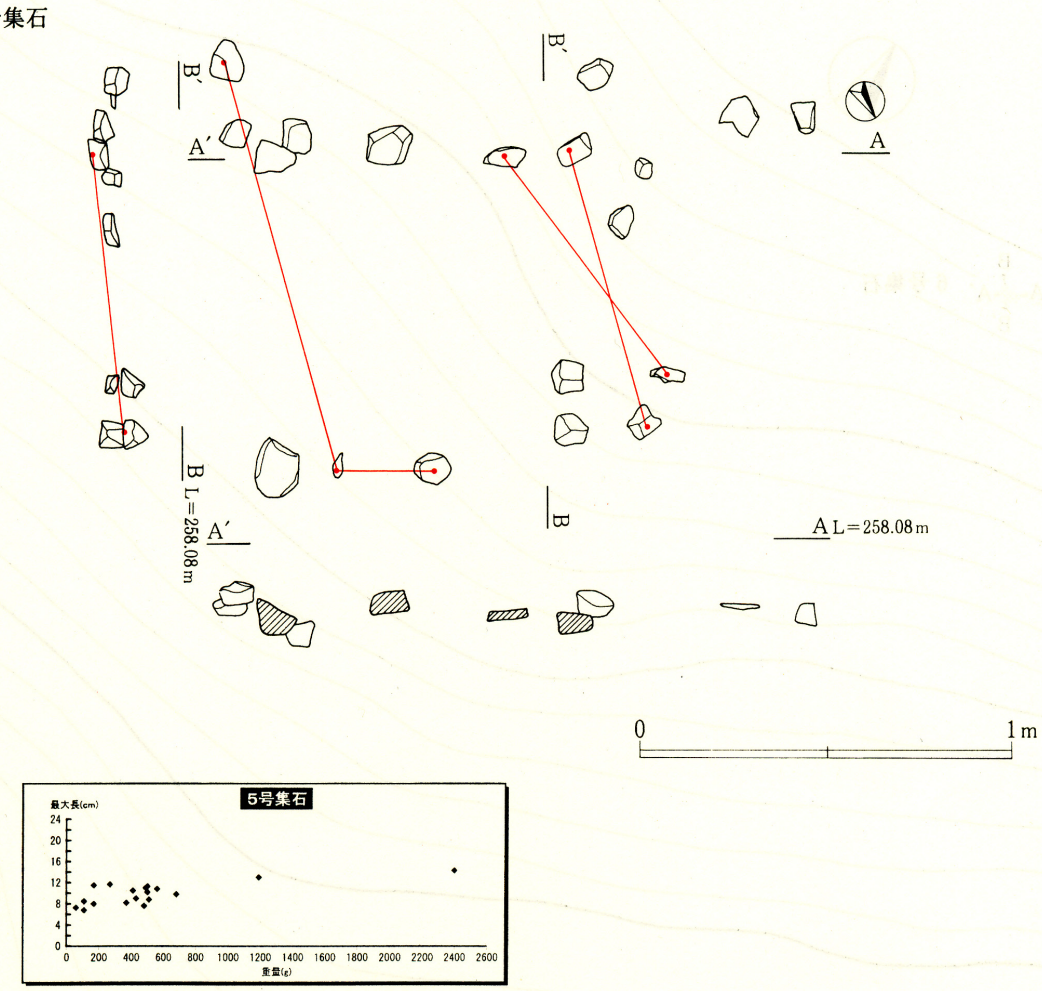


第6図　集石遺構3（S－5区）



第7図　R－6区集石遺構配置図

5号集石	大きさ	163*124		出土層	Ⅵ
総礫数	19	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	60号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	60	2400	430	514.7	9780
最大長(cm)	6.8	14.3	9.8	9.8	



第８図　集石遺構４（Ｒ－６区）

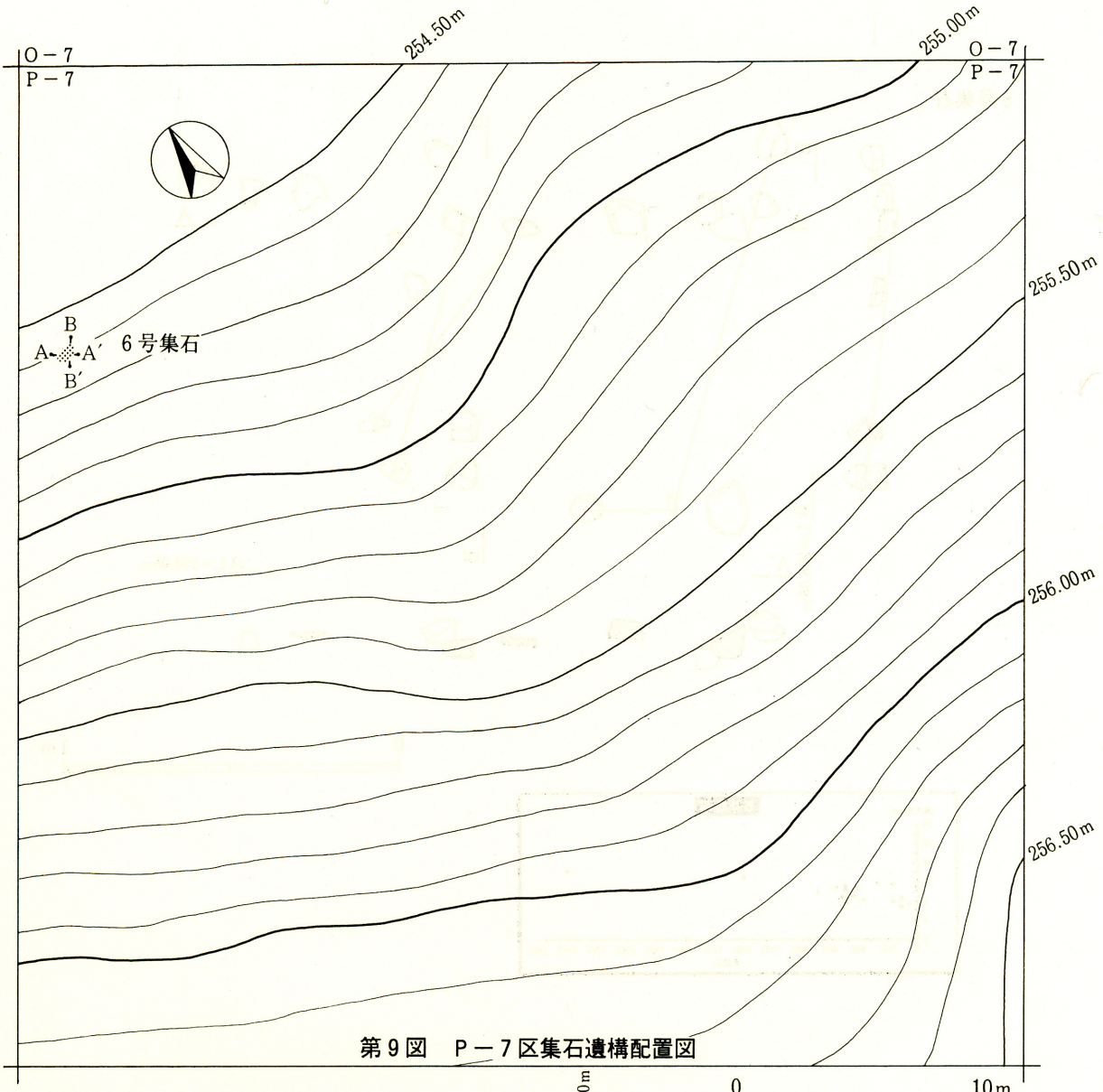
Ｒ－５，Ｓ－５，Ｒ－６区

この区の集石遺構は，Ⅰ類型に属するか，Ⅱ＋Ⅰ類型に属する。その中で，Ｓ－５区２号集石は，構成礫の集中部が明瞭に把握できる集石遺構である。集石内接合を行った結果，集中部を構成する礫と，周辺部に散布する礫との接合が認められた。これは，周辺部に散布する礫が元は同じ遺構を構成していた事実を示すものである。

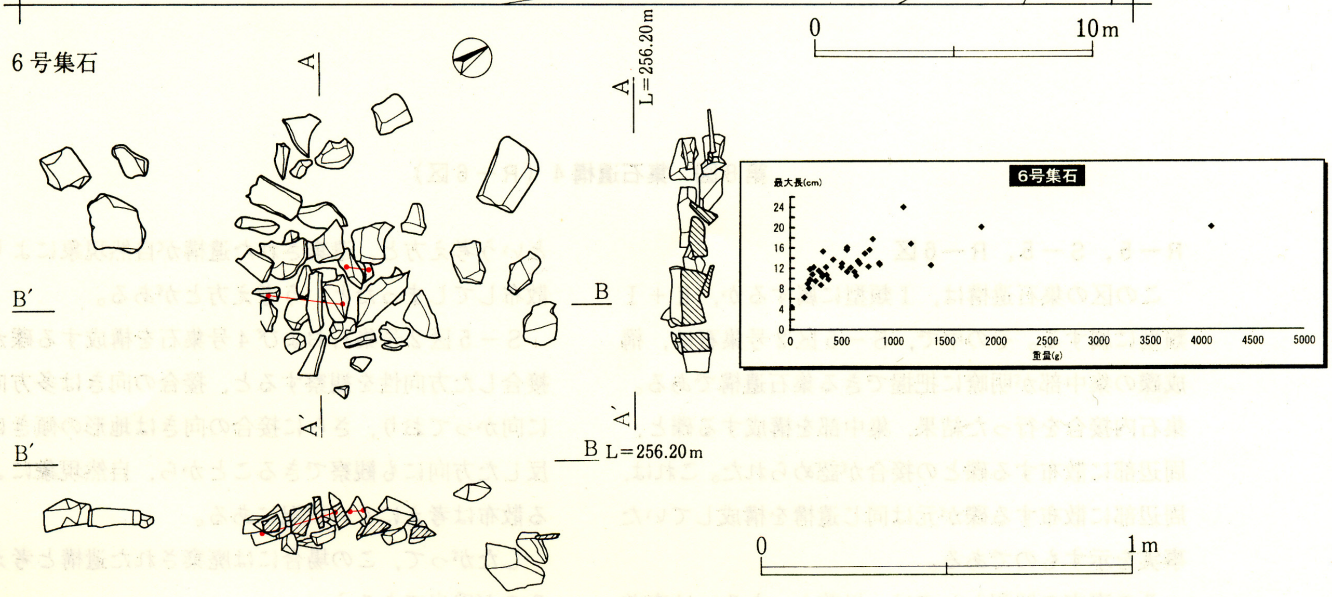
その事実の解釈としては，以前か，あるいは直前に構成礫がすでに散布状態にあり遺構が廃棄されたという考え方と，遺棄された遺構が自然現象により散布してしまったという考え方とがある。

Ｓ－５区２号集石および４号集石を構成する礫が接合した方向性を観察すると，接合の向きは多方向に向かっており，さらに接合の向きは地形の傾きに反した方向にも観察できることから，自然現象による散布は考えにくい状況にある。

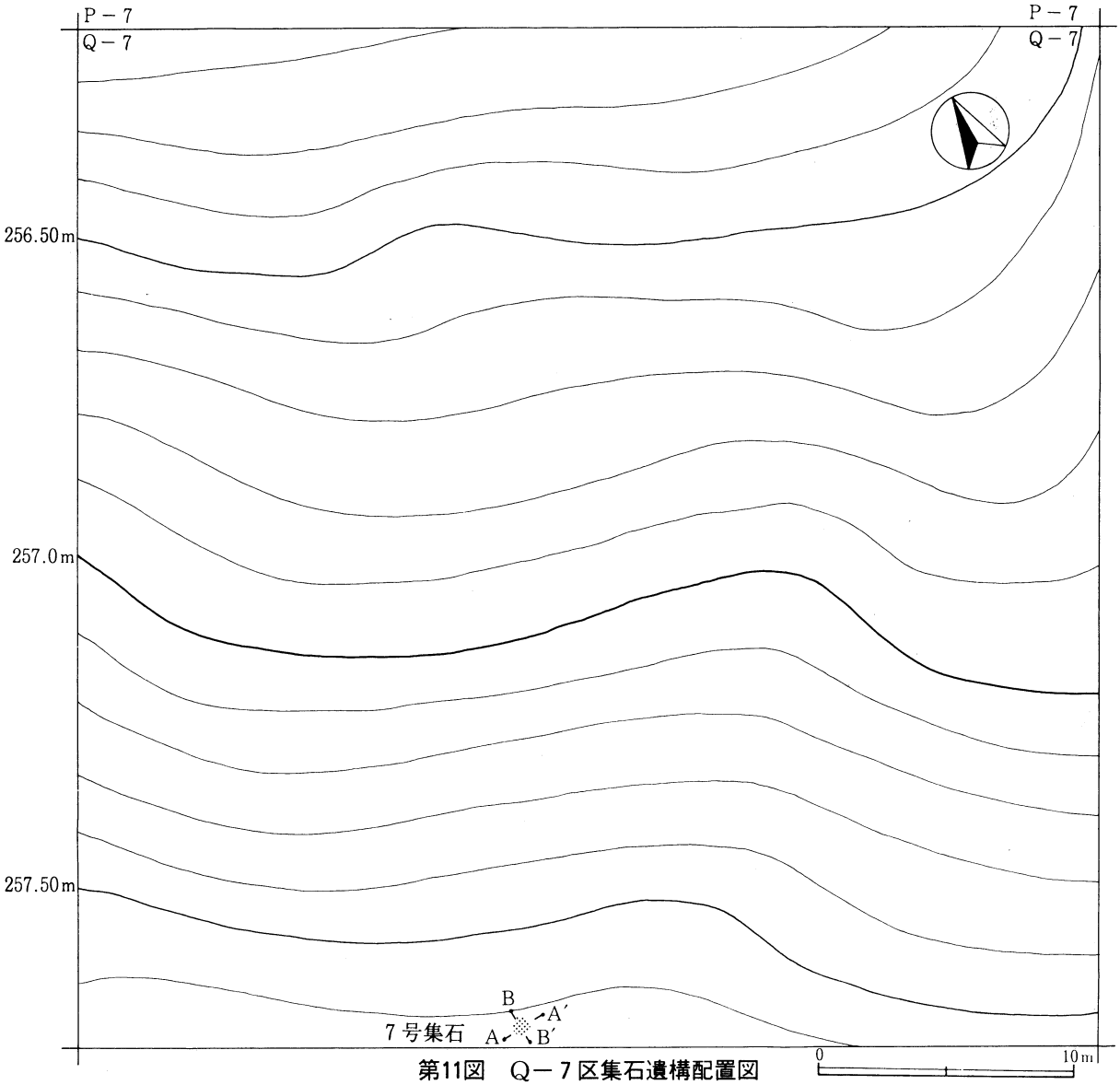
したがって，この場合には廃棄された遺構と考えるのが妥当であろう。



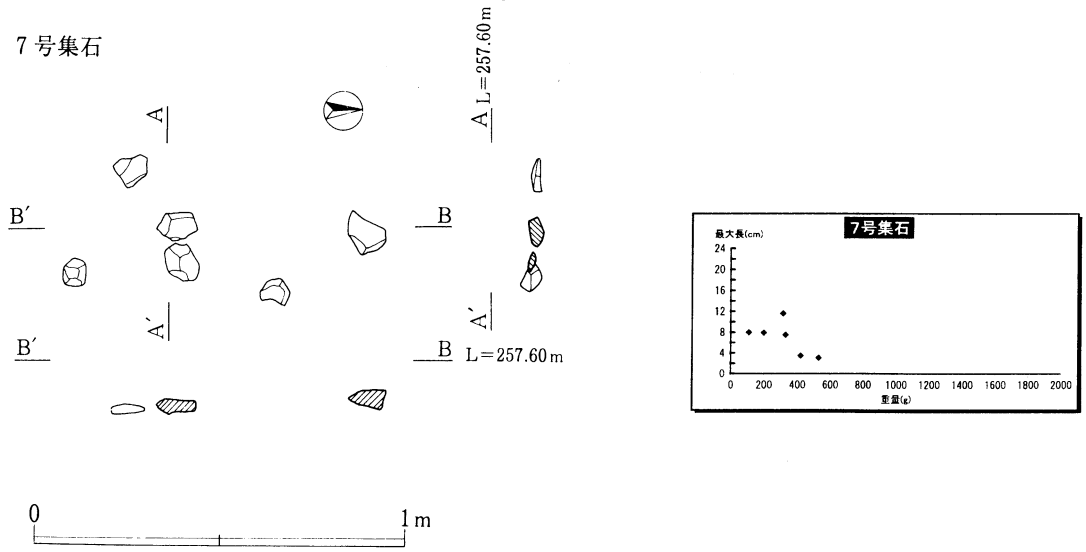
第９図　Ｐ－７区集石遺構配置図



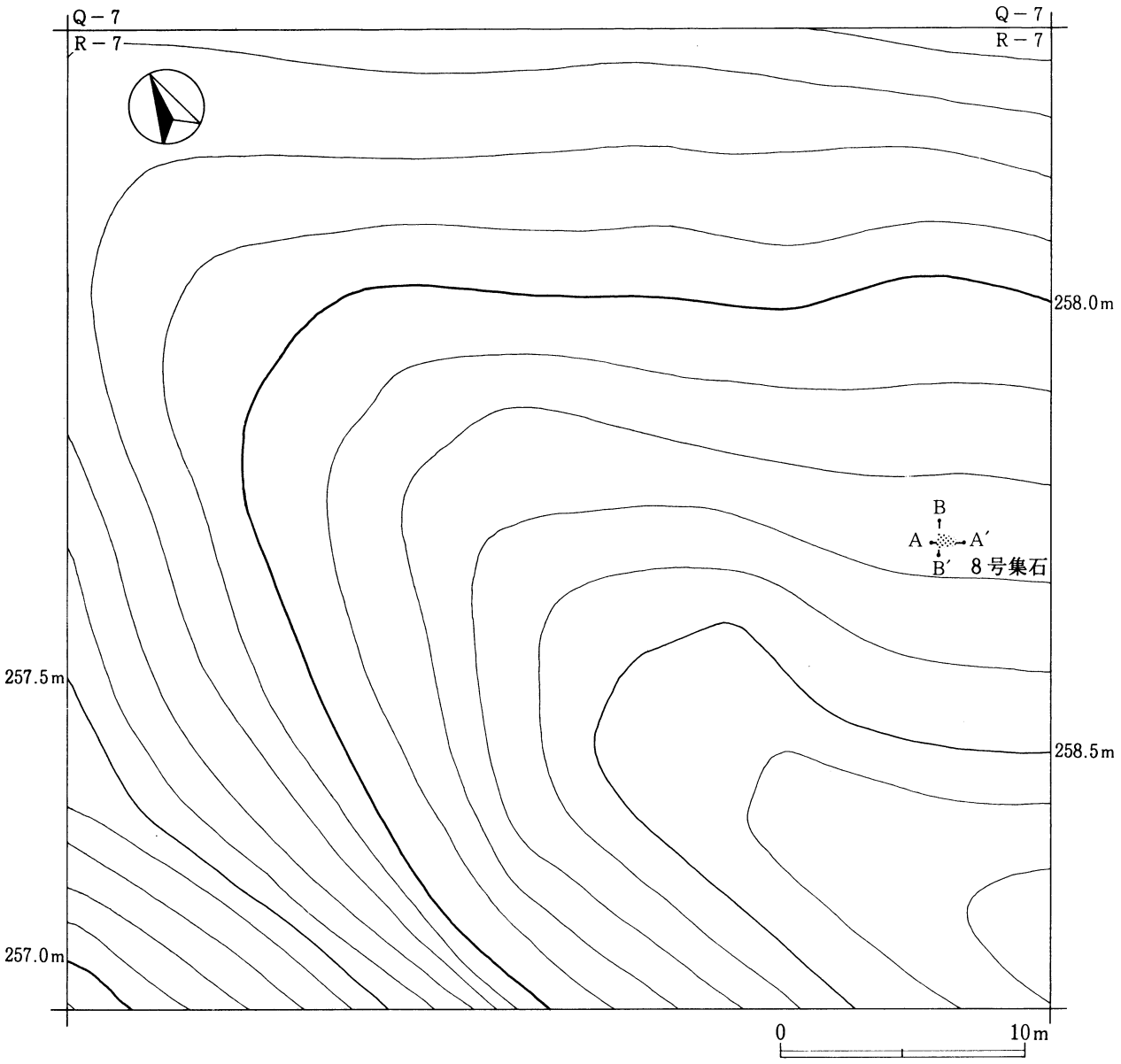
第10図　集石遺構５（Ｐ－７区）



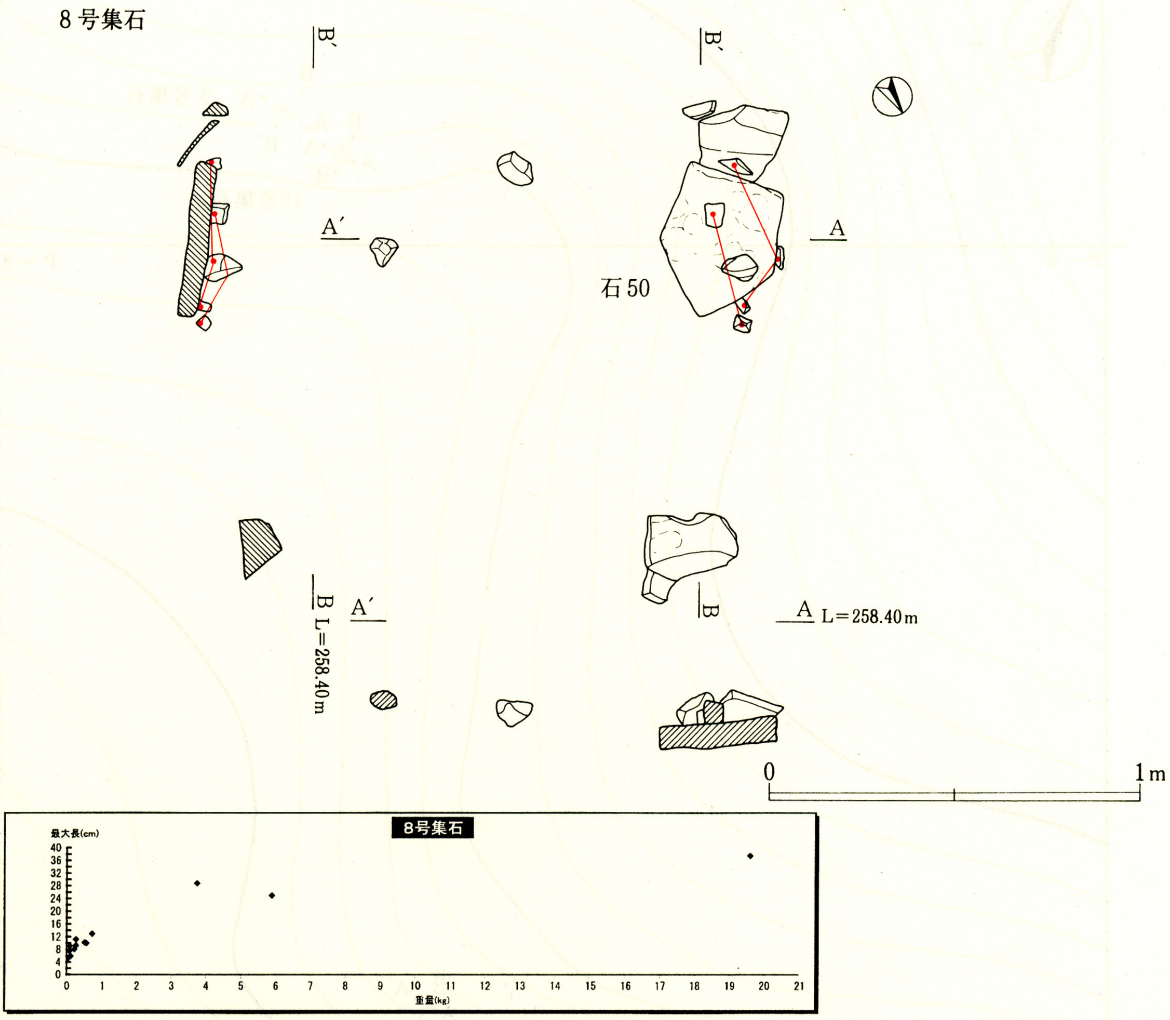
第11図　Q－7区集石遺構配置図



第12図　集石遺構6（Q－7区）



第13図　R－7区集石遺構配置図

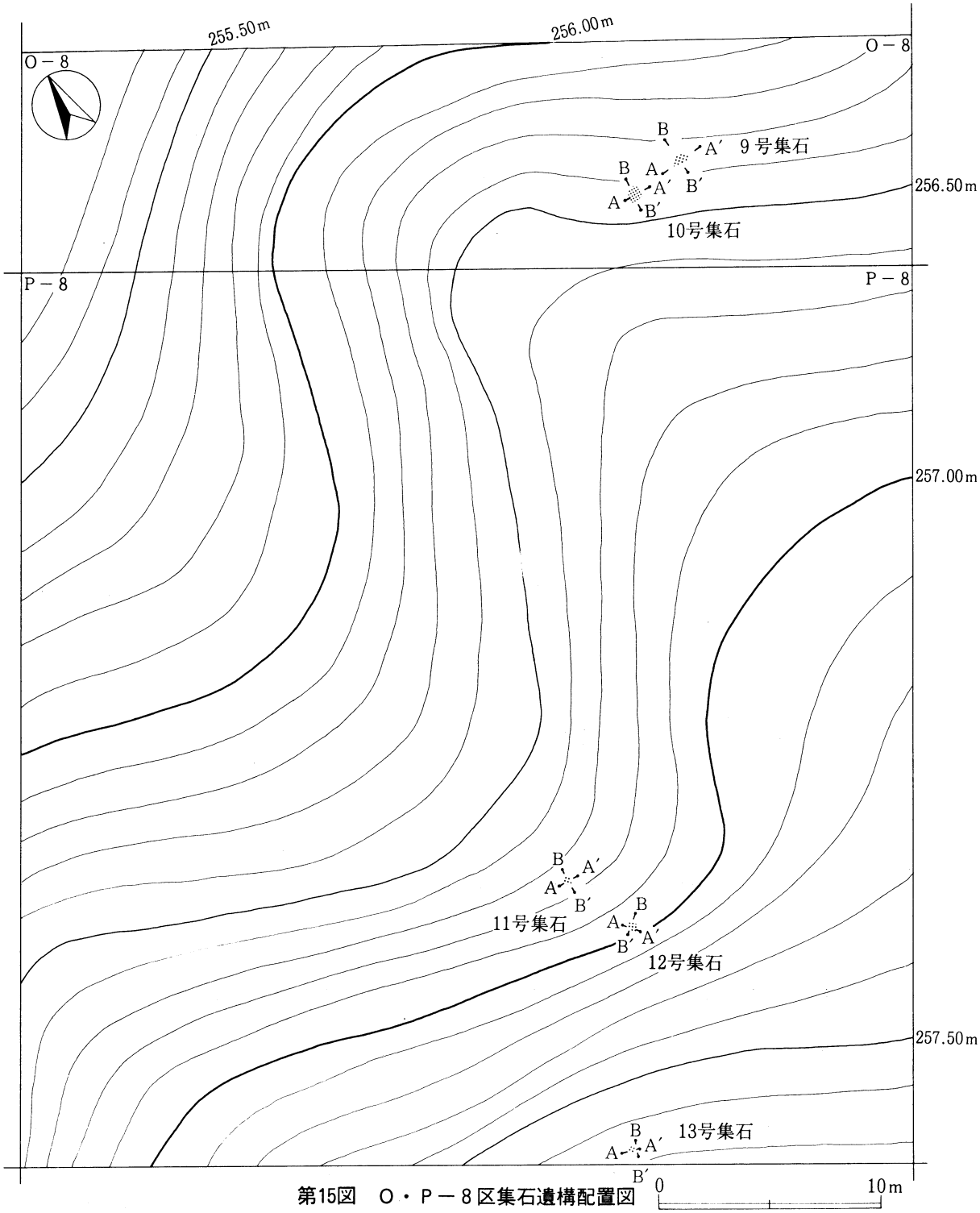


第14図　集石遺構７（Ｒ－７区）

6号集石	大きさ	140*83		出土層	
総礫数	40	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	87号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	20	4100	502.5	626.7	25067
最大長(cm)	4.4	24	12.2	12.6	

7号集石	大きさ	88*40		出土層	Ⅶ
総礫数	6	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	52号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	110	530	322.5	317.5	1905
最大長(cm)	3.1	11.6	7.7	6.9	

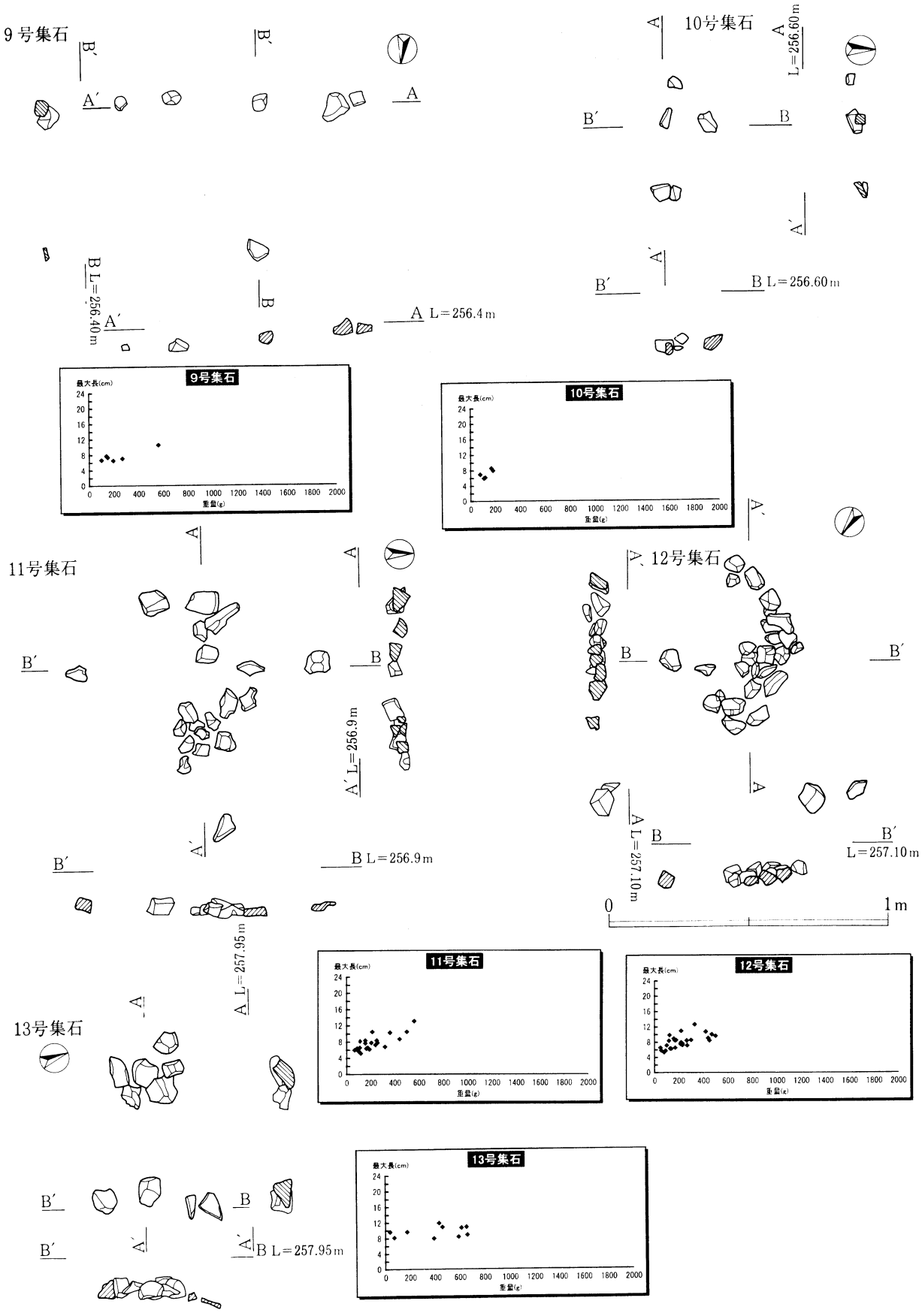
8号集石	大きさ	135*113		出土層	
総礫数	13	類　型	Ⅴ　類　型	取上集石番号	32号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	55	19600	275	2478.1	32215
最大長(cm)	5.3	37.5	10	13.9	



第15図　O・P－8区集石遺構配置図

9号集石	大きさ	91*62		出土層	Ⅶ
総礫数	6	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	37号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	100	560	172.5	235.8	1415
最大長(cm)	6.6	10.5	7.25	7.7	

10号集石	大きさ	46*24		出土層	Ⅶ
総礫数	5	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	38号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	80	185	120	133	665
最大長(cm)	6	8.6	7	7.2	

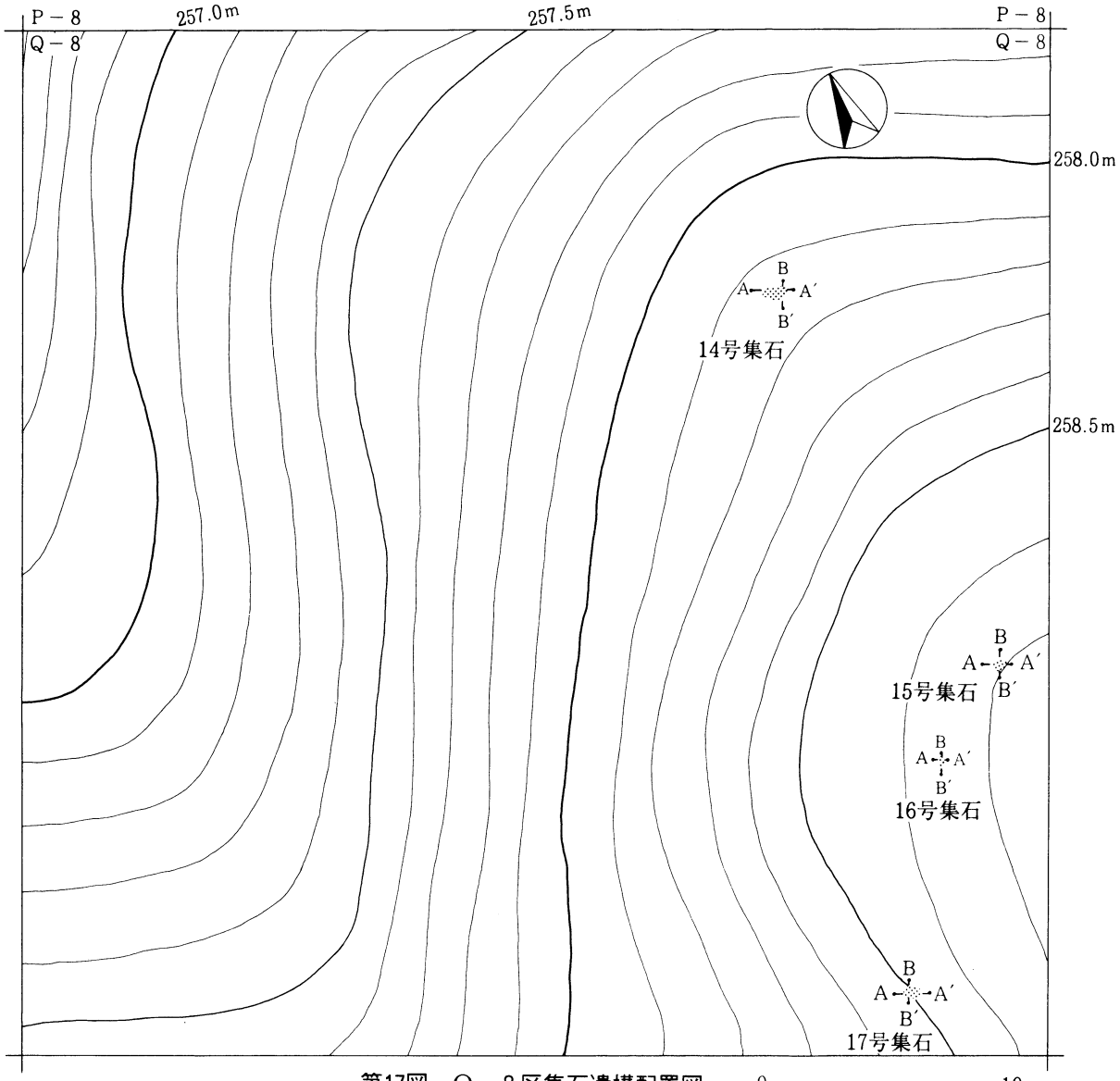


第16図　集石遺構８（Ｏ・Ｐ－８区）

11号集石	大きさ	92*68		出土層	
総礫数	21	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	86号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	67	560	190	227.4	4776
最大長(cm)	5.2	13.1	7.7	7.8	

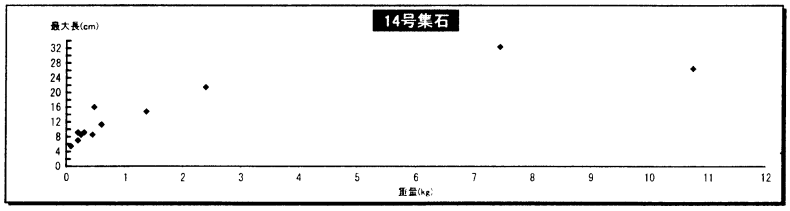
12号集石	大きさ	94*76		出土層	Ⅶ
総礫数	28	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	85号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	50	500	197.5	225	6299
最大長(cm)	5.4	12.7	8.45	8.2	

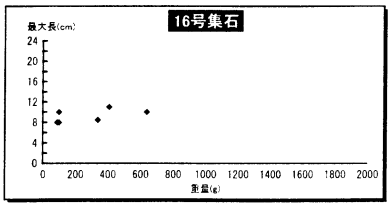
13号集石	大きさ	69*48		出土層	Ⅵ
総礫数	10	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	84号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	38	660	446.5	408.5	4085
最大長(cm)	8	11.9	9.7	9.7	

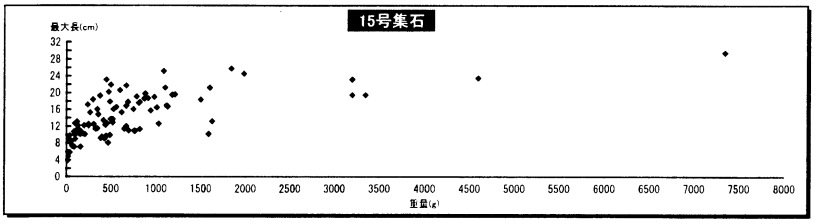


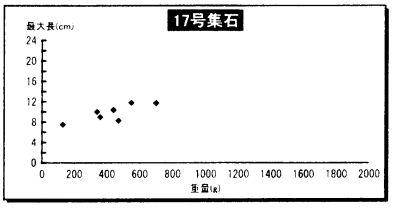
第17図　Q－8区集石遺構配置図

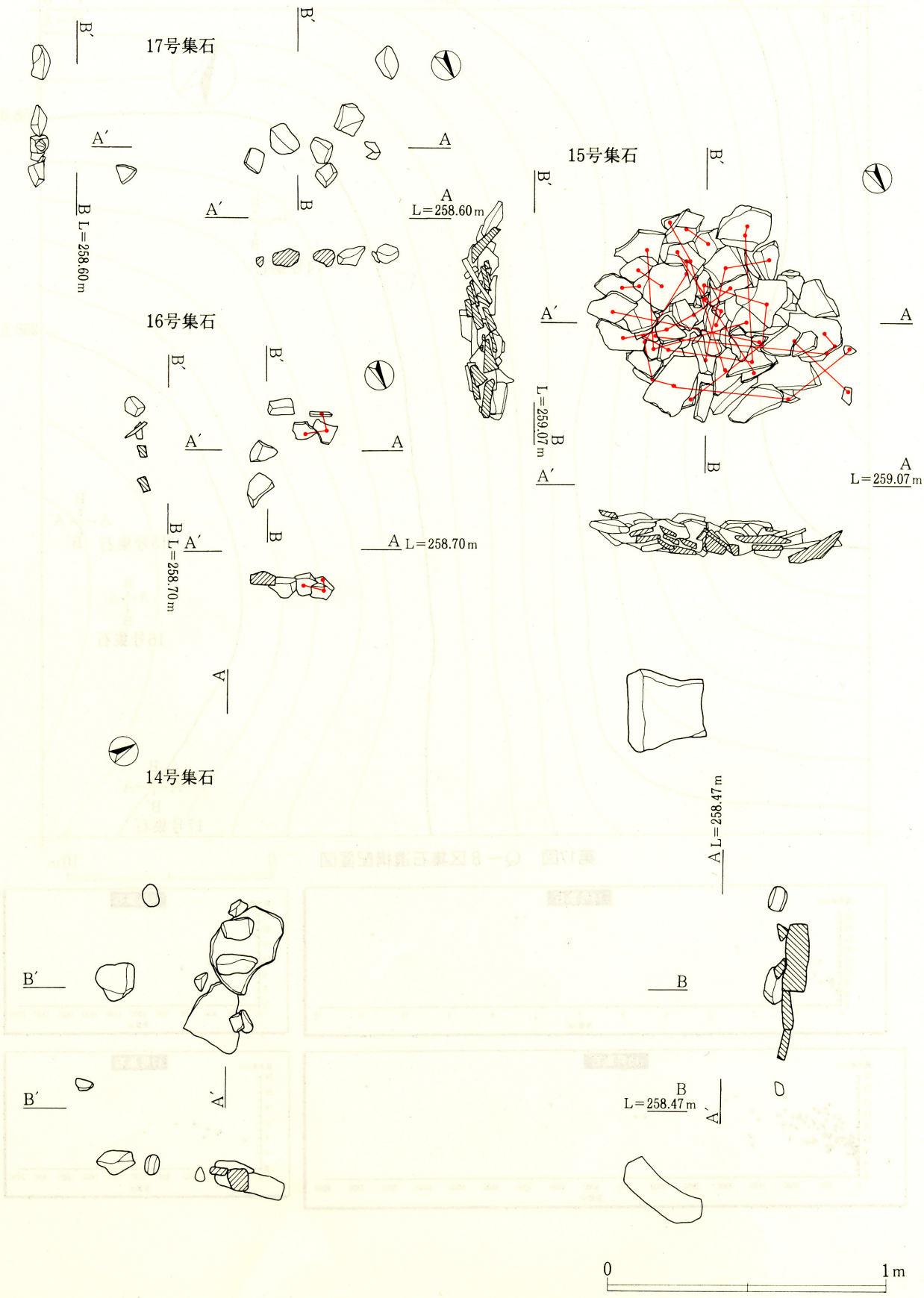
0　10m











第18図　集石遺構10（Q－8区）

14号集石	大きさ	76*74		出土層	Ⅶ
総礫数	12	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	58号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	80	10750	465	2045	24540
最大長(cm)	5.5	32.4	10.25	14.2	

15号集石	大きさ	100*90	92*84*16	出土層	Ⅵ
総礫数	78	類　型	Ⅲ　類　型	取上集石番号	54号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	10	1985	430	522.9	40790
最大長(cm)	3.8	25.8	13.25	14.2	

16号集石	大きさ	40*4		出土層	Ⅶ
総礫数	6	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	56号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	90	640	220	280	1680
最大長(cm)	8	11	9.25	9.3	

17号集石	大きさ	104*51		出土層	Ⅶ
総礫数	7	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	57号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	130	700	440	427.1	2990
最大長(cm)	7.5	11.8	10	9.8	

Q－8区：

Q－8区の集石遺構で注目できるのは15号集石である（第18図）。構成礫のほとんどが板状に割れた，安山岩の角礫で構成されていた。板状の礫を外側から順次内側へ重ねながら敷き詰めている。集石遺構の断面では掘り込みラインはほとんど観察できなかったが，礫の敷き詰め方から予測すると，初めにわずかな深さの掘り込みを掘った後に，礫を積み重ねたと考えられる。そこで15号集石をⅢ類型に帰属させた。

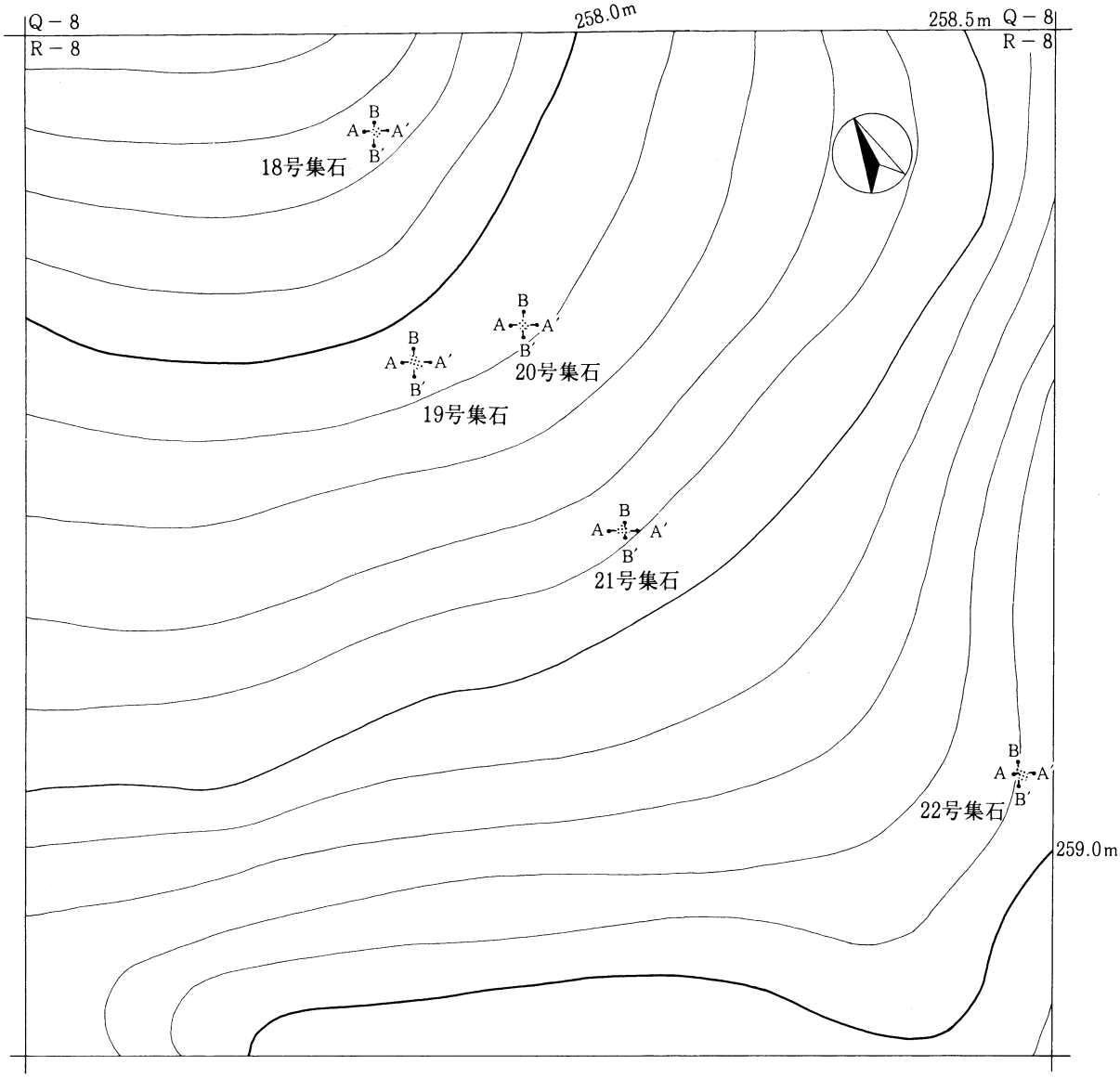
構成礫を観察すると，ほとんどの礫が赤褐色あるいは黄褐色に変色している。これは被熱が原因と考えられる。

また，構成礫の集石内接合を行った結果，接合したグループが9グループに分かれること，集石遺構の上部から検出された礫と下部から検出された礫とが接合したこと，などが成果であった。

以上のことから15号集石の構成礫は，15号集石として構成される前に集石遺構に使われ熱を受けながら破損してもなお，再利用され，最終的に15号集石として遺棄された可能性が考えられる。

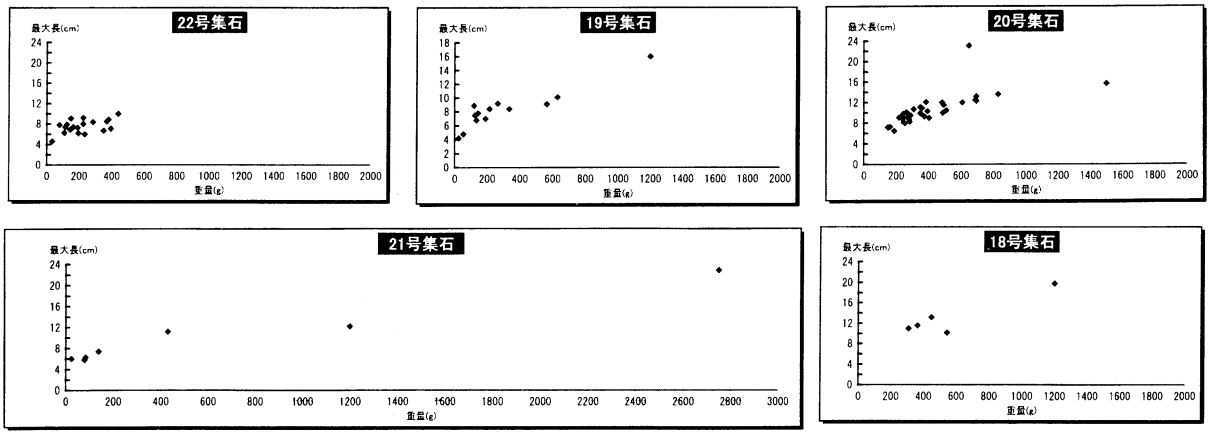
一方，14号集石も注目できる遺構である。大きな板状の礫が2個体出土したが，その周囲から出土した礫は少ない。掘り込みは確認できなかった。典型的なⅤ類型の集石遺構である。この14号集石を構成する大きな礫は，Ⅳ類型の集石遺構において底石にあたる礫と考えられる。この集石遺構では，炭化物は確認できなかったものの，構成礫の中には赤褐色に変色した礫があり，被熱が原因と考えられる。

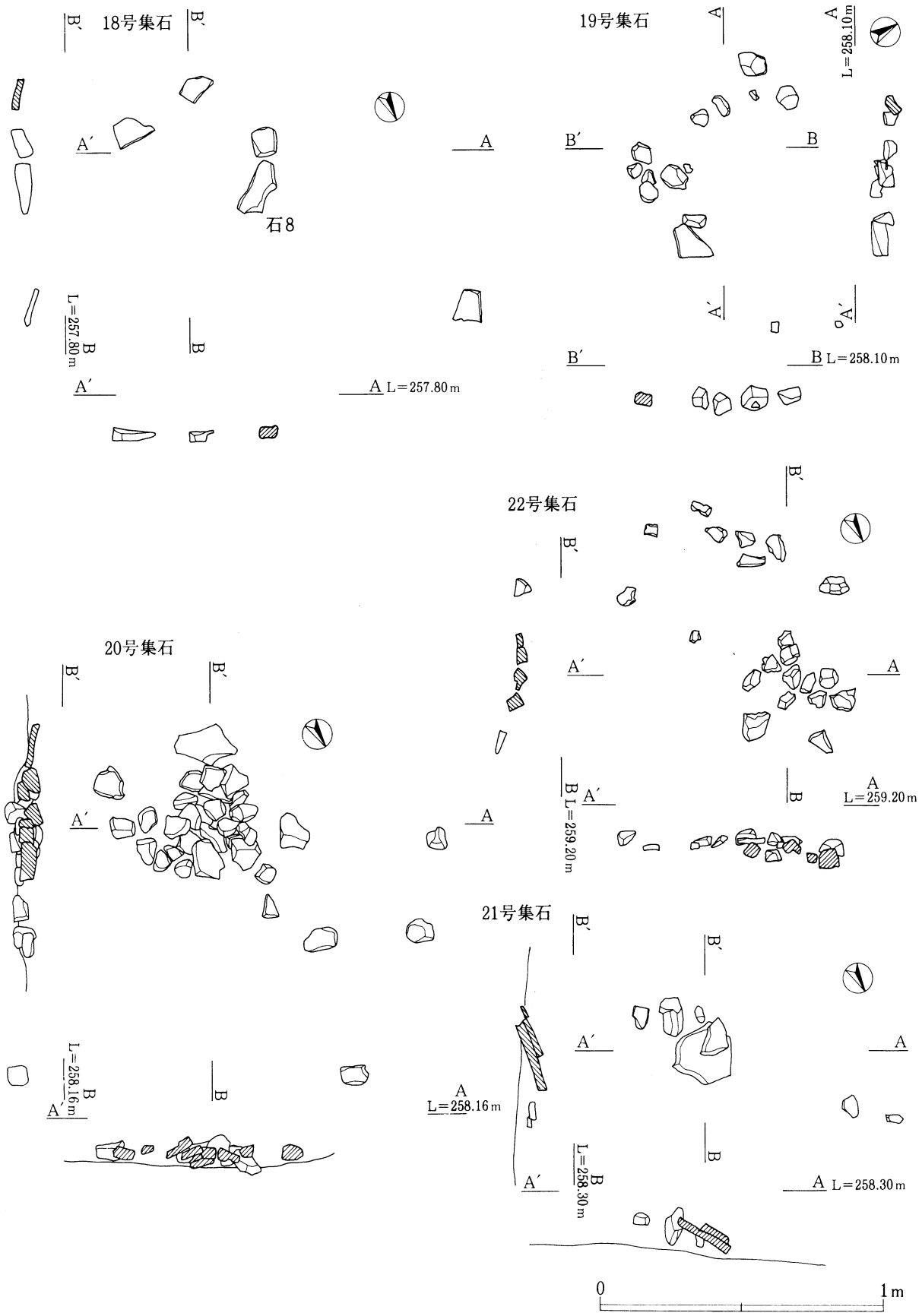
16号集石と17号集石とは共にⅠ類型に属する。数個の角礫で遺構を構成する。明瞭な炭化物は見られないが，構成礫の中には赤褐色に変色した礫が検出しており，被熱が原因と考えられる。



第19図　R－8区集石遺構配置図

0　10m





第20図　集石遺構11（R－8区）

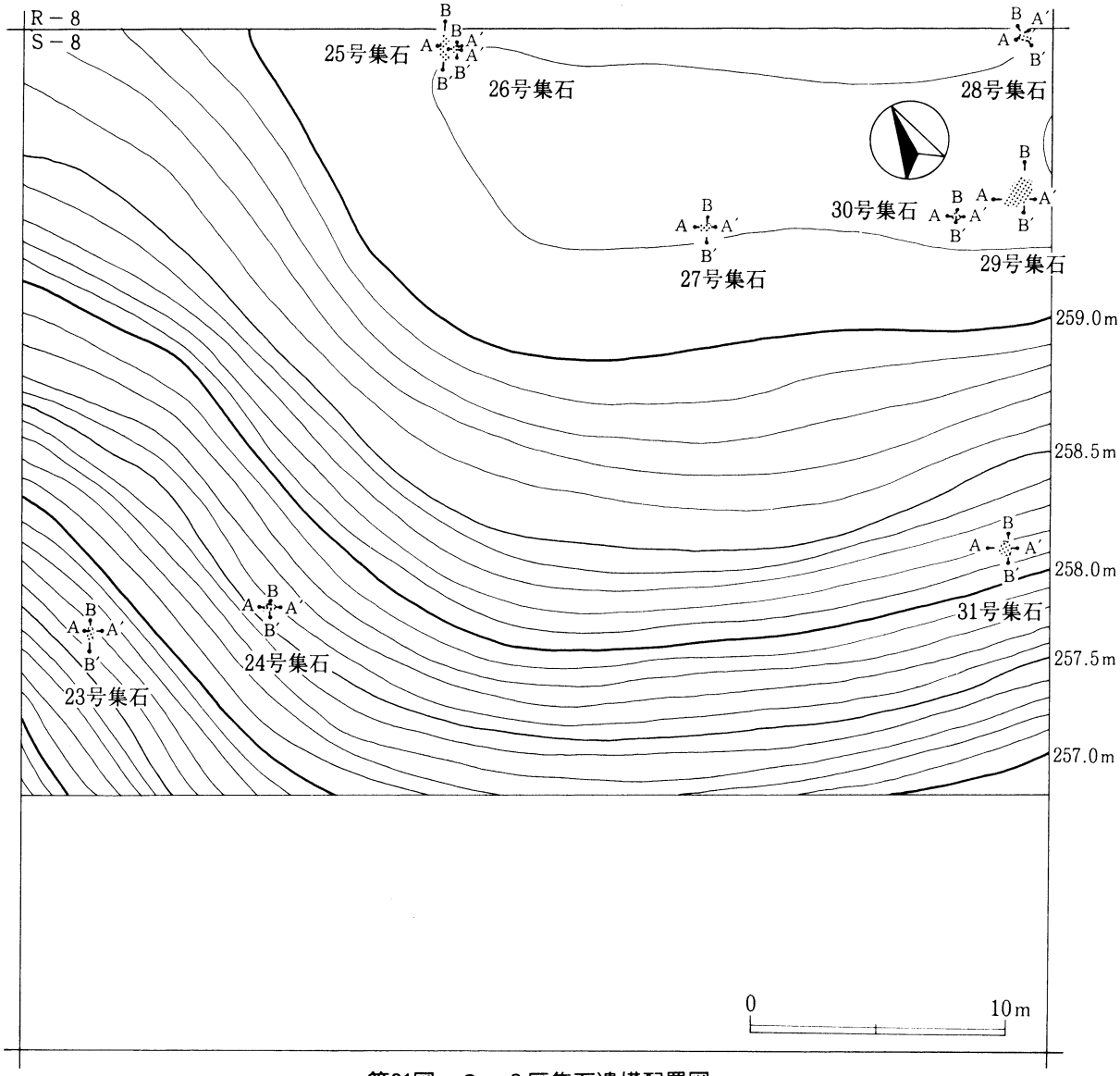
18号集石	大きさ	130*90		出土層	
総礫数	5	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	28号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	310	1200	450	574	2870
最大長(cm)	10.2	19.8	11.6	13.2	

19号集石	大きさ	74*61		出土層	
総礫数	13	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	29号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	25	1200	190	308.1	4005
最大長(cm)	4.2	16	8.4	8.3	

20号集石	大きさ	128*126		出土層	Ⅶ
総礫数	33	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	30号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	150	1500	350	422.1	13930
最大長(cm)	6.5	23.1	10	10.6	

21号集石	大きさ	96*44		出土層	
総礫数	7	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	31号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	25	2750	140	672.9	4710
最大長(cm)	5.8	22.9	7.4	10.3	

22号集石	大きさ	100*84		出土層	
総礫数	20	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	1号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	35	440	192.5	218.3	4365
最大長(cm)	4.6	10	7.4	7.5	

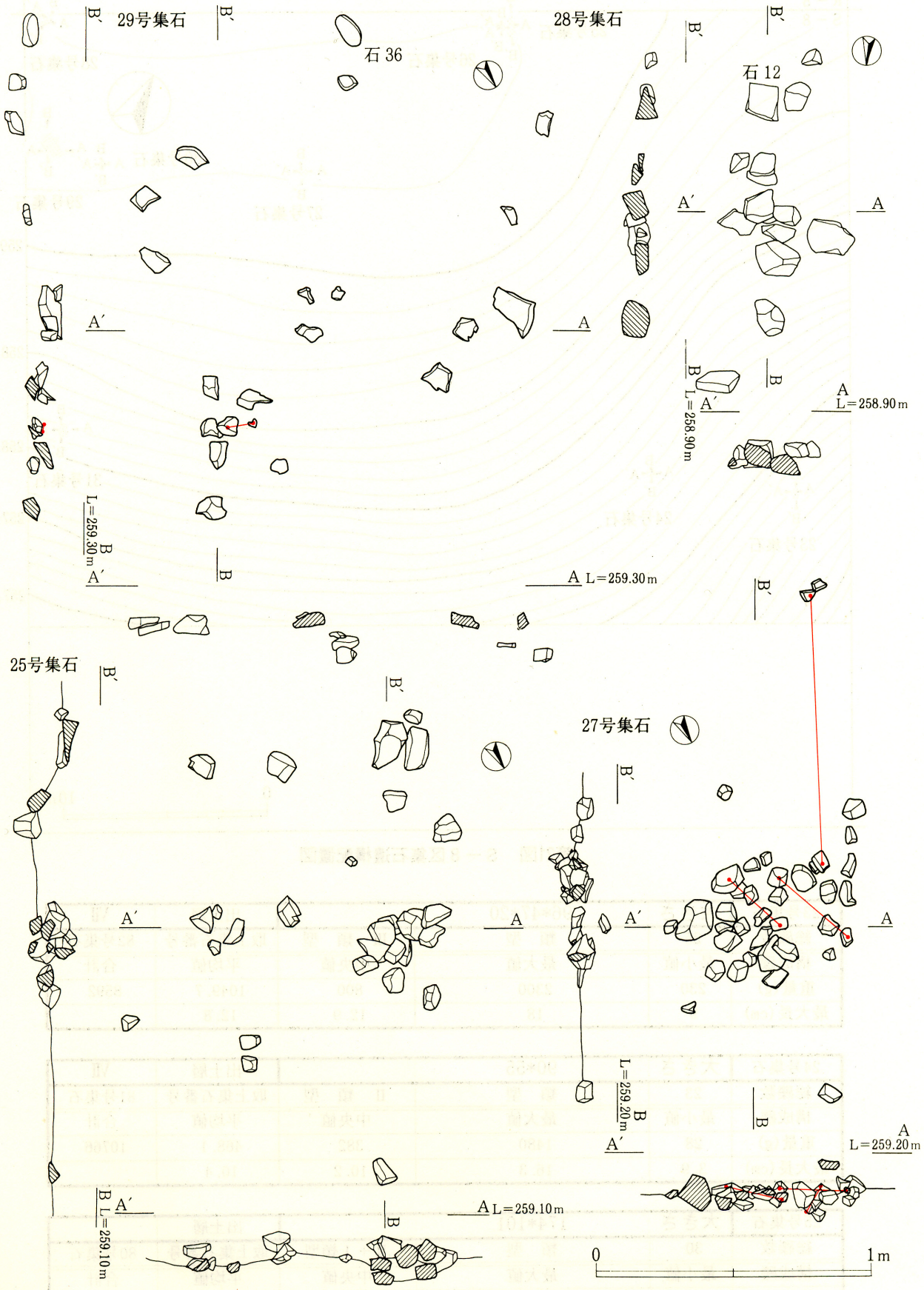


第21図　S－8区集石遺構配置図

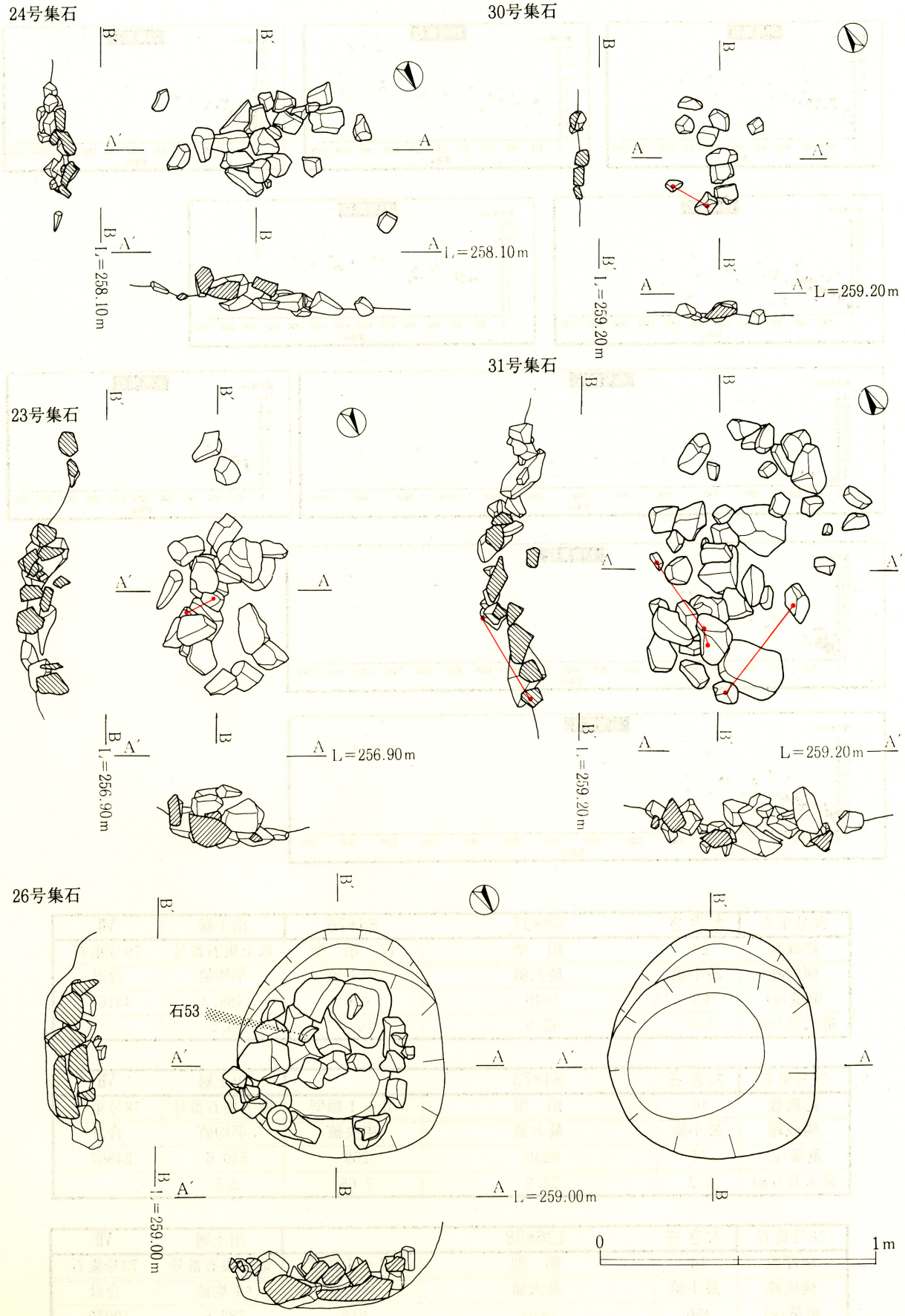
23号集石	大きさ	96*47*20		出土層	Ⅶ
総礫数	25	類　型	Ⅲ　類　型	取上集石番号	82号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	230	2300	800	1049.7	8592
最大長(cm)	9	18	12.9	12.8	

24号集石	大きさ	90*55		出土層	Ⅶ
総礫数	23	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	81号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	28	1480	382	468.1	10766
最大長(cm)	3.9	16.3	10.2	10.4	

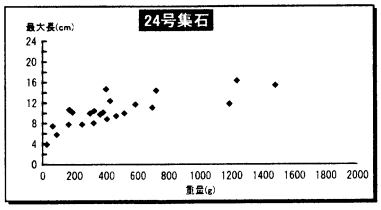
25号集石	大きさ	174*101		出土層	
総礫数	30	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	80号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	30	1940	329	484.5	14536
最大長(cm)	4.4	14.8	8.4	8.6	

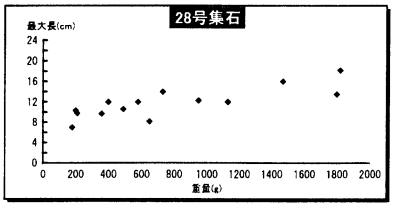


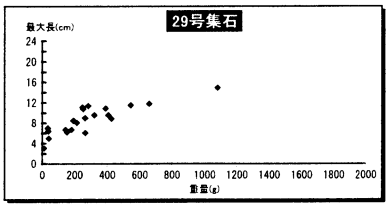
第22図　集石遺構12（S－8区）

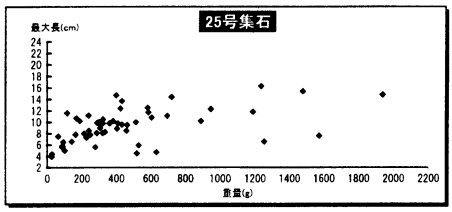


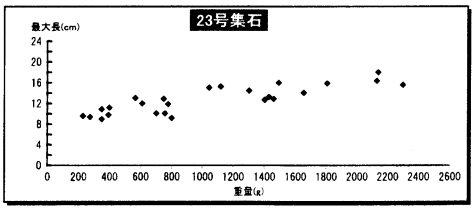
第23図　集石遺構13（S－8区）

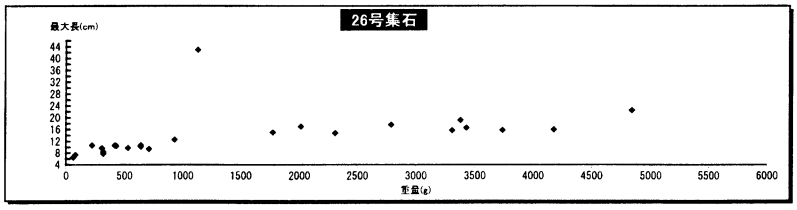


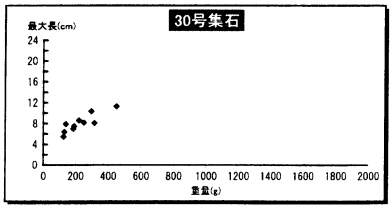


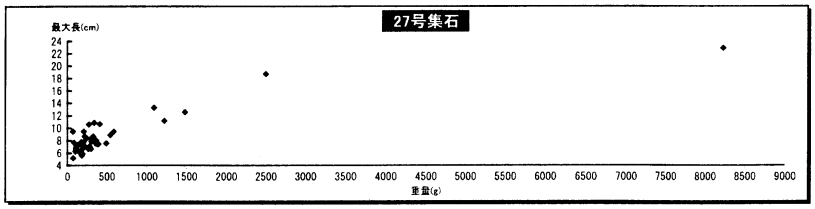


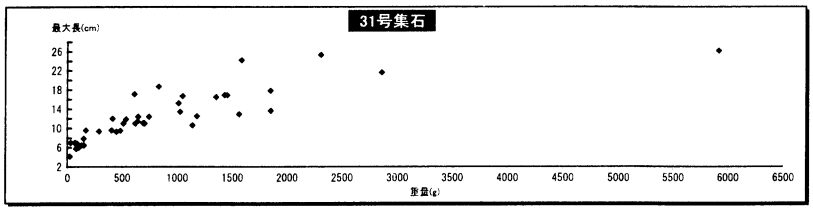












26号集石	大きさ	58*37	84*76	出土層	Ⅶ
総礫数	29	類　型	Ⅳ　類　型	取上集石番号	79号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	65	4840	640	1488.3	43161
最大長(cm)	5.5	42.9	10.6	13.2	

27号集石	大きさ	84*73		出土層	Ⅶ
総礫数	46	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	78号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	73	8230	259	540.6	24867
最大長(cm)	5.2	22.9	7.65	8.5	

28号集石	大きさ	126*58		出土層	Ⅶ
総礫数	14	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	73号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	180	1820	615	783.6	10970
最大長(cm)	7	18.2	12	11.8	

29号集石	大きさ	195*146		出土層	
総礫数	21	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	７４号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	12	1082	253	294	6174
最大長(cm)	3.1	14.9	8.9	8.7	

30号集石	大きさ	45*30		出土層	Ⅶ
総礫数	10	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	７５号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	125	450	205	230	2300
最大長(cm)	5.5	11.3	8	8.1	

31号集石	大きさ	100*80*24		出土層	Ⅶ
総礫数	40	類　型	Ⅲ　類　型	取上集石番号	７６号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	23	5920	642.5	928.9	37154
最大長(cm)	4.2	26.2	11.65	12.6	

Ｓ－８区：

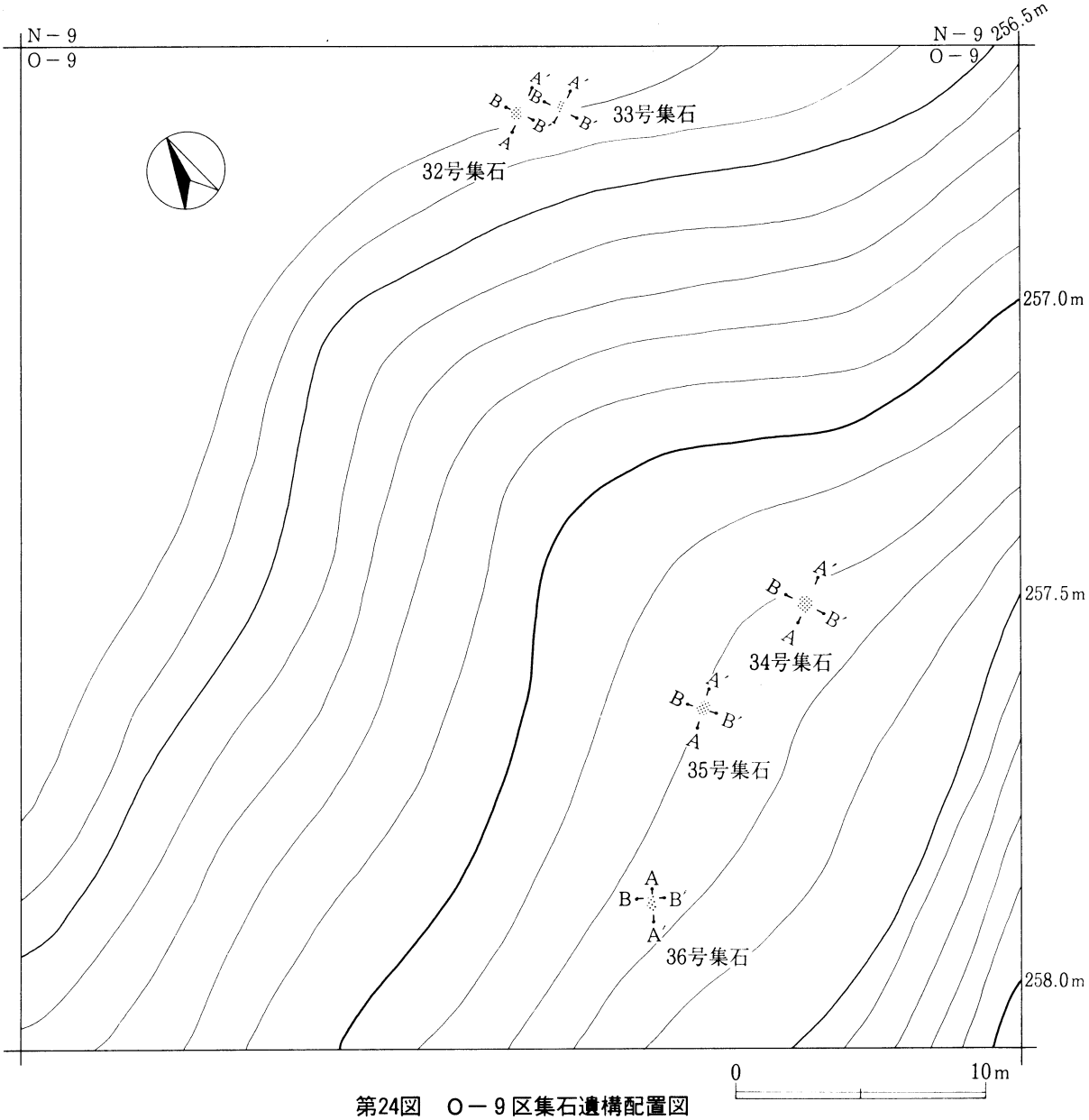
Ｓ－８区で注目できる集石遺構は，26号集石と31号集石である。Ⅲ類型に帰属する31号集石は，直径が10cm後半から20cm大の大きめの角礫を中心に構成された遺構である。

明瞭な土坑や掘り込みなどは確認できなかったが，断面の掘り込みラインは，礫が設置された面であると考えられる。

大きさがこぶし大より小さい構成礫は，破砕した礫や赤色に変色した礫が多く，また炭化物が多量に見つかったことから，熱を受けていると考えられる。

一方，Ⅳ類型に帰属する26号集石はⅦ層で検出された遺構であり，伴う土坑の底面はⅨ層に達している。構成礫が土坑下部のみで出土するタイプの遺構であった。厚さが厚い板状の石を底石にして，他の構成礫とかみ合わせながら，構築しているのが観察できた。

また，土坑の最下面に設置した底石を取り上げると，底石の下に埋土が観察できたことは，この集石遺構が何度も構築し直されたことの証佐として重要である。

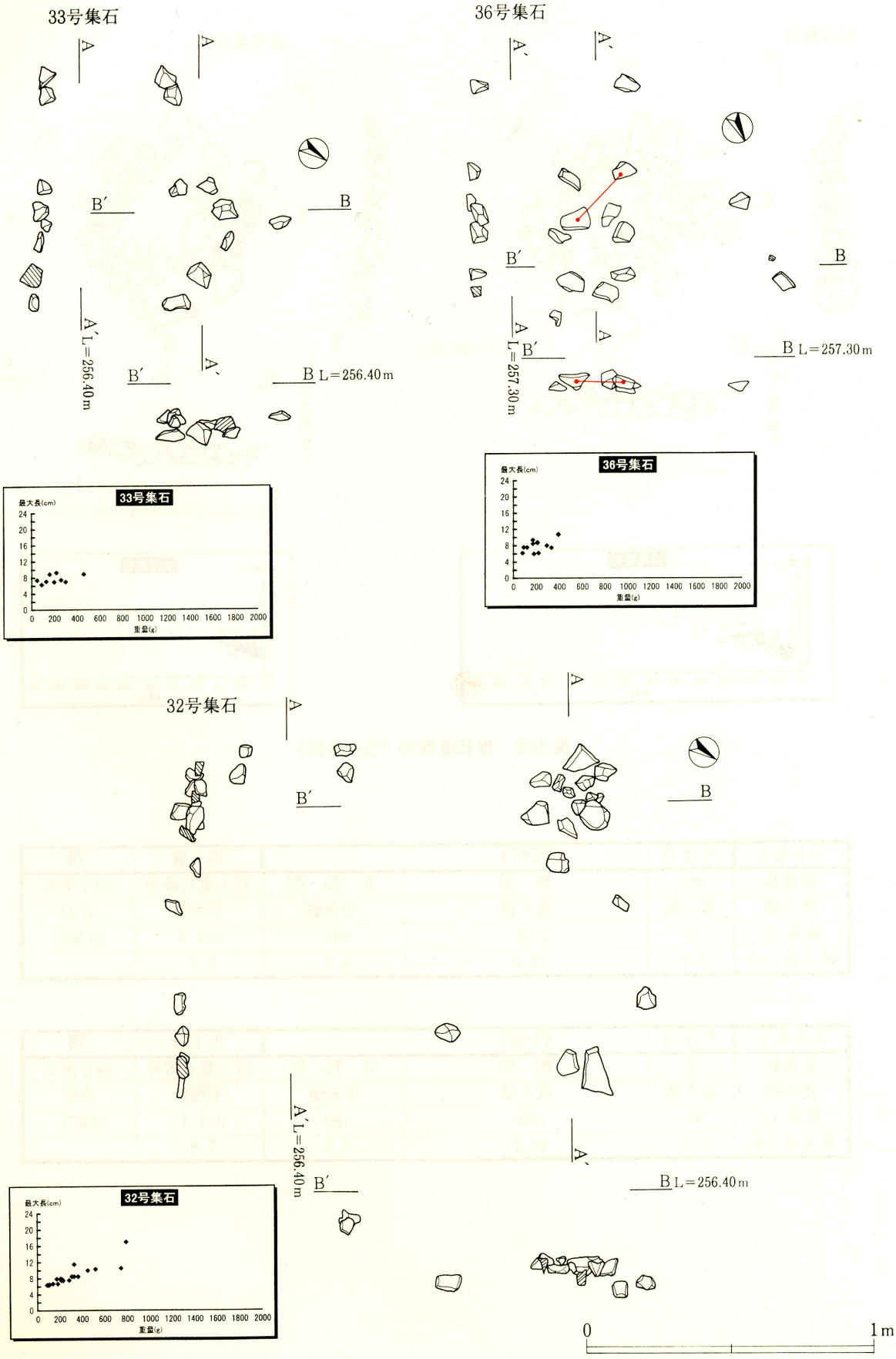


第24図　O－9区集石遺構配置図

32号集石	大きさ	125*47		出土層	Ⅶ
総礫数	19	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	35号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	89	790	232	305.6	5806
最大長(cm)	6.4	17	7.9	8.6	

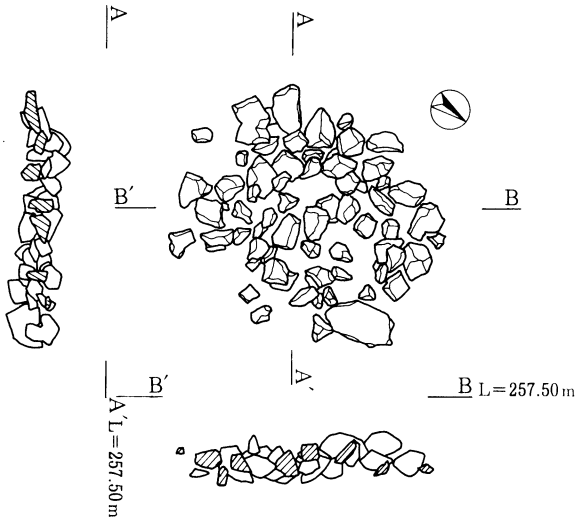
33号集石	大きさ	87*48		出土層	Ⅶ
総礫数	9	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	36号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	50	460	200	207.8	1870
最大長(cm)	6.3	9.3	7.4	7.7	

36号集石	大きさ	88*64		出土層	Ⅶ
総礫数	13	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	64号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	80	390	210	219.2	2850
最大長(cm)	6	10.8	8	8.2	

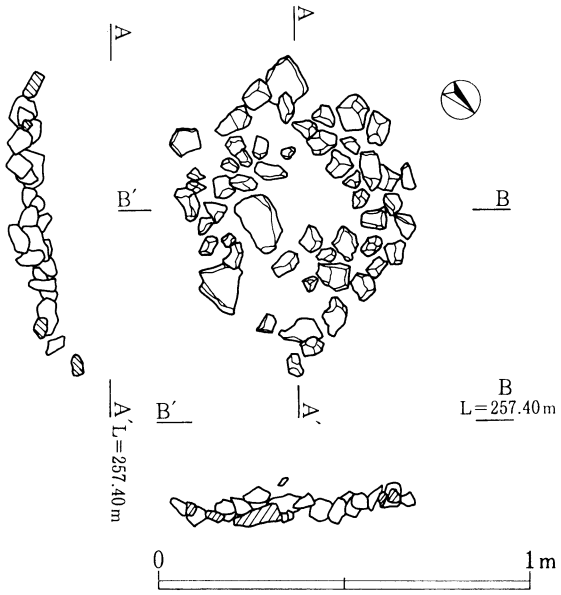


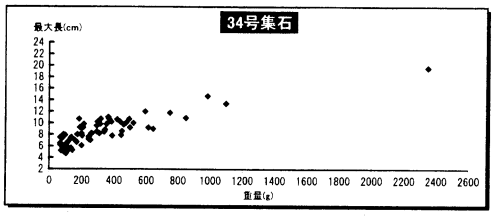
第25図　集石遺構14（O－9区）

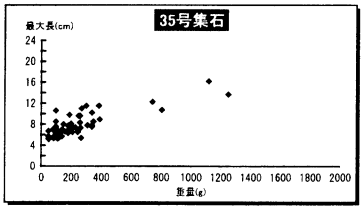
34号集石



35号集石



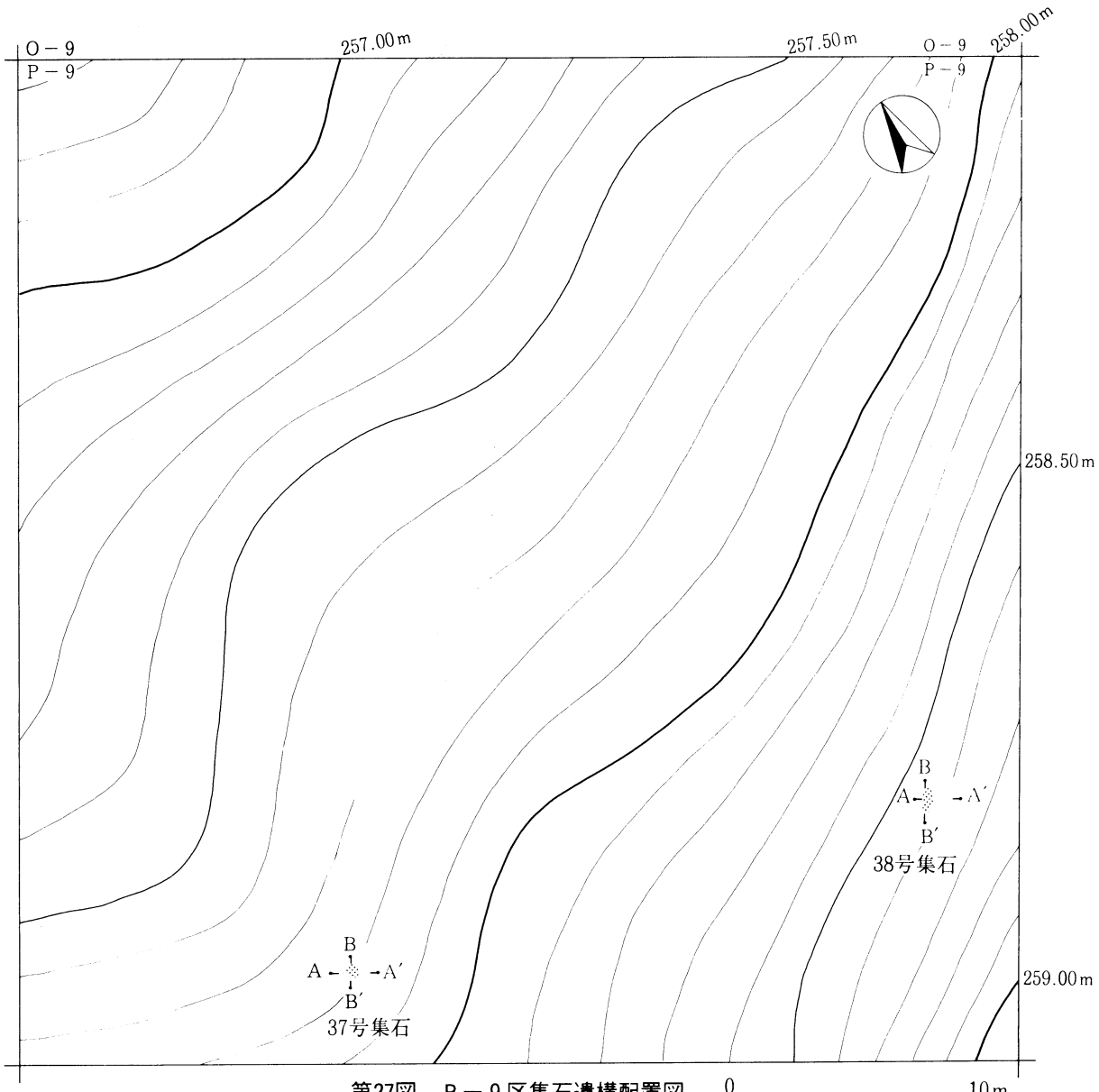




第26図　集石遺構15（O－9区）

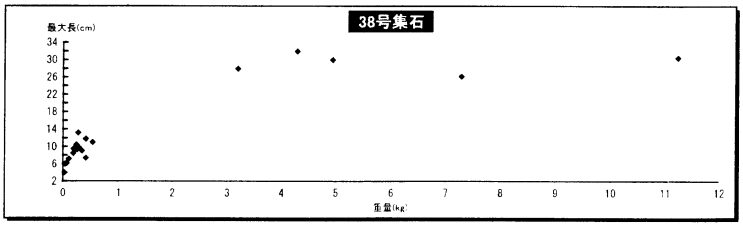
34号集石	大きさ	75*71		出土層	Ⅶ
総礫数	69	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	33号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	70	2350	245	323.3	22305
最大長(cm)	4.7	19.6	8.2	8.5	

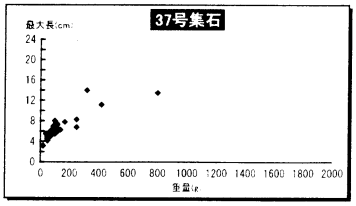
35号集石	大きさ	87*67		出土層	Ⅶ
総礫数	53	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	34号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	50	1250	180	244.8	12977
最大長(cm)	5.2	16.2	7.3	7.8	



第27図　P－9区集石遺構配置図

0　10m

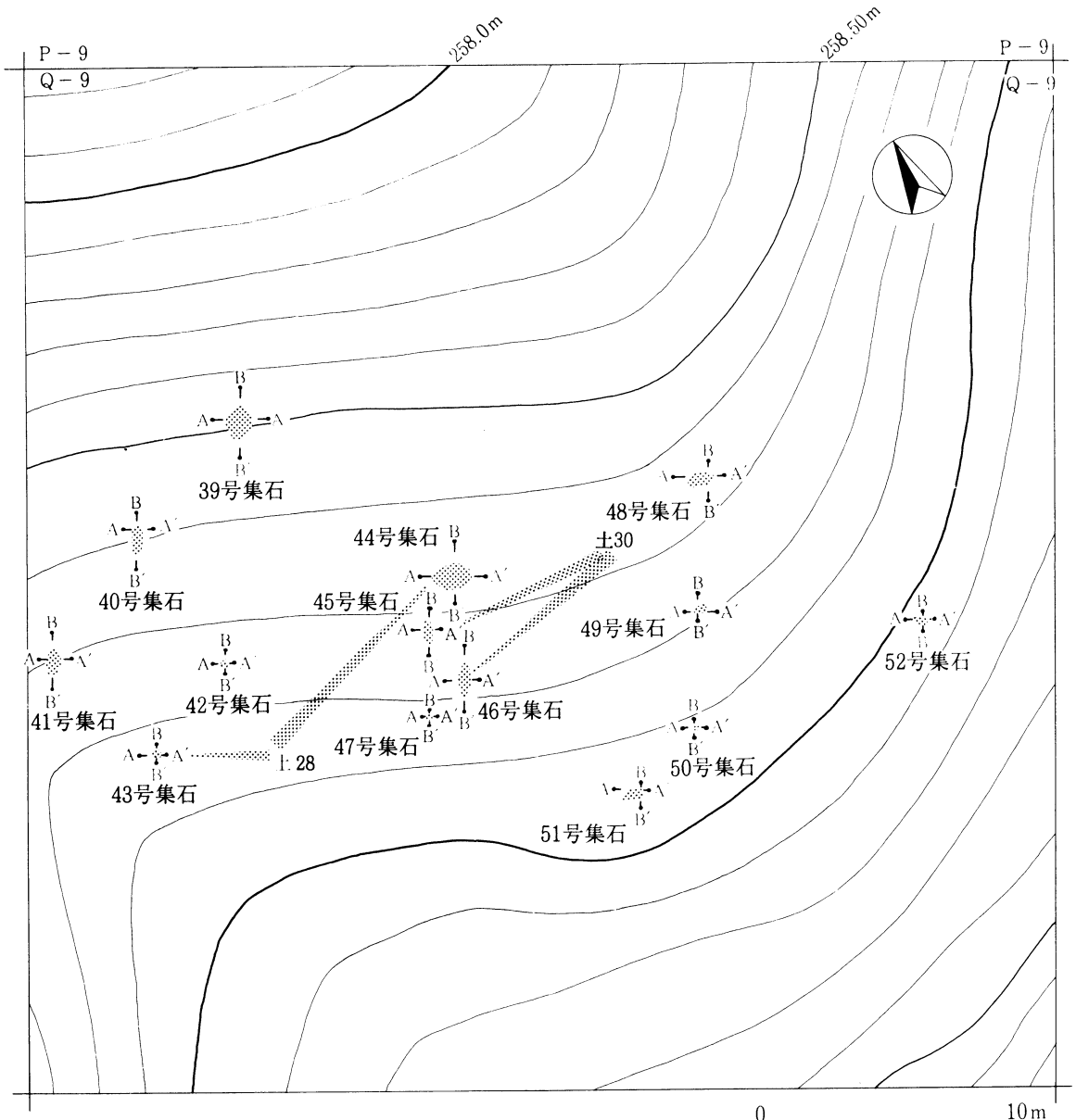




37号集石	大きさ	193*171		出土層	Ⅶ
総礫数	31	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	63号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	20	800	100	137.4	4260
最大長(cm)	3.2	14	6.3	6.7	

38号集石	大きさ	170*64		出土層	Ⅶ
総礫数	20	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	62号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	30	11250	285	1733.5	34670
最大長(cm)	4	32	9.65	14	

第28図　集石遺構16（P－9区）

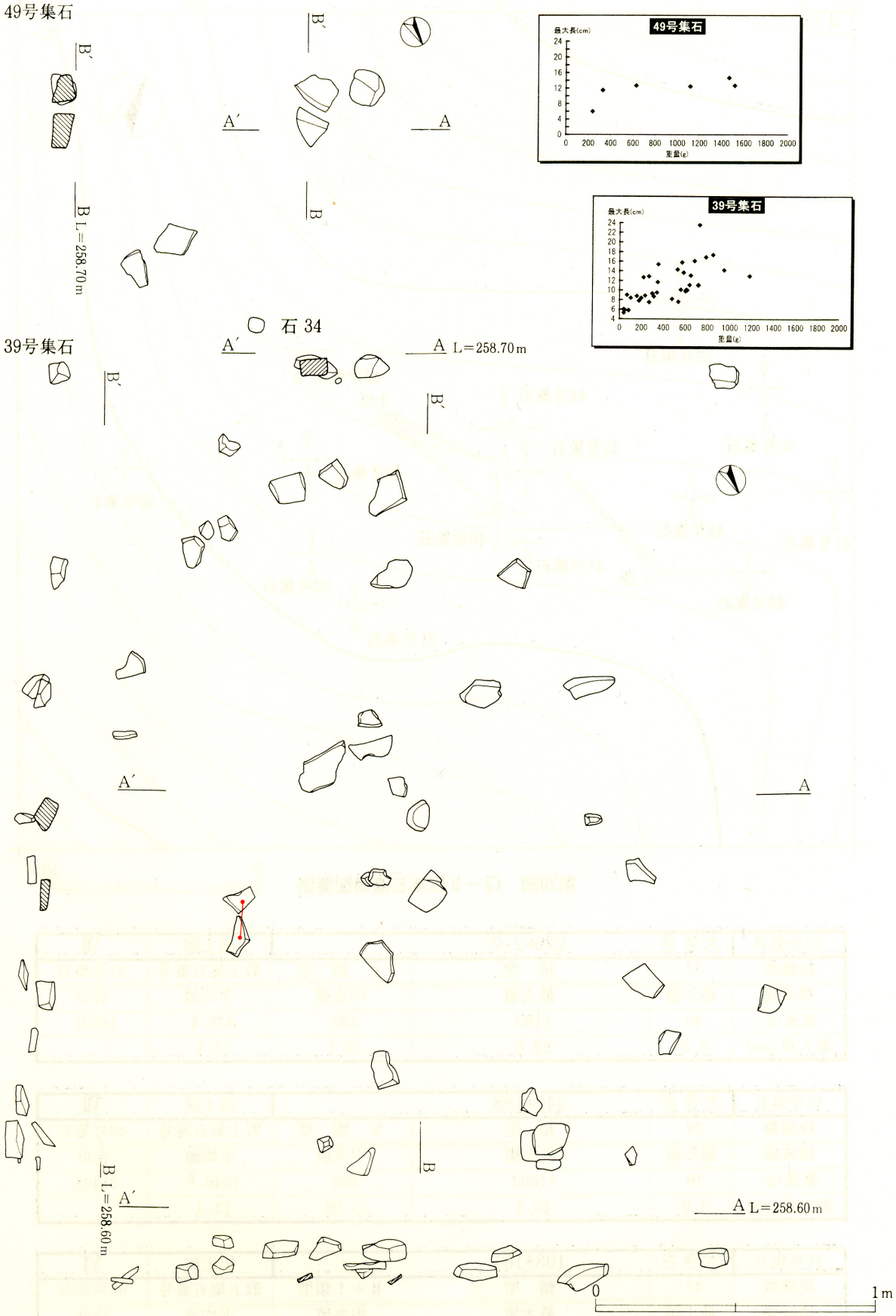


第29図　Q－9区集石遺構配置図

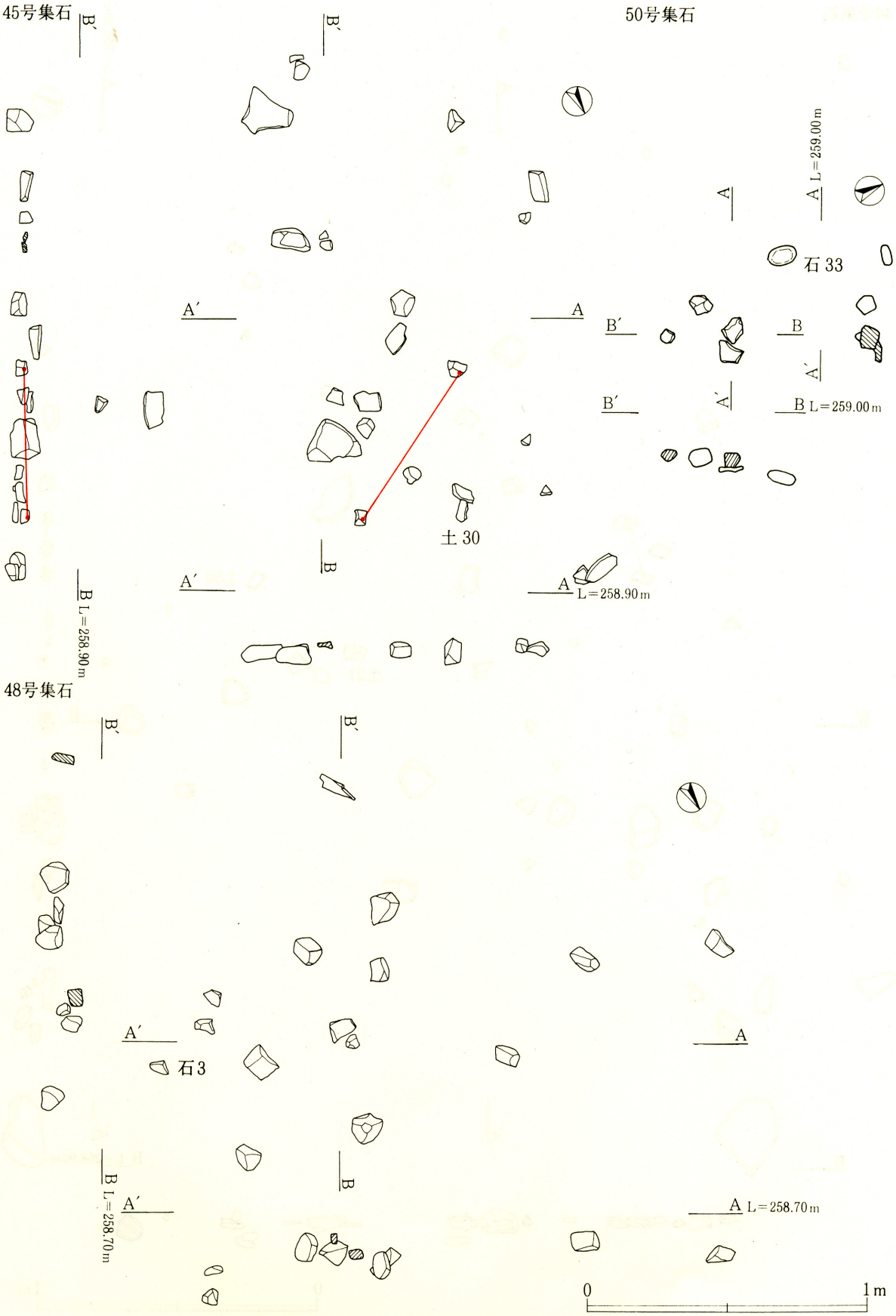
39号集石	大きさ	290*240		出土層	Ⅶ
総礫数	37	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	41号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	40	1180	480	448.4	16591
最大長(cm)	5.3	23.6	10.1	11.1	

40号集石	大きさ	240*188		出土層	Ⅶ
総礫数	30	類　型	Ⅴ　類　型	取上集石番号	40号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	16	11000	580	1046.8	31403
最大長(cm)	4.9	40.5	11.05	13.3	

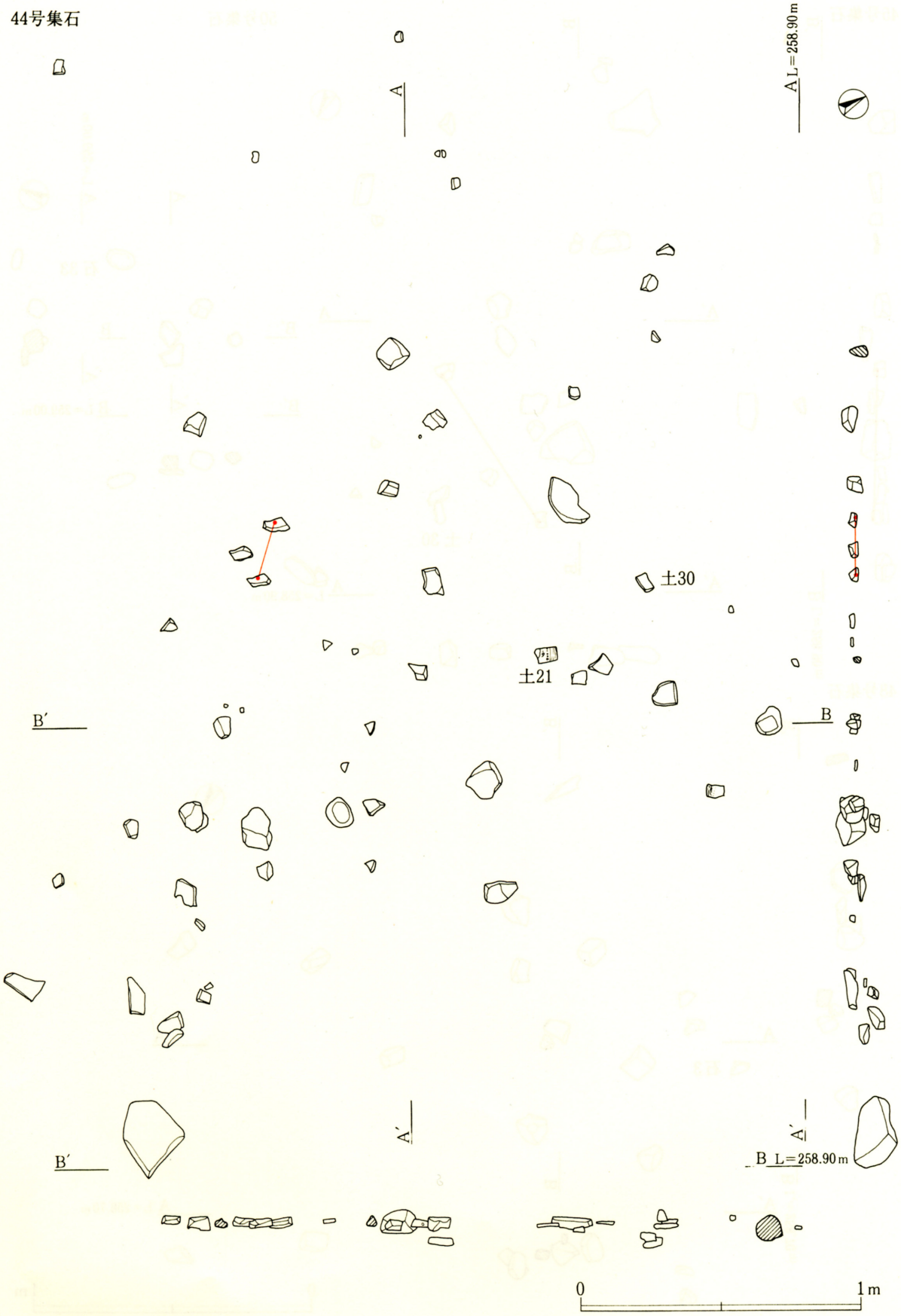
41号集石	大きさ	108*164		出土層	Ⅵ
総礫数	47	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	53号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	10	1138	175	230.8	10848
最大長(cm)	3.2	16.6	7.6	7.8	



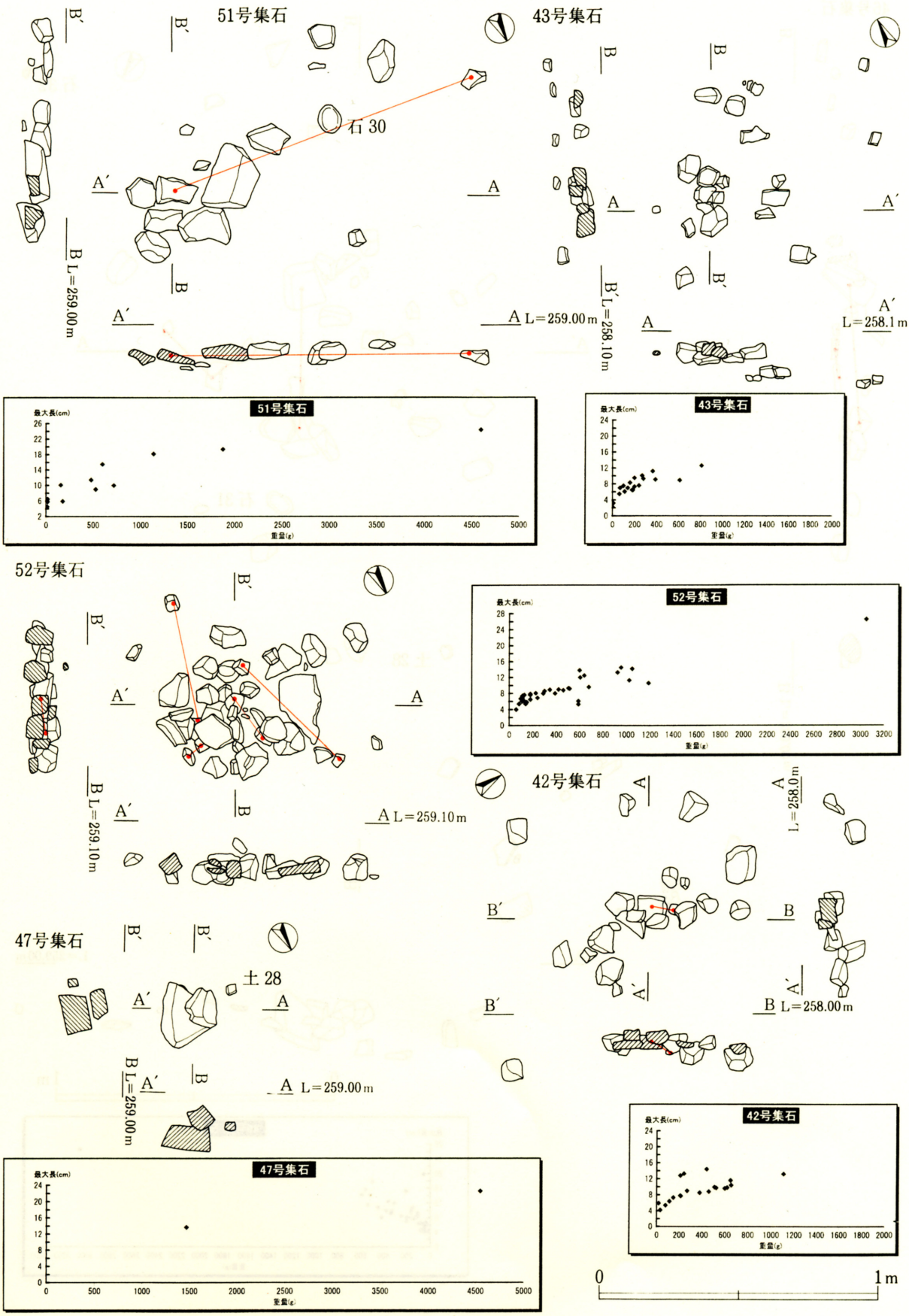
第30図　集石遺構17（Q－9区～1）



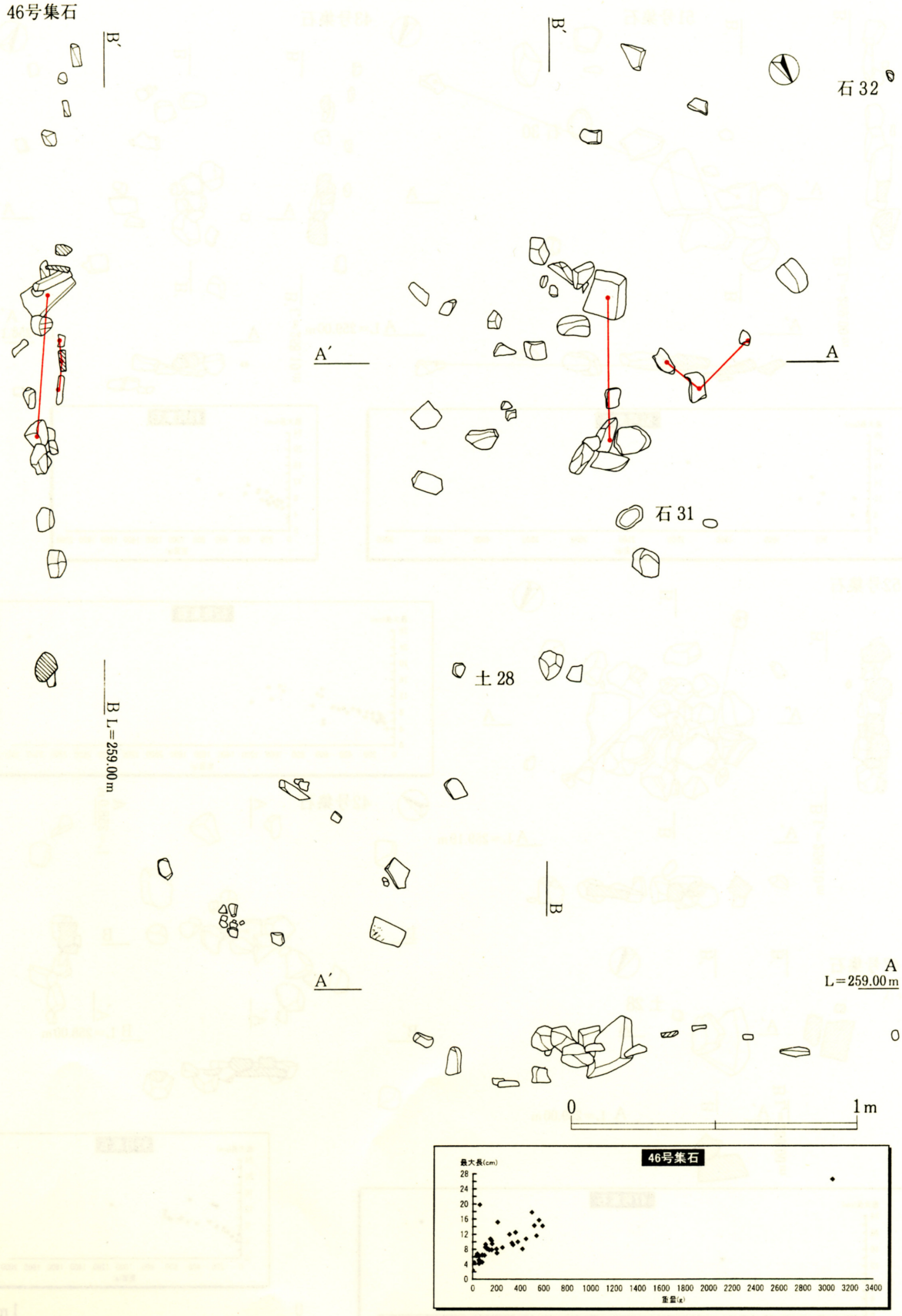
第31図　集石遺構18（Q－9区～2）



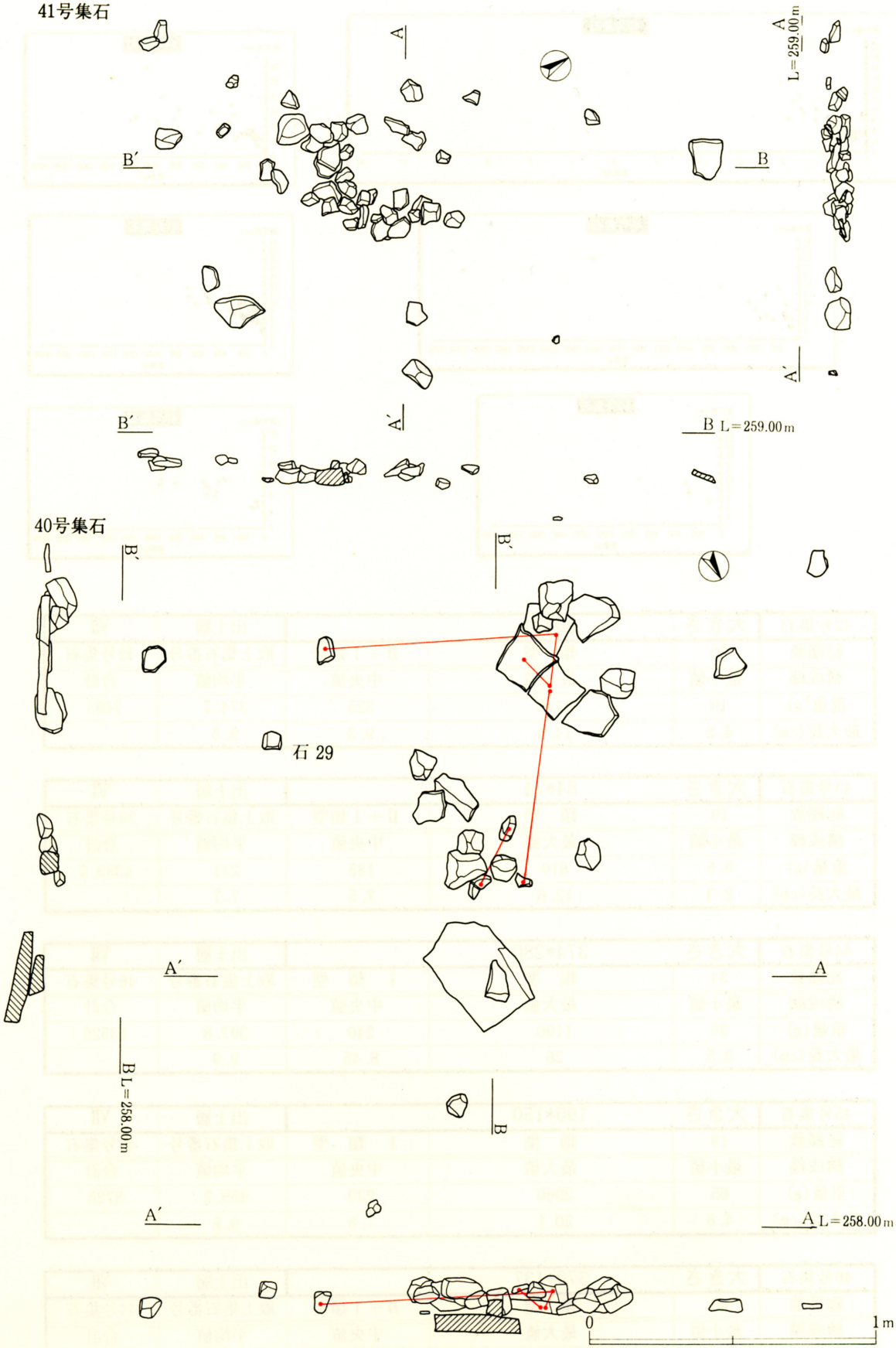
第32図　集石遺構19（Q－9区～3）



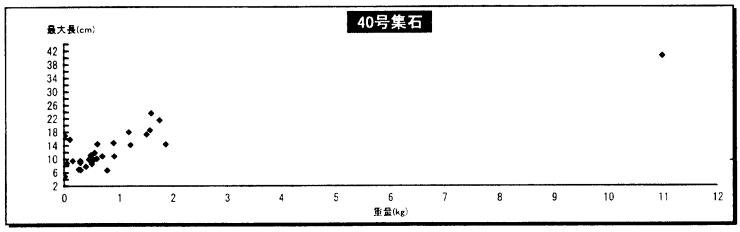
第33図　集石遺構20（Q－9区～4）

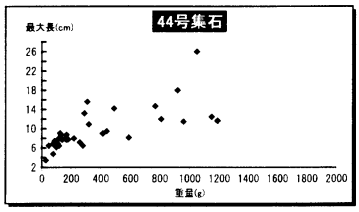


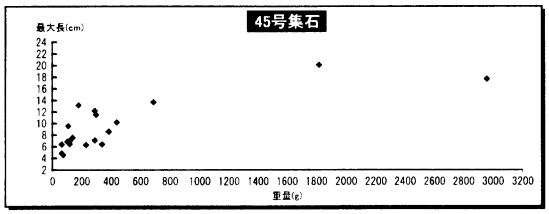
第34図　集石遺構21（Q－9区～5）

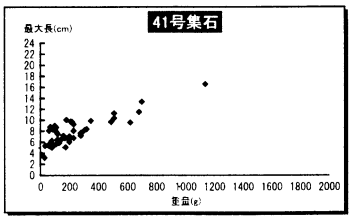


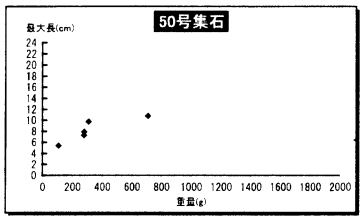
第35図　集石遺構22（Q－9区～6）

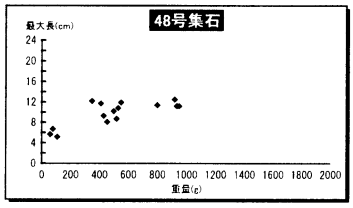












42号集石	大きさ	90*74		出土層	Ⅶ
総礫数	20	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	42号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	19	1110	325	374.7	7493
最大長(cm)	4.2	14.4	9.3	9.3	

43号集石	大きさ	84*74		出土層	Ⅵ
総礫数	19	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	39号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	0.5	810	185	231	4389.5
最大長(cm)	2.3	12.6	7.5	7.7	

44号集石	大きさ	374*280		出土層	Ⅶ
総礫数	34	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	46号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	30	1190	240	397.8	13525
最大長(cm)	3.5	26	8.45	9.9	

45号集石	大きさ	190*150		出土層	Ⅶ
総礫数	19	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	45号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	65	2960	230	459.2	8725
最大長(cm)	4.6	20.1	7.6	9.5	

46号集石	大きさ	370*137		出土層	Ⅶ
総礫数	40	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	44号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	0.3	3050	160	290.6	11625.3
最大長(cm)	2.5	26.5	8.5	9.7	

47号集石	大きさ	27*24		出土層	Ⅶ
総礫数	2	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	43号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	1470	4550	3010	3010	6020
最大長(cm)	13.7	22.6	18.15	18.2	

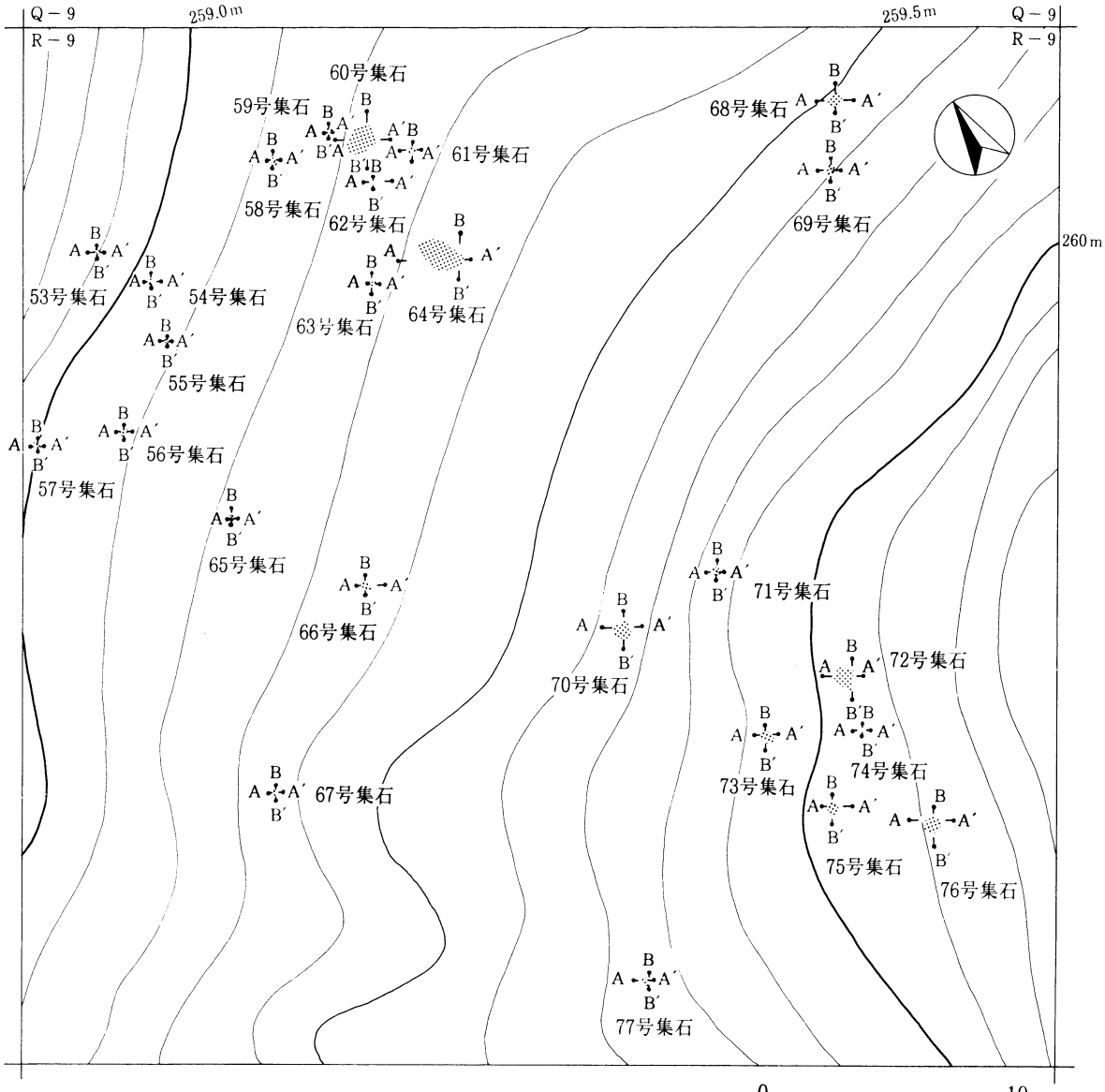
48号集石	大きさ	210*141		出土層	Ⅶ
総礫数	15	類　型	Ⅰ類型	取上集石番号	50号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	60	950	500	506.7	7600
最大長(cm)	5.2	12.5	10.8	9.8	

49号集石	大きさ	95*95		出土層	Ⅶ
総礫数	6	類　型	Ⅰ類型	取上集石番号	49号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	240	1520	875	885	5310
最大長(cm)	6	14.7	12.6	11.7	

50号集石	大きさ	49*44		出土層	Ⅶ
総礫数	5	類　型	Ⅰ類型	取上集石番号	48号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	110	710	280	338	1690
最大長(cm)	5.4	10.8	7.9	8.2	

51号集石	大きさ	137*72		出土層	Ⅶ
総礫数	12	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	47号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	15	4600	505	862.1	10345
最大長(cm)	4.5	24.4	10.05	11.7	

52号集石	大きさ	92*67		出土層	Ⅶ
総礫数	36	類　型	Ⅱ類型	取上集石番号	51号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	60	3050	322.5	482.6	17375
最大長(cm)	4	26.5	8	9	

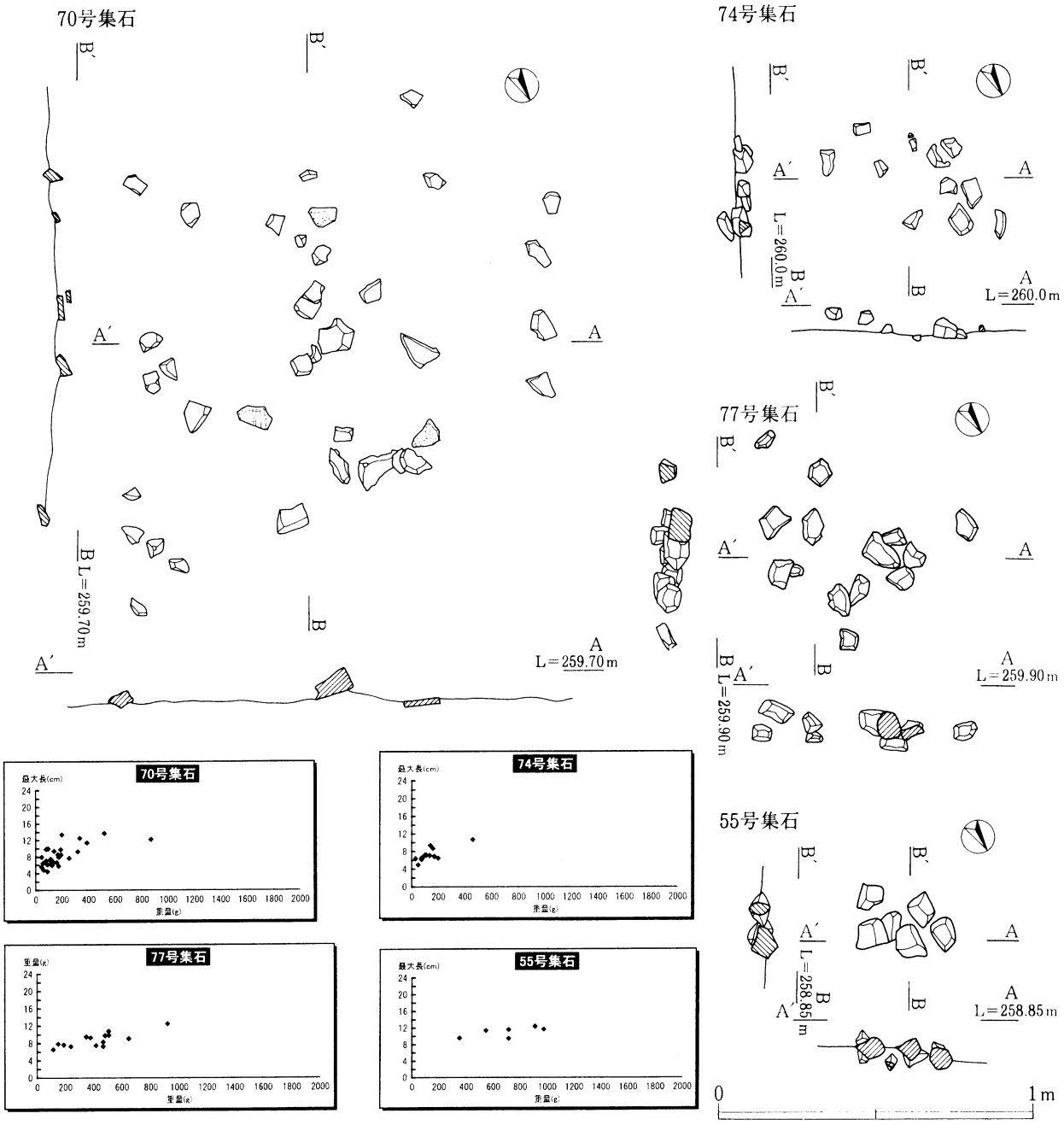


第36図　R－9区集石遺構配置図

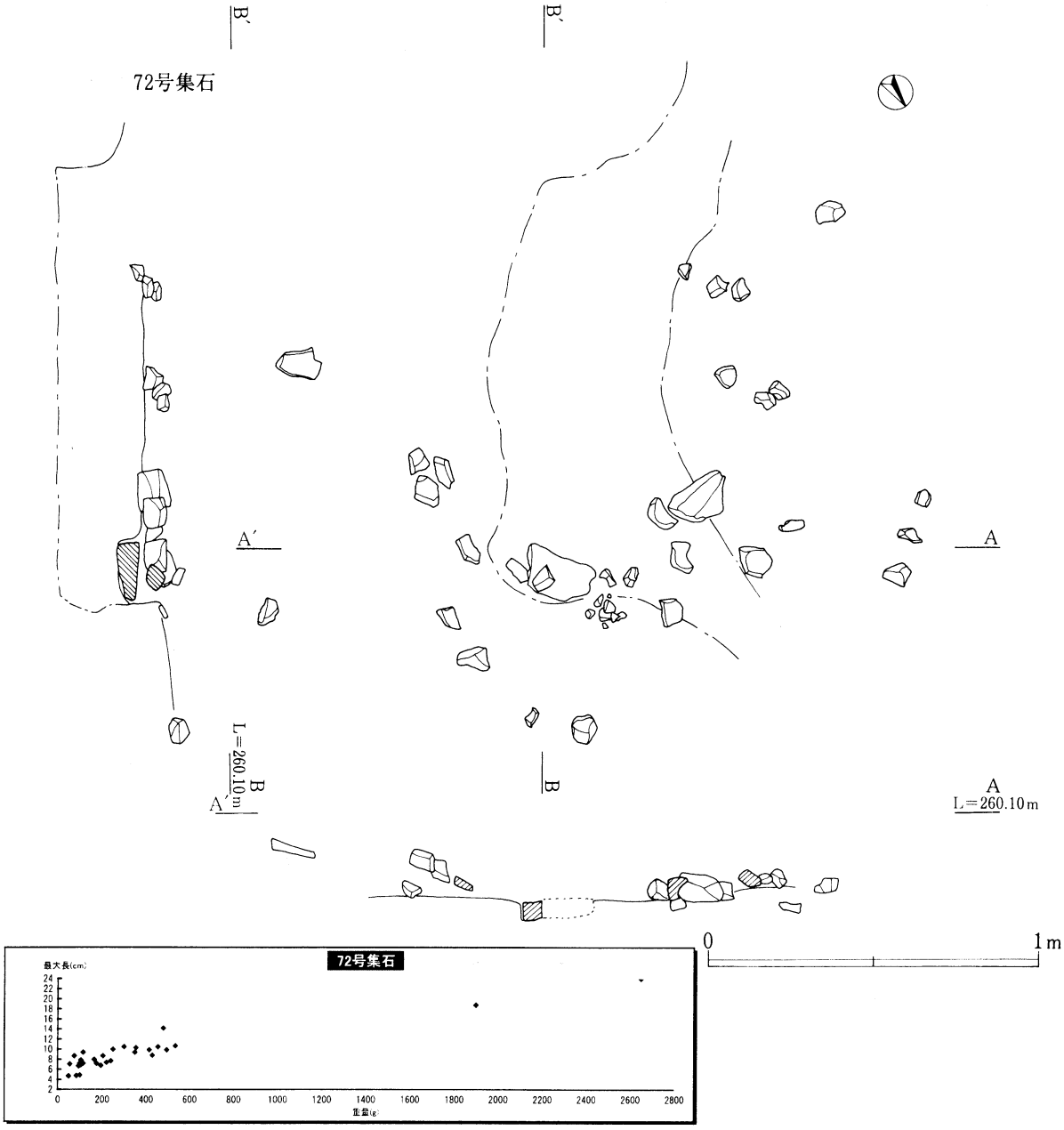
53号集石	大きさ	46*40		出土層	Ⅶ
総礫数	23	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	15号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	8	3220	370	557.1	12814
最大長(cm)	4	19.5	9.5	10.2	

54号集石	大きさ	77*70*30		出土層	Ⅶ
総礫数	48	類　型	Ⅳ　類　型	取上集石番号	4号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	5	8750	330	933.2	44795
最大長(cm)	4.5	34.5	10	12.3	

55号集石	大きさ	30*20		出土層	Ⅶ
総礫数	6	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	18号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	350	975	715	701.7	4210
最大長(cm)	9.5	12.4	11.5	11	



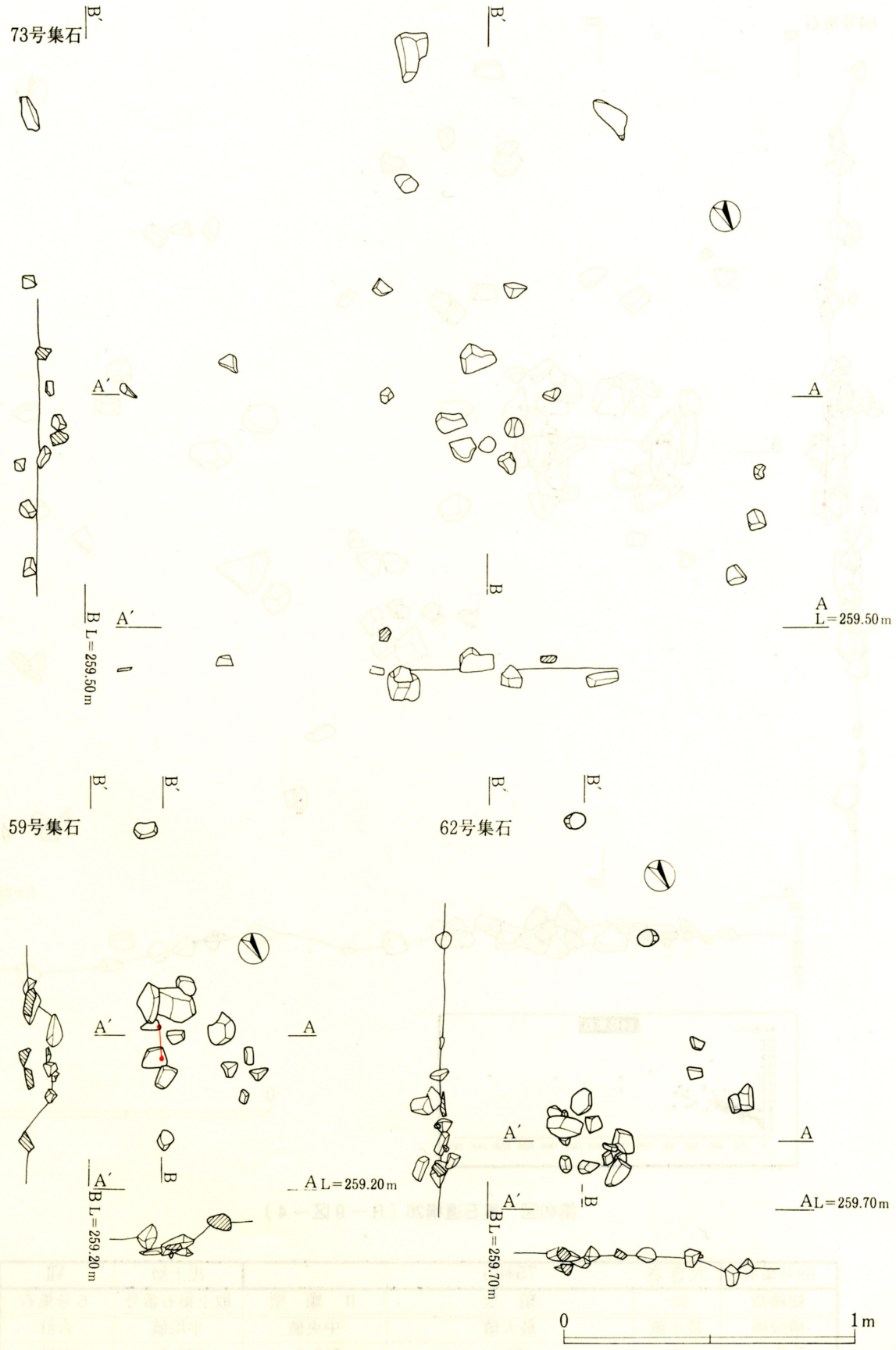
第37図　集石遺構23（R－9区～1）



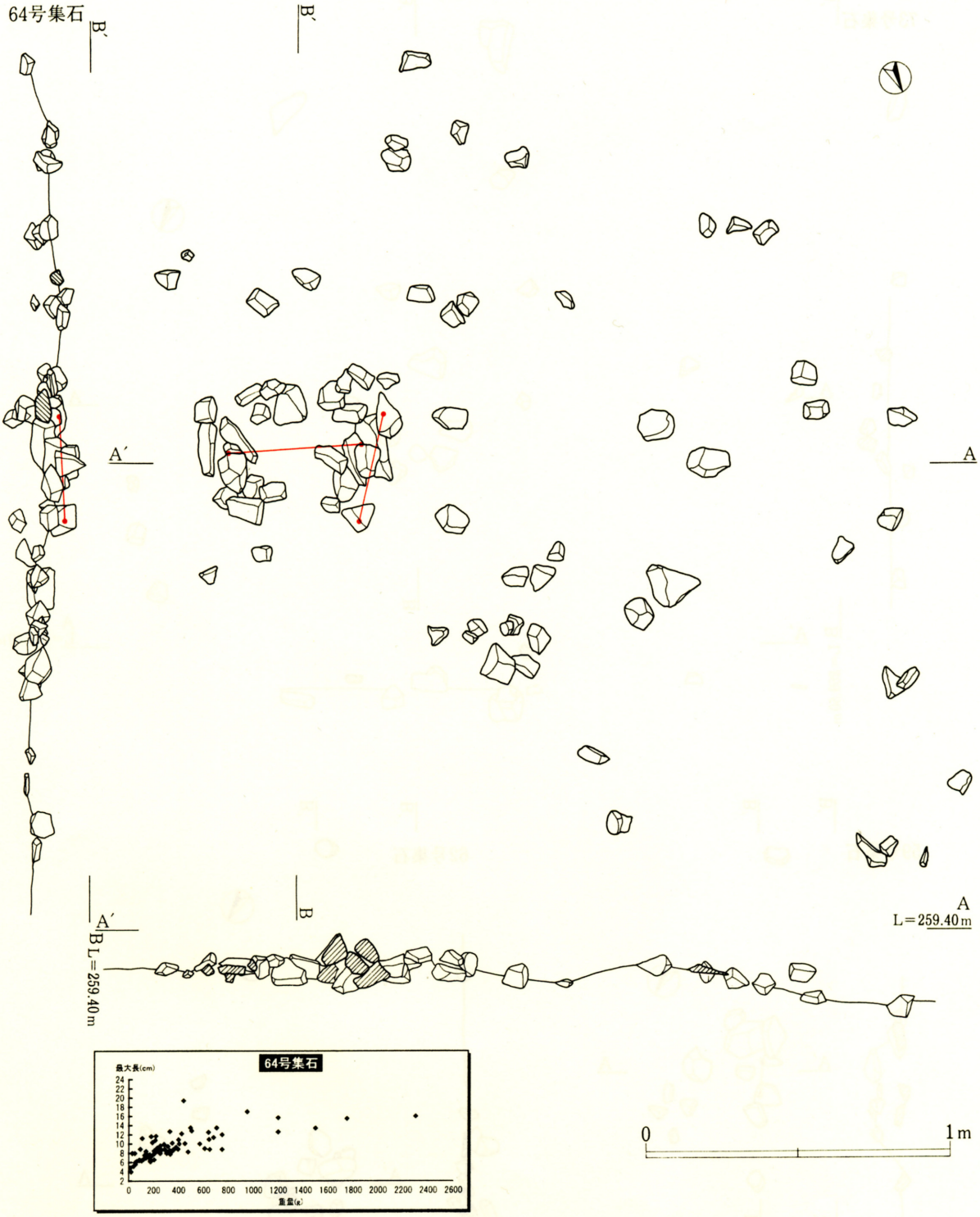
第38図　集石遺構24（R－9区～2）

56号集石	大きさ	60*55		出土層	Ⅶ
総礫数	21	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	3号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	350	900	475	546.2	11470
最大長(cm)	8.2	12	10.2	10	

57号集石	大きさ	55*50		出土層	Ⅶ
総礫数	32	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	2号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	15	825	285	335.3	10730
最大長(cm)	4	14	8.25	8.5	



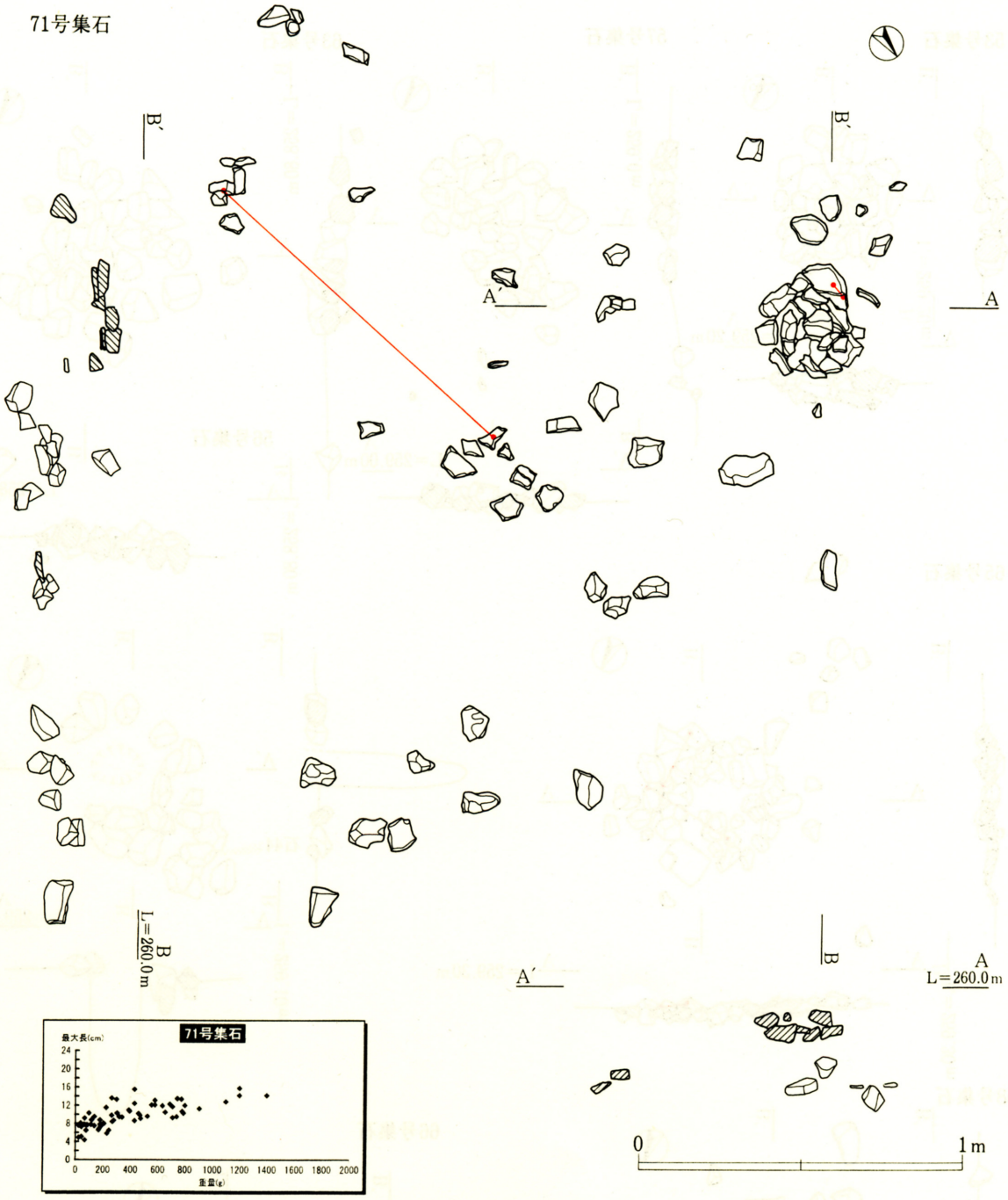
第39図　集石遺構25（R－9区～3）



第40図　集石遺構26（R－9区～4）

58号集石	大きさ	75*65		出土層	Ⅶ
総礫数	52	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	6号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	20	1550	517.5	561.5	29200
最大長(cm)	3.8	17.5	10.1	10	

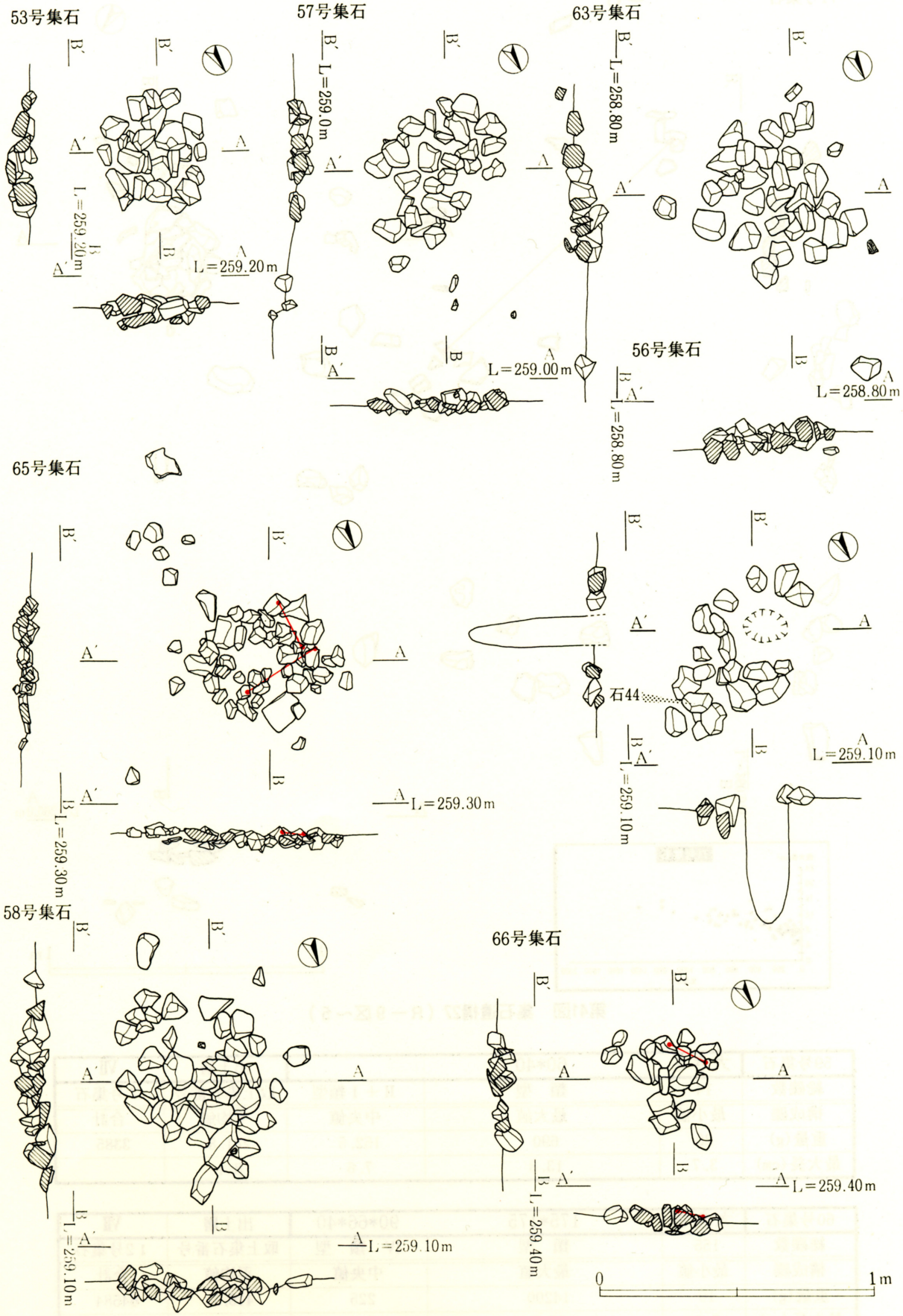
71号集石



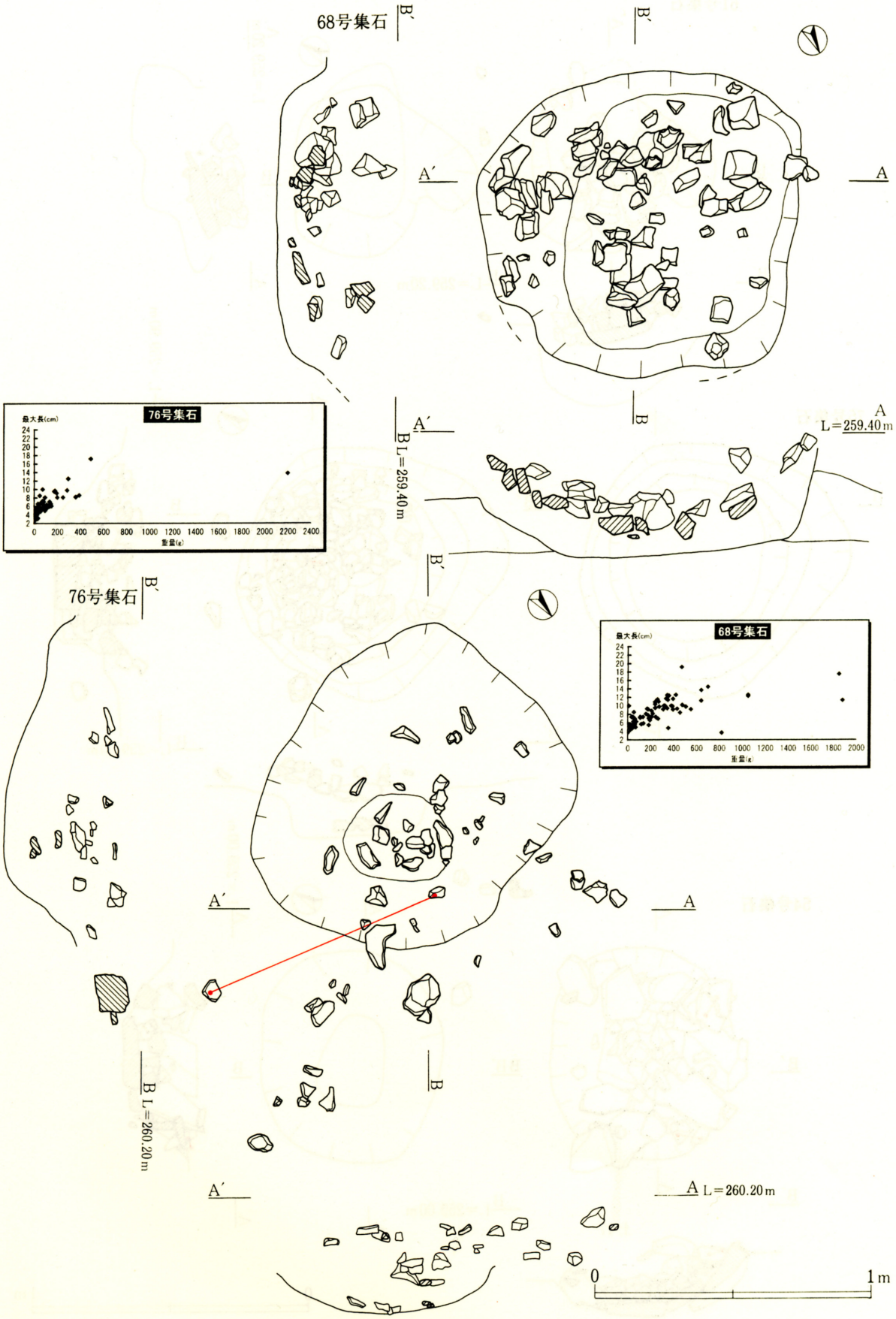
第41図　集石遺構27（R－9区～5）

59号集石	大きさ	60*40		出土層	Ⅶ
総礫数	14	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	7号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	20	690	152.5	241.8	3385
最大長(cm)	3.7	13.8	7.6	8.1	

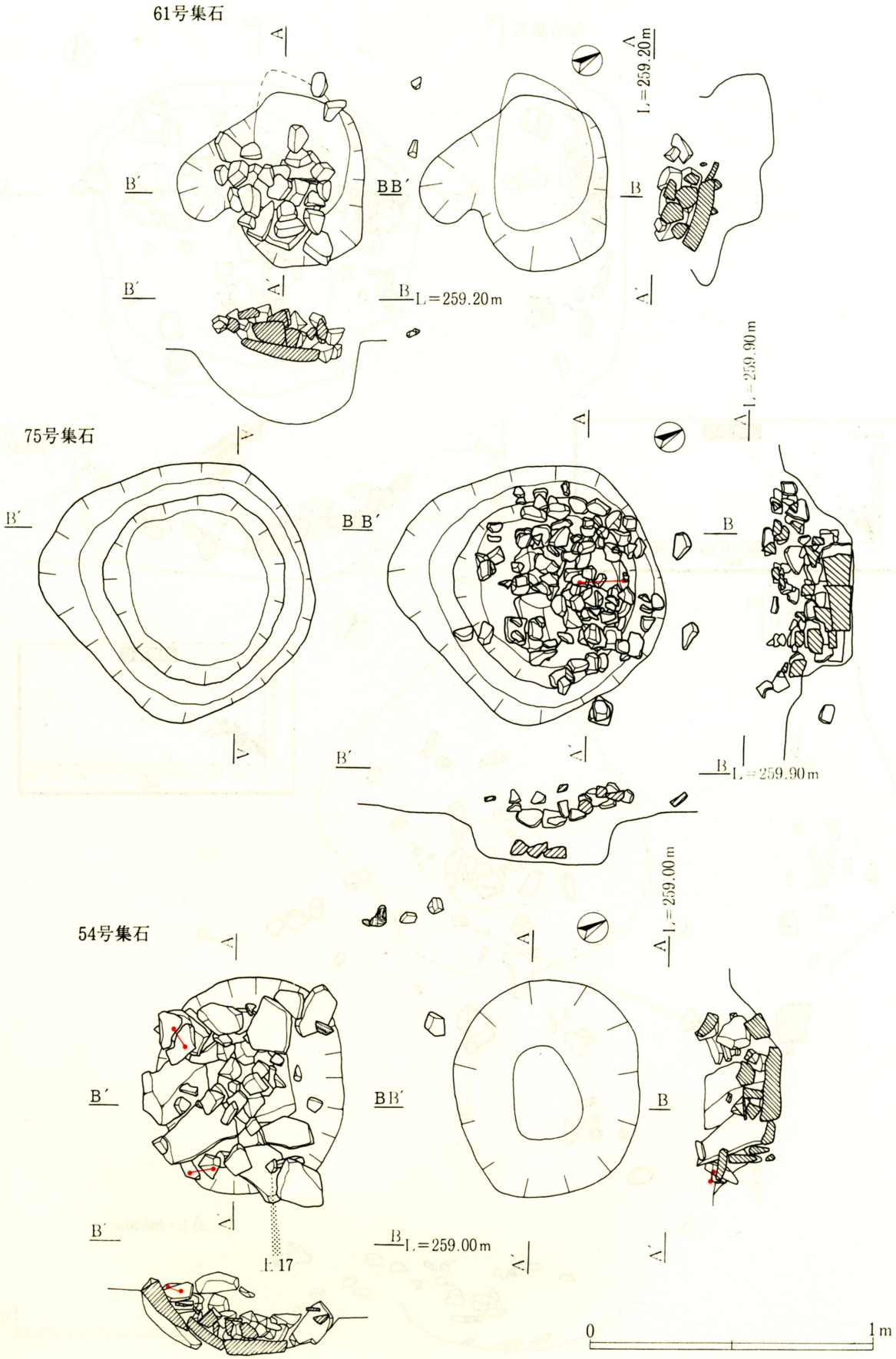
60号集石	大きさ	175*175	90*66*40	出土層	Ⅶ
総礫数	155	類　型	Ⅳ　類　型	取上集石番号	12号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	10	14200	225	416.7	64584
最大長(cm)	2.9	37.2	8.1	8.5	



第42図　集石遺構28（R－9区～6）

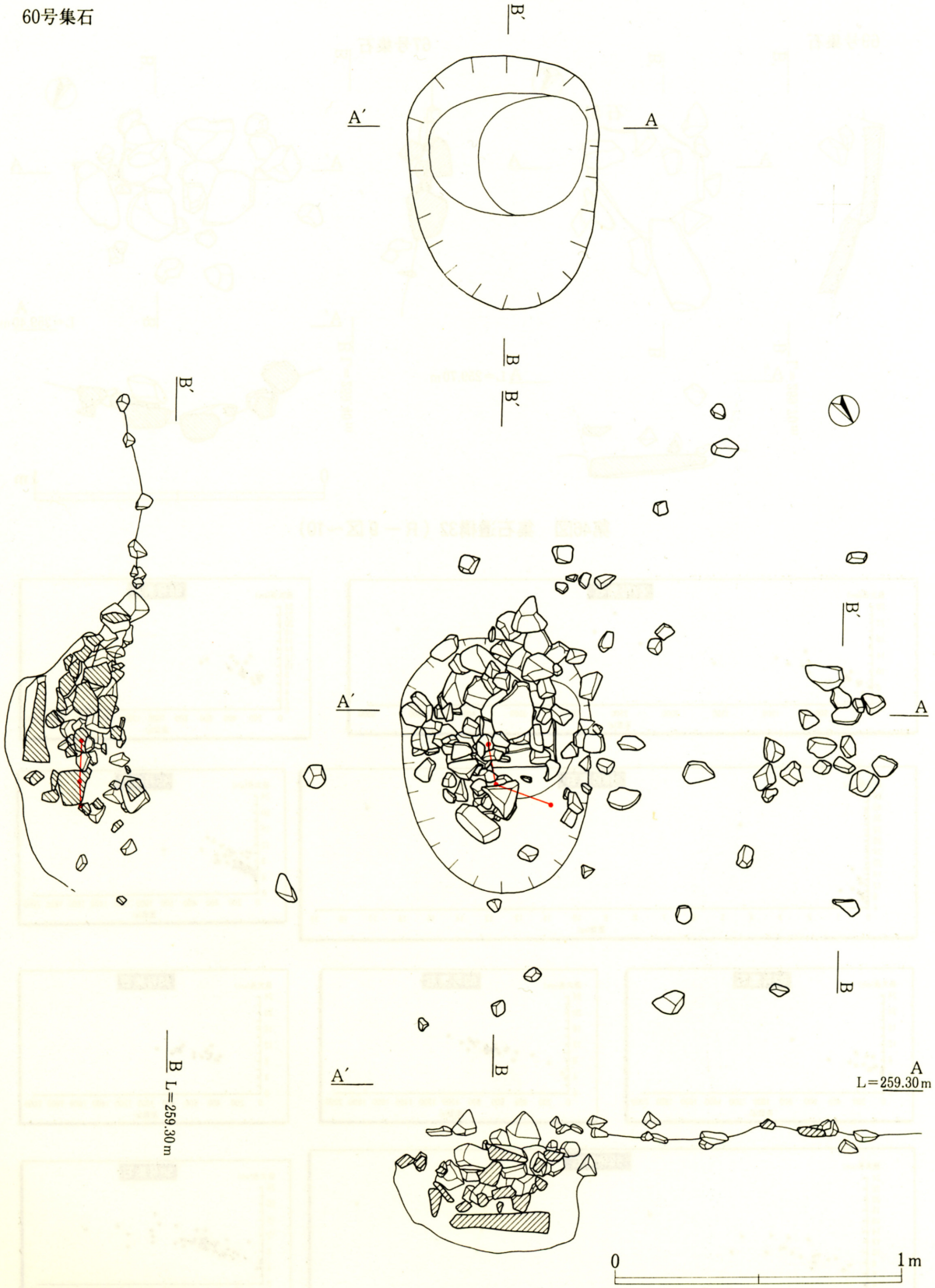


第43図　集石遺構29（R－9区～7）

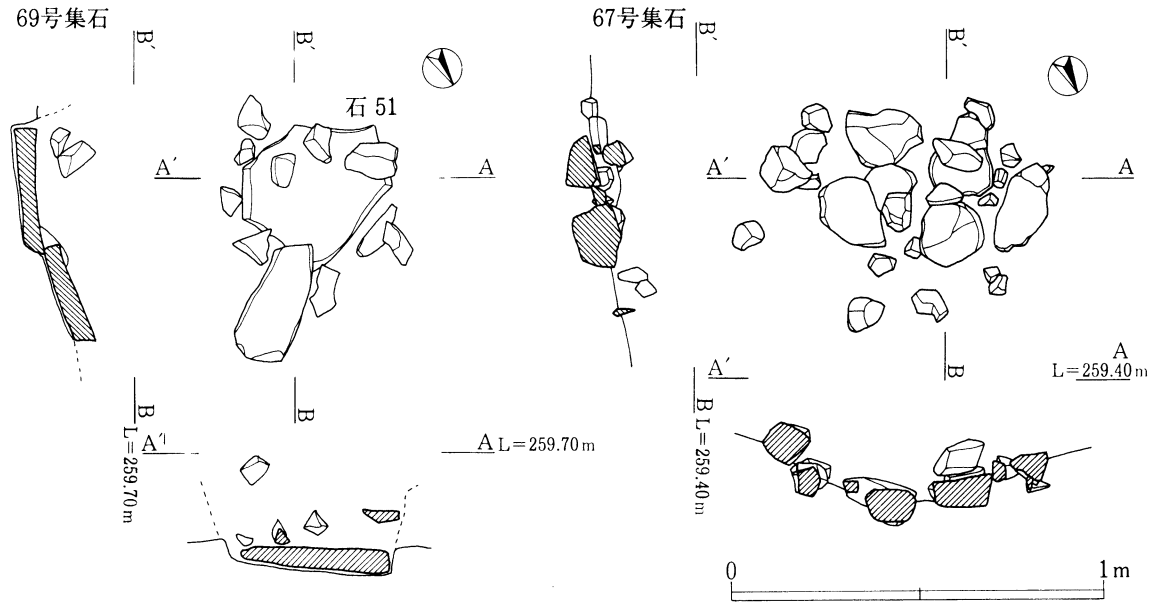


第44図　集石遺構30（R－9区～8）

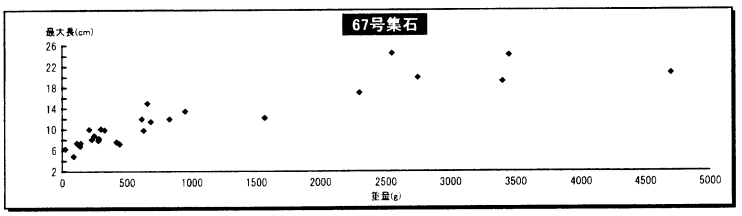
60号集石

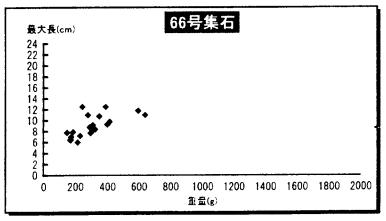


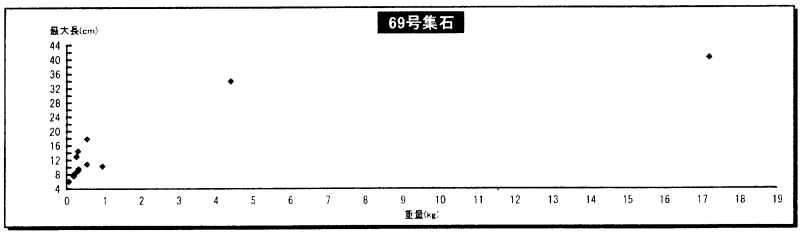
第45図　集石遺構31（R－9区～9）

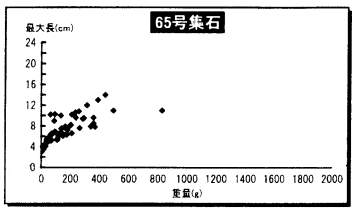


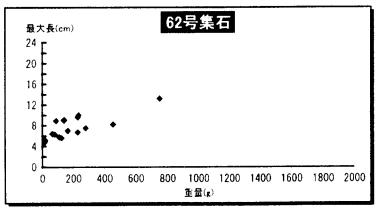
第46図　集石遺構32（R－9区～10）

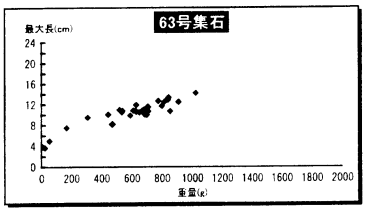


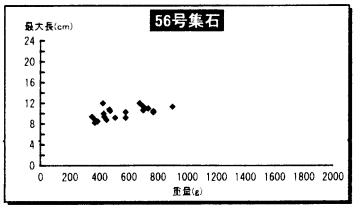


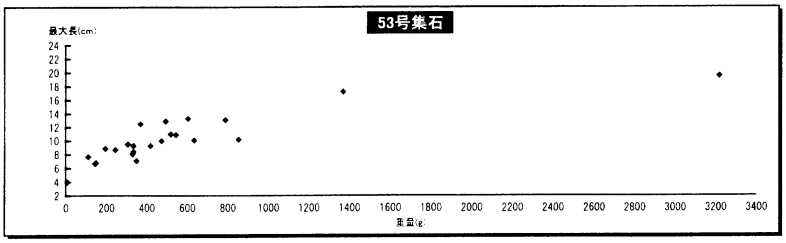


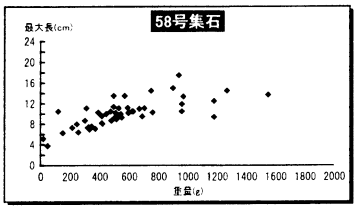












65号集石	大きさ	60*50		出土層	Ⅶ
総礫数	59	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	8号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	2	830	120	164	9677
最大長(cm)	3	14	6.7	7.3	

66号集石	大きさ	38*34		出土層	Ⅶ
総礫数	20	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	16号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	150	640	292.5	306.8	6135
最大長(cm)	6	12.5	8.6	9	

67号集石	大きさ	80*45*21		出土層	
総礫数	27	類　型	Ⅲ　類　型	取上集石番号	１０号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	25	4700	445	1050.2	28355
最大長(cm)	4.9	24.5	10	11.9	

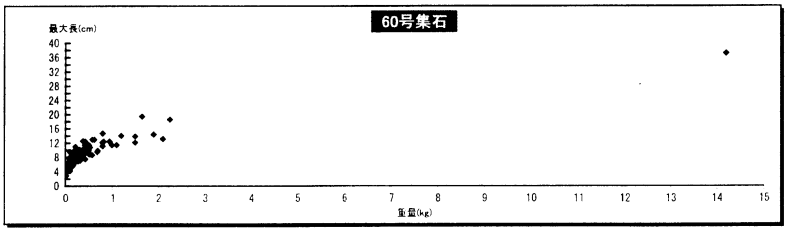
68号集石	大きさ	119*101	116*112*18	出土層	
総礫数	71	類　型	Ⅲ　類　型	取上集石番号	27号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	0.5	1880	240	311.7	22130.5
最大長(cm)	3.7	19.2	8.5	8.7	

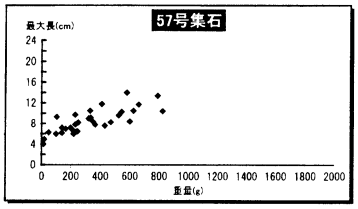
69号集石	大きさ	72*52 〔47*36*7〕		出土層	Ⅶ
総礫数	12	類　型	Ⅴ　類　型	取上集石番号	26号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	65	17200	317.5	2112.1	25345
最大長(cm)	6.1	40.5	10.6	15.1	

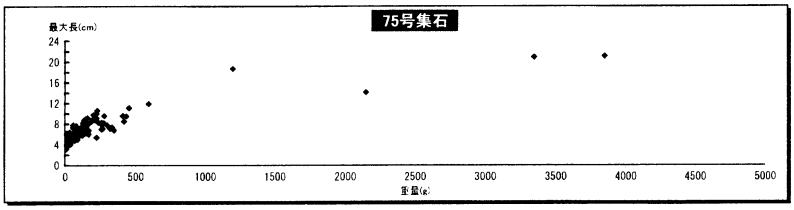
70号集石	大きさ	166*140		出土層	Ⅶ
総礫数	31	類　型	Ⅰ類型	取上集石番号	19号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	45	870	135	185.2	5740
最大長(cm)	4.5	13.7	7.7	8.2	

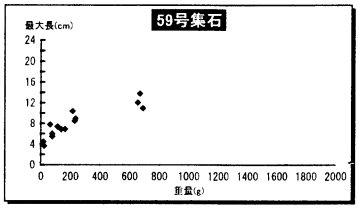
71号集石	大きさ	280*114		出土層	Ⅵ
総礫数	64	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	20号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	25	1400	290	398.7	25515
最大長(cm)	4.4	15.8	9.5	9.7	

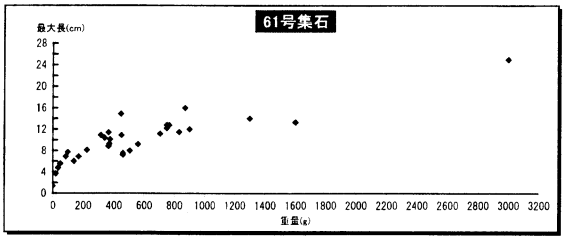
72号集石	大きさ	203*166		出土層	Ⅶ
総礫数	29	類　型	Ⅰ類型	取上集石番号	21号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	50	2650	205	374.8	10870
最大長(cm)	4.7	24	8.7	9.3	

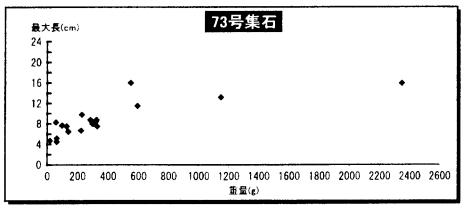


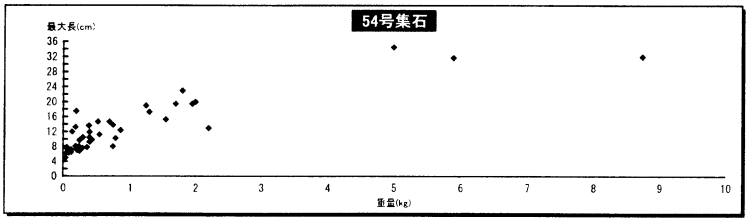












61号集石	大きさ	40*30*20	60*60*28	出土層	Ⅶ
総礫数	31	類　型	Ⅳ　類　型	取上集石番号	13号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	0.5	3000	445	558.2	17305.5
最大長(cm)	1.4	25	10.1	10	

62号集石	大きさ	30*30		出土層	
総礫数	17	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	17号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	12	750	140	184.8	3142
最大長(cm)	4.8	13.2	7	7.6	

63号集石	大きさ	70*60		出土層	Ⅶ
総礫数	33	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	5号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	10	1025	650	601.7	19855
最大長(cm)	3.7	14.2	10.8	10.4	

64号集石	大きさ	250*230[65*55]		出土層	Ⅶ
総礫数	79	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	14号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	15	2300	265	379.9	30010
最大長(cm)	4	19.4	8.8	9.4	

73号集石	大きさ	188*137		出土層	
総礫数	18	類　型	Ⅰ類型	取上集石番号	22号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	20	2350	258	402.3	7241
最大長(cm)	4.5	16	8.15	8.8	

74号集石	大きさ	61*37		出土層	Ⅶ
総礫数	12	類　型	Ⅰ類型	取上集石番号	23号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	30	460	122.5	142.1	1705
最大長(cm)	5	10.7	7	7.3	

75号集石	大きさ	75*70	98*92*24	出土層	Ⅶ
総礫数	106	類　型	Ⅳ　類　型	取上集石番号	24号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	10	3850	110	229.9	24366
最大長(cm)	3.2	21.1	6.8	7.2	

76号集石	大きさ	160*150	118*116*26	出土層	Ⅶ
総礫数	53	類　型	Ⅲ　類　型	取上集石番号	25号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	10	2200	65	142.4	7545
最大長(cm)	2.8	17.2	6	6.6	

77号集石	大きさ	71*68		出土層	Ⅵ
総礫数	14	類　型	Ⅰ類型	取上集石番号	88号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	115	920	445	418.6	5860
最大長(cm)	6.6	12.5	8.7	8.8	

R－9区：

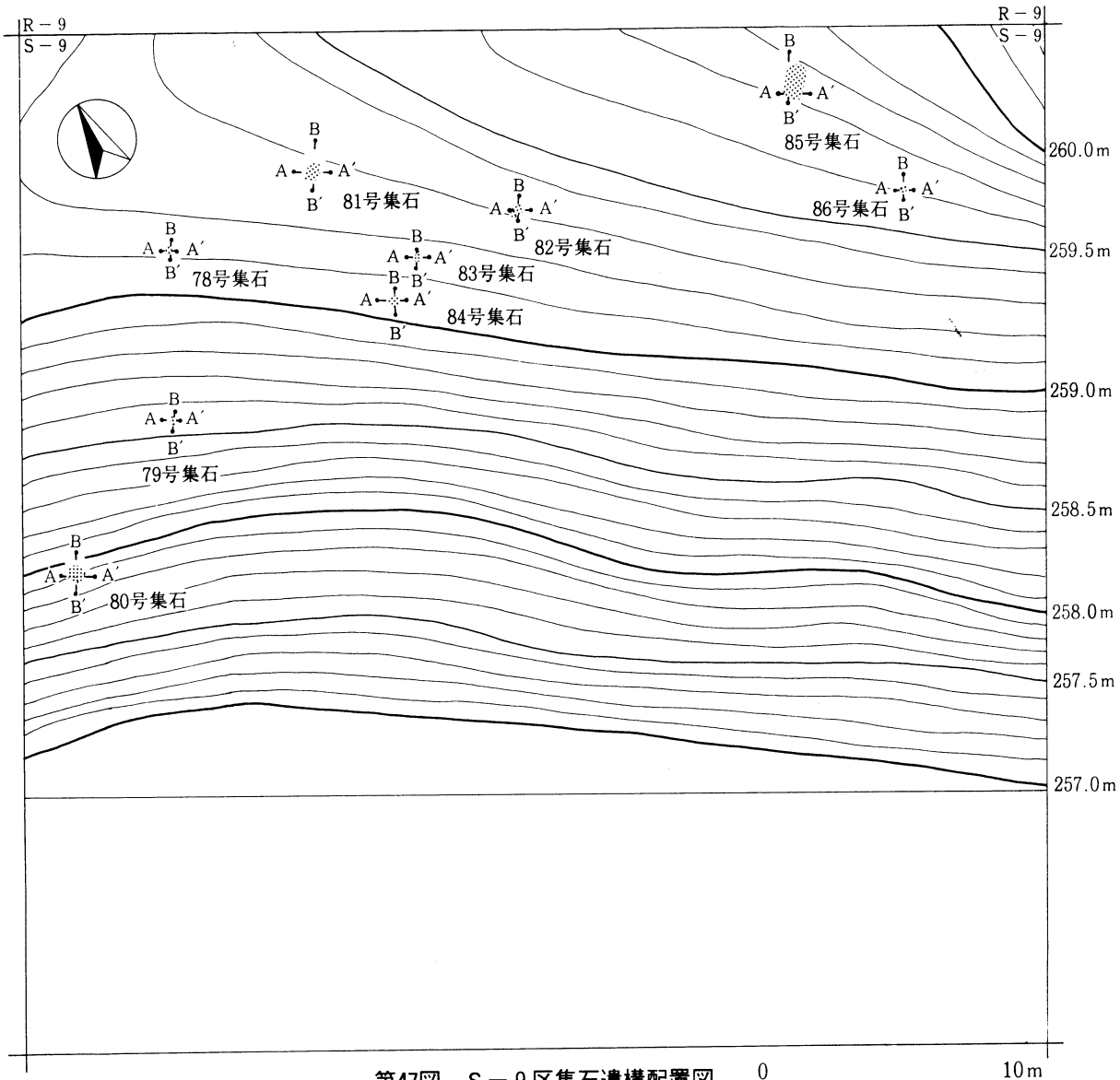
54号集石は，Ⅳ類型に属する集石遺構である。側壁の役目を果たす板状の角礫は，土坑との間にすき間が空かないようにきっちりはめ込まれていた。断面ラインにも土坑を掘り込んだラインを認めることができず，掘り込みの底面や側面に直接，底石や側壁になる板状の石を張り付けたことがわかる。側壁に囲まれた土坑内部の小礫で，明確に破砕礫といえる礫は少なかったが，小礫の下面に炭化物やタール状の付着物などが観察できた礫が多かった。なお，北側には側壁や小礫がなかったことは，この部分が礫を掃き出させるための開口部であったことが考えられる。

共にⅡ類型に属する53号集石，58号集石や63号集石は，直径12cm前後の角礫が中心に構成される。これらの集石遺構は直径約70cmの範囲に密集して検出されたことから，遺棄された遺構と考える。一方，65号集石もⅡ類型に属する集石遺構であるが，被熱により破砕したと考えられる直径約7cm前後の小礫を集めた遺構であった。

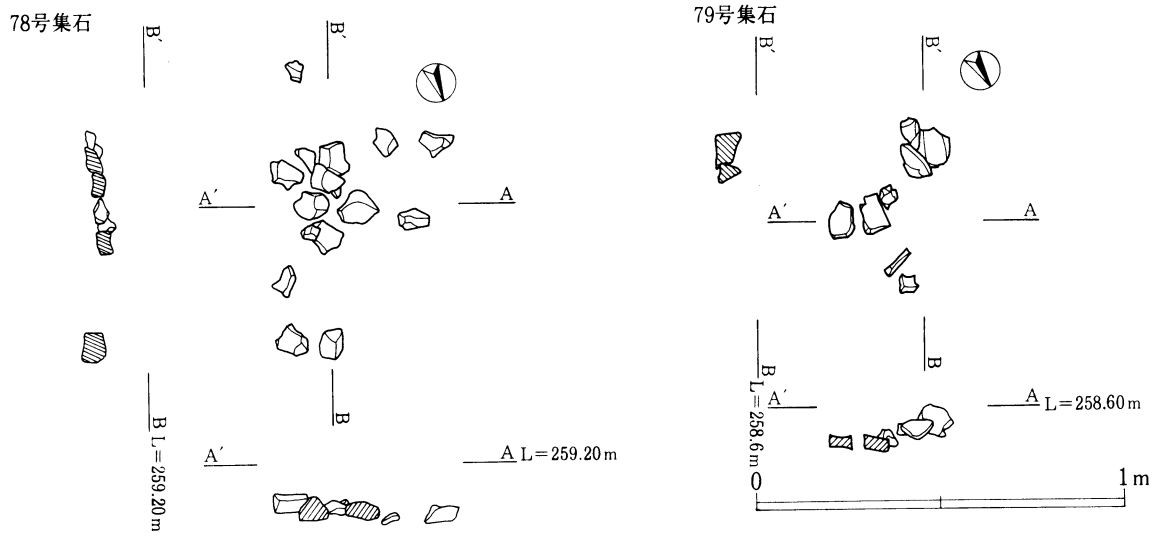
64号集石は，Ⅱ＋Ⅰ類型に属する集石遺構である。礫の下面に炭化物の小粒子やタール状の付着物などが観察できた。したがって，この集石遺構のうち円形にまとまる部分が本来の施設の中心であり，周囲の礫は廃棄後に流れ出した礫であると考えられる。

67号集石は，Ⅲ類型に属する集石遺構である。構成礫には破砕礫が含まれるが，出土量が極端に少ない。この検出状況は，既に被覆の役目を果たす小礫が取り除かれ，底石が露出している状況である。

75号集石は，Ⅳ類型に属する集石遺構である。構成礫は角礫が多く，全体的に小さい。土坑内部には炭化物が多く観察でき，土は黒色化が進んでいる。土坑底面には大きな石が底石として敷かれていた。

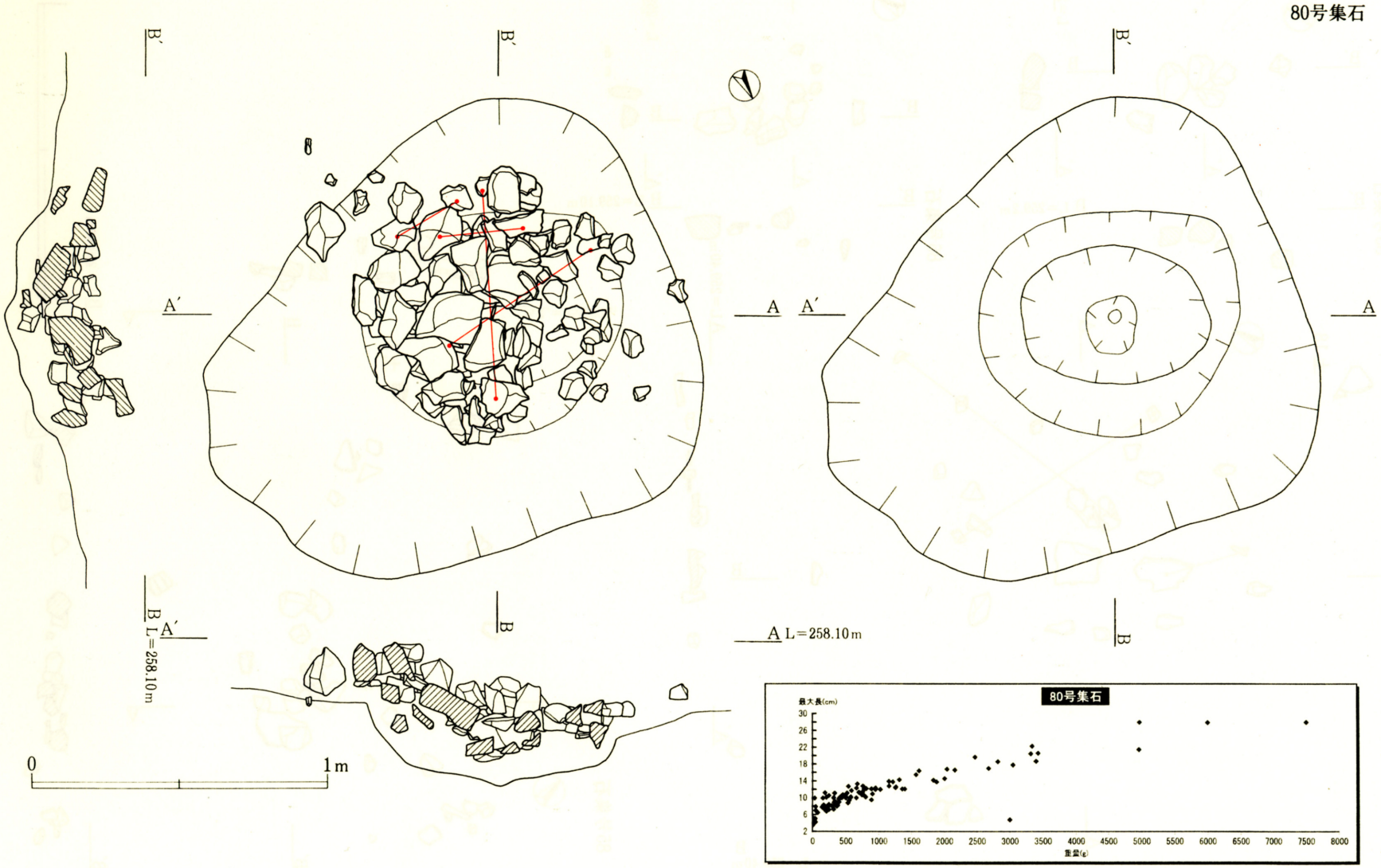


第47図　S－9区集石遺構配置図

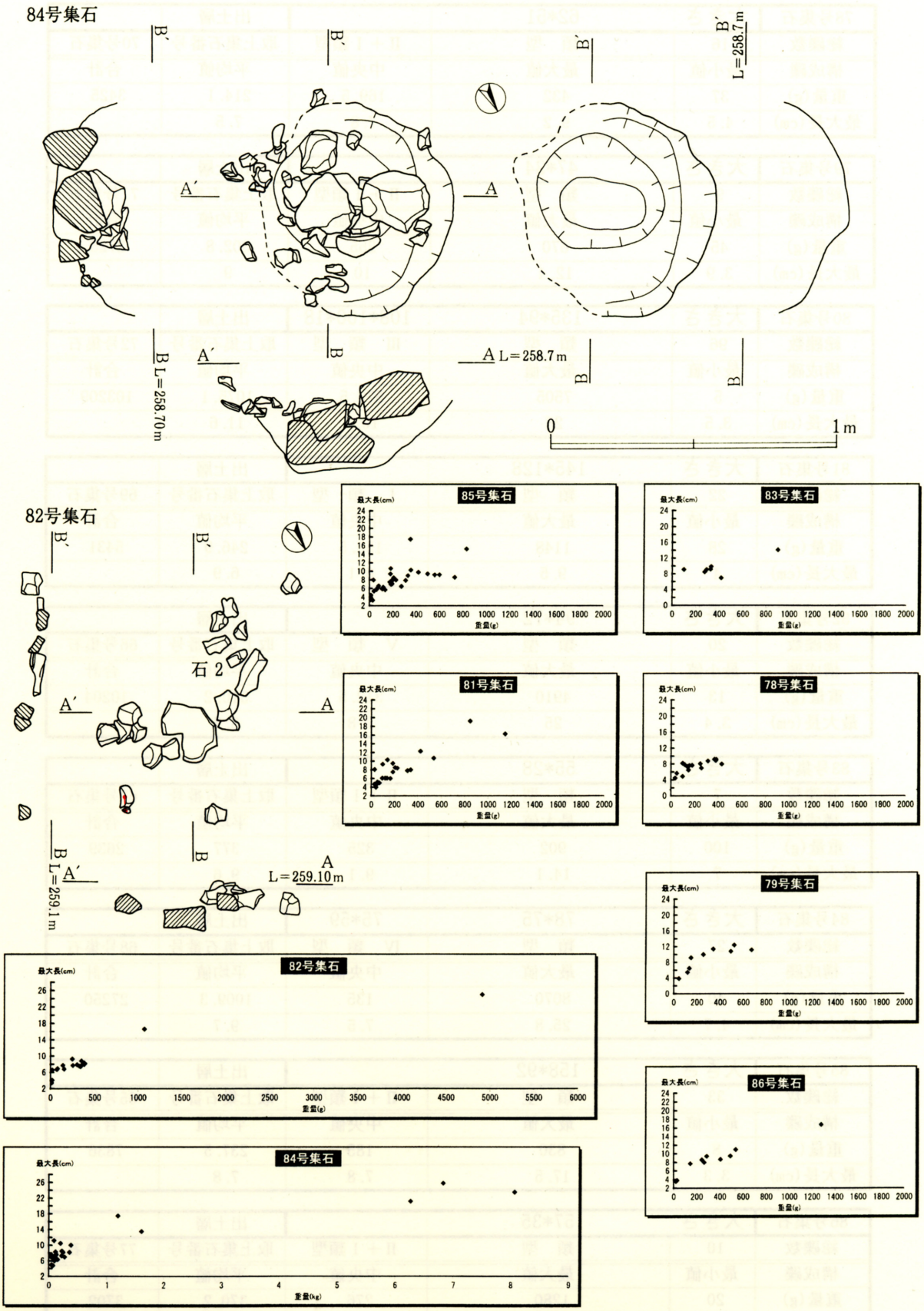


第48図　集石遺構33（S－9区～1）

第49図　集石遺構34（S－9区～2）



第50図　集石遺構35（S－9区～3）



第51図　集石遺構36（S－9区～4）

78号集石	大きさ	62*51		出土層	
総礫数	16	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	70号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	37	432	169.5	214.1	3425
最大長(cm)	4.5	9.2	7.8	7.5	

79号集石	大きさ	47*34		出土層	
総礫数	9	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	71号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	45	670	255	302.8	2725
最大長(cm)	3.9	12.4	10	9	

80号集石	大きさ	135*94	108*100*18	出土層	
総礫数	96	類　型	Ⅲ　類　型	取上集石番号	72号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	5	7505	572.5	1075.1	103209
最大長(cm)	3.5	28	10.7	11.6	

81号集石	大きさ	145*128		出土層	
総礫数	22	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	69号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	28	1148	152.5	246.9	5431
最大長(cm)	4	9.5	6.1	6.9	

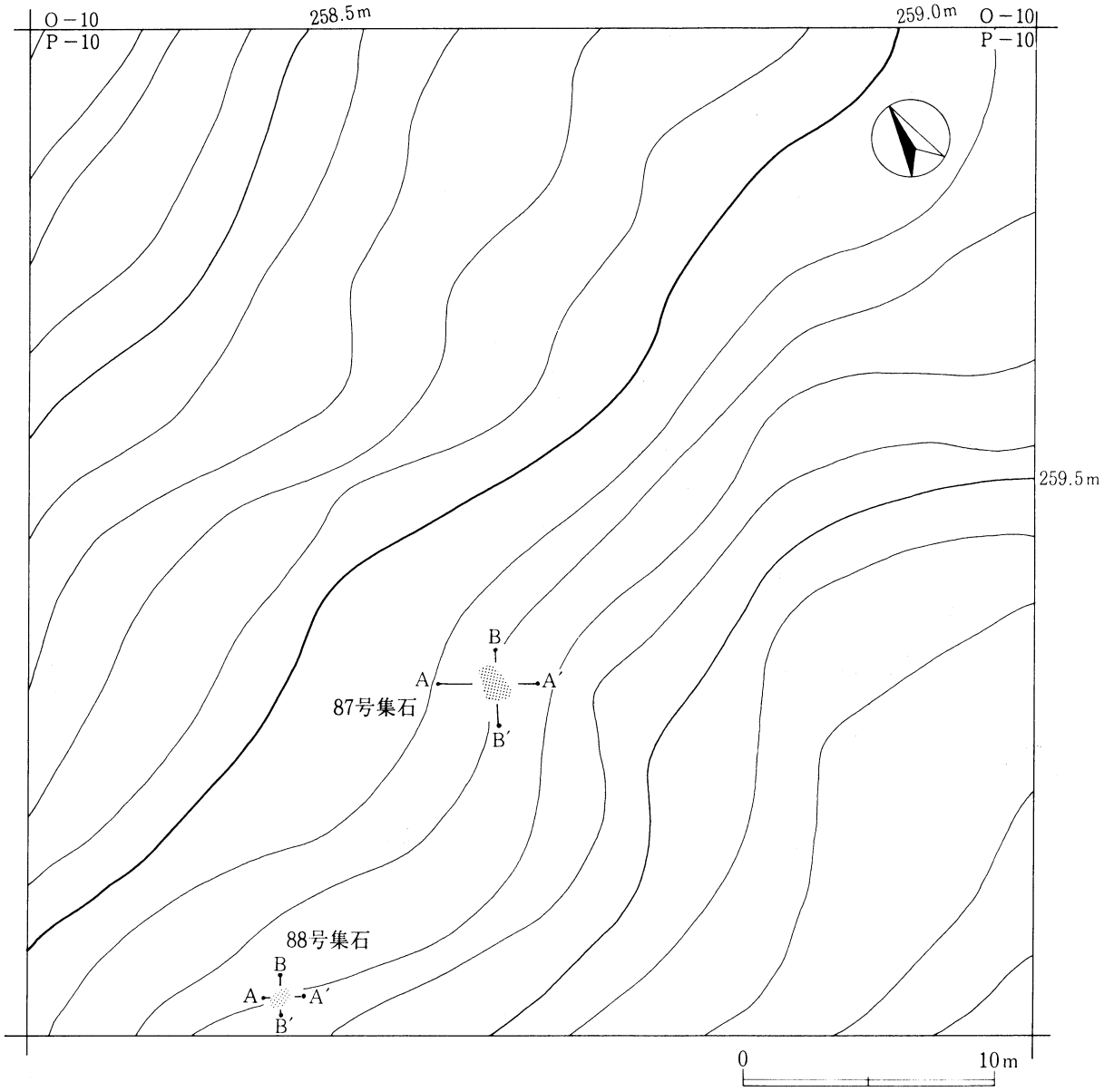
82号集石	大きさ	94*72		出土層	
総礫数	20	類　型	Ⅴ　類　型	取上集石番号	66号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	13	4910	312.5	510.2	10204
最大長(cm)	3.4	25	7.8	8.7	

83号集石	大きさ	55*28		出土層	
総礫数	7	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	67号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	100	902	325	377	2639
最大長(cm)	7	14.1	9.1	9.6	

84号集石	大きさ	78*75	75*59	出土層	
総礫数	27	類　型	Ⅳ　類　型	取上集石番号	68号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	40	8070	135	1009.3	27250
最大長(cm)	4.7	25.8	7.5	9.7	

85号集石	大きさ	158*92		出土層	
総礫数	33	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	65号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	8	830	185	237.5	7836
最大長(cm)	3.3	17.5	7.8	7.8	

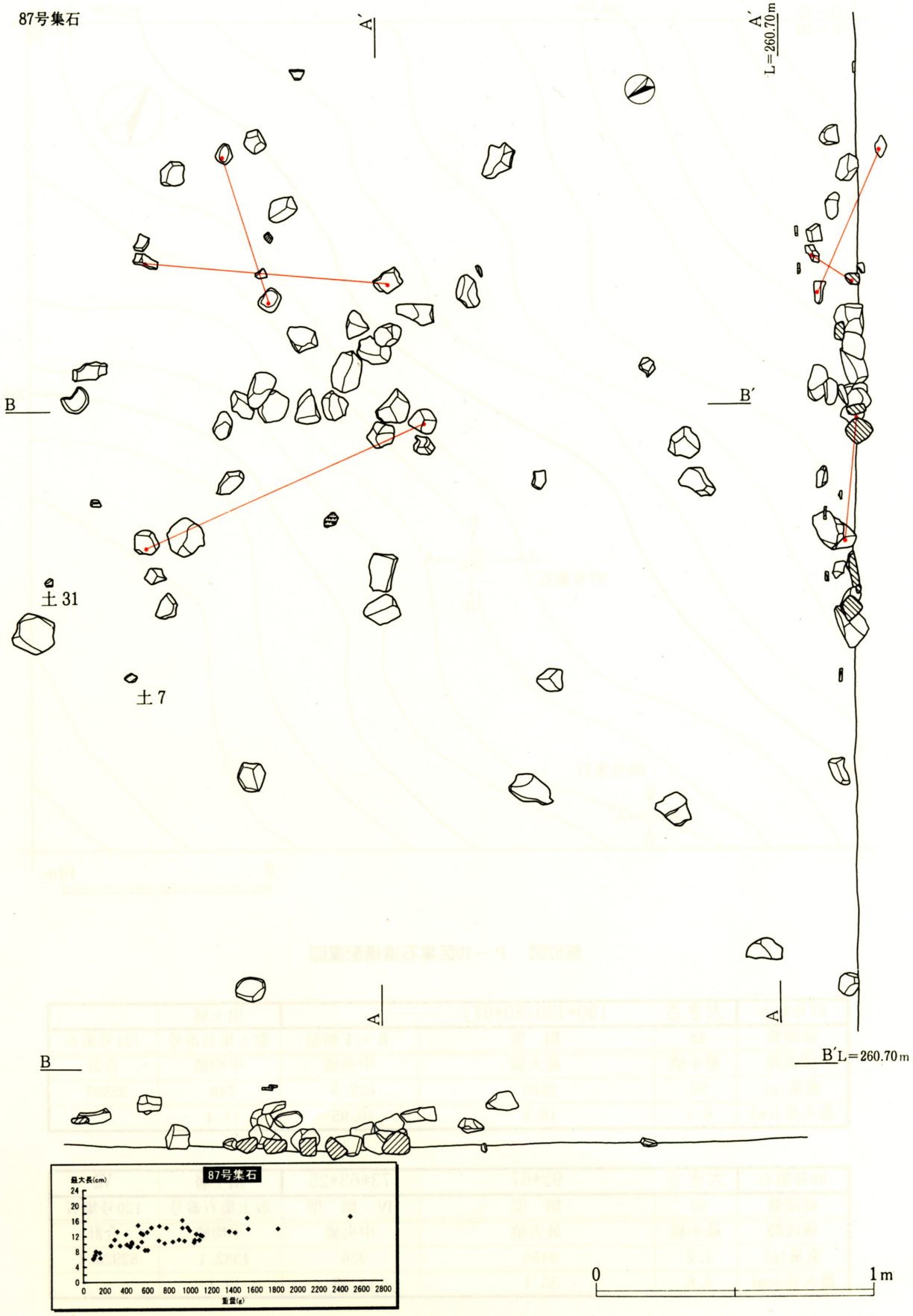
86号集石	大きさ	57*35		出土層	
総礫数	10	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	77号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	20	1280	276	370.2	3702
最大長(cm)	3.6	16.8	8.65	8.7	



第52図　P－10区集石遺構配置図

87号集石	大きさ	190*130[80*67]		出土層	
総礫数	48	類　型	Ⅱ＋Ⅰ類型	取上集石番号	121号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	95	2500	622.5	746	35807
最大長(cm)	6.1	16.8	10.95	11.4	

88号集石	大きさ	92*67	73*63*25	出土層	Ⅶ
総礫数	60	類　型	Ⅳ　類　型	取上集石番号	120号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	1.2	8450	926	1382.1	82928.2
最大長(cm)	3.6	35.1	13.35	14.1	

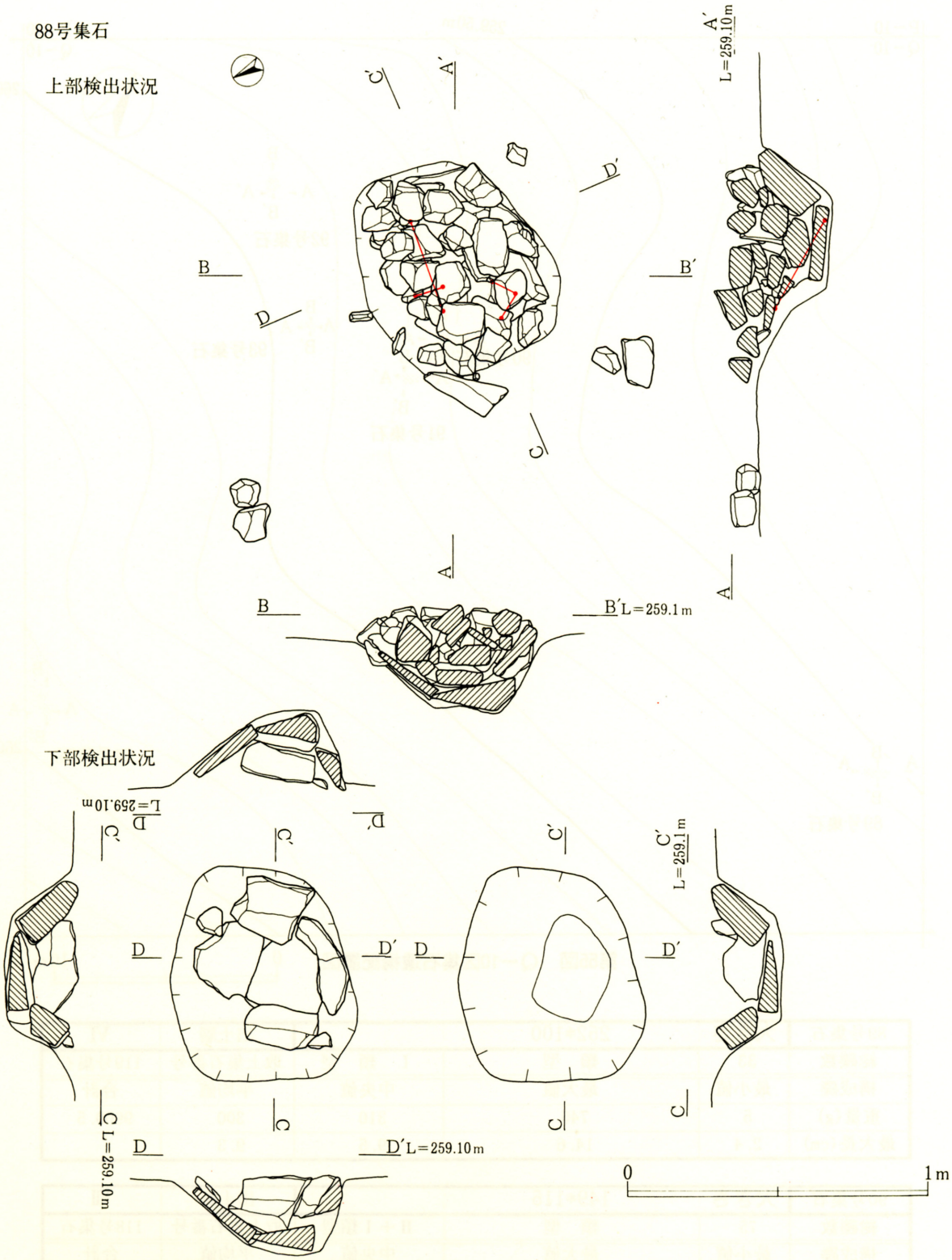


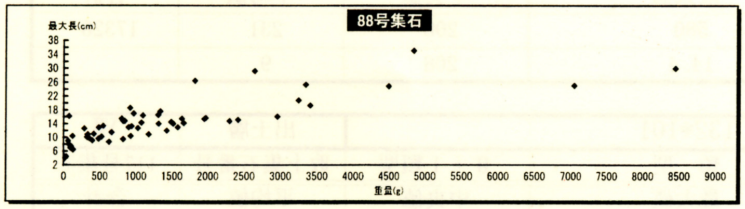
第53図　集石遺構37（P－10区～1）

88号集石

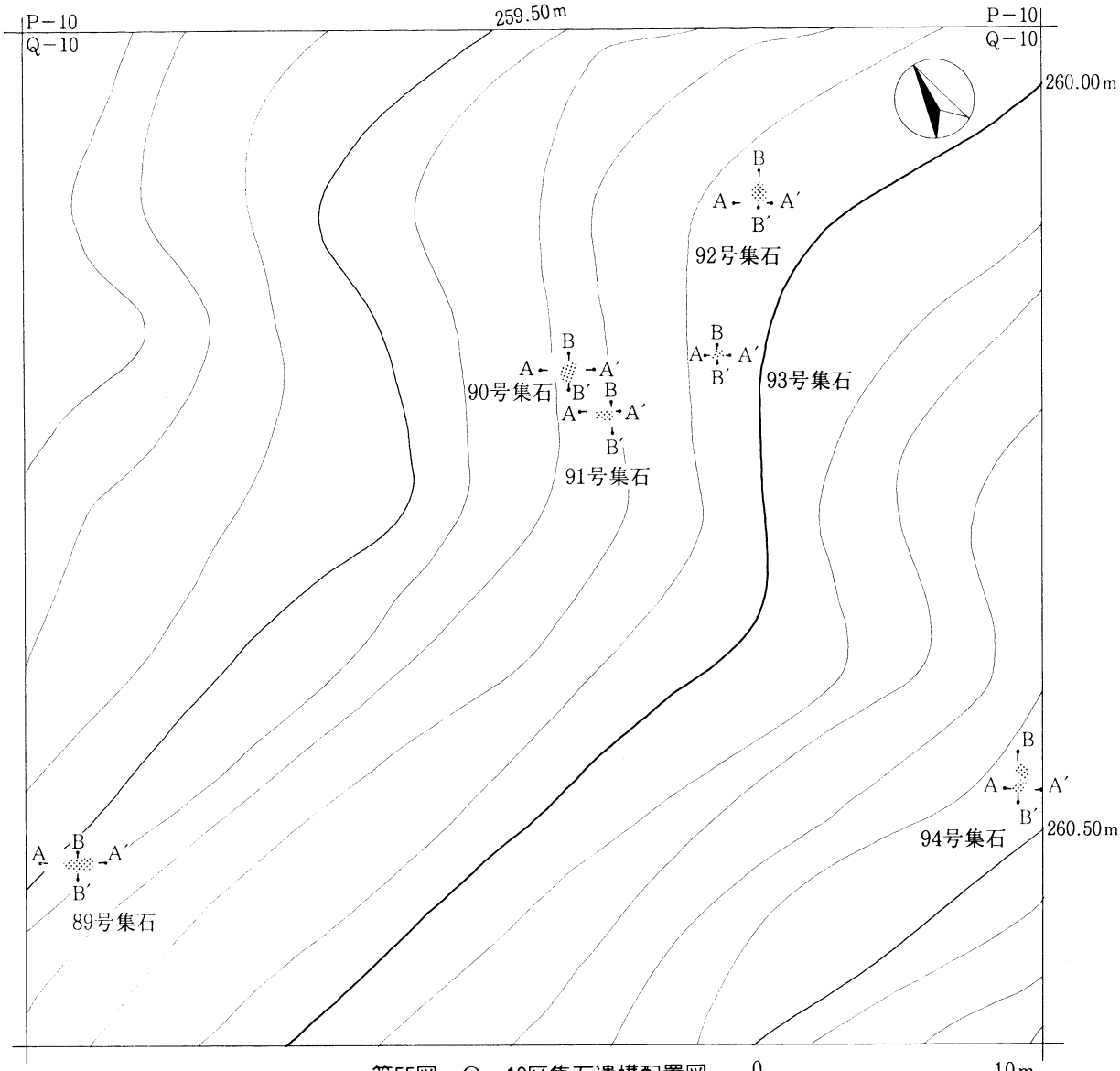
上部検出状況

下部検出状況





第54図　集石遺構38（Ｐ－10区～２）

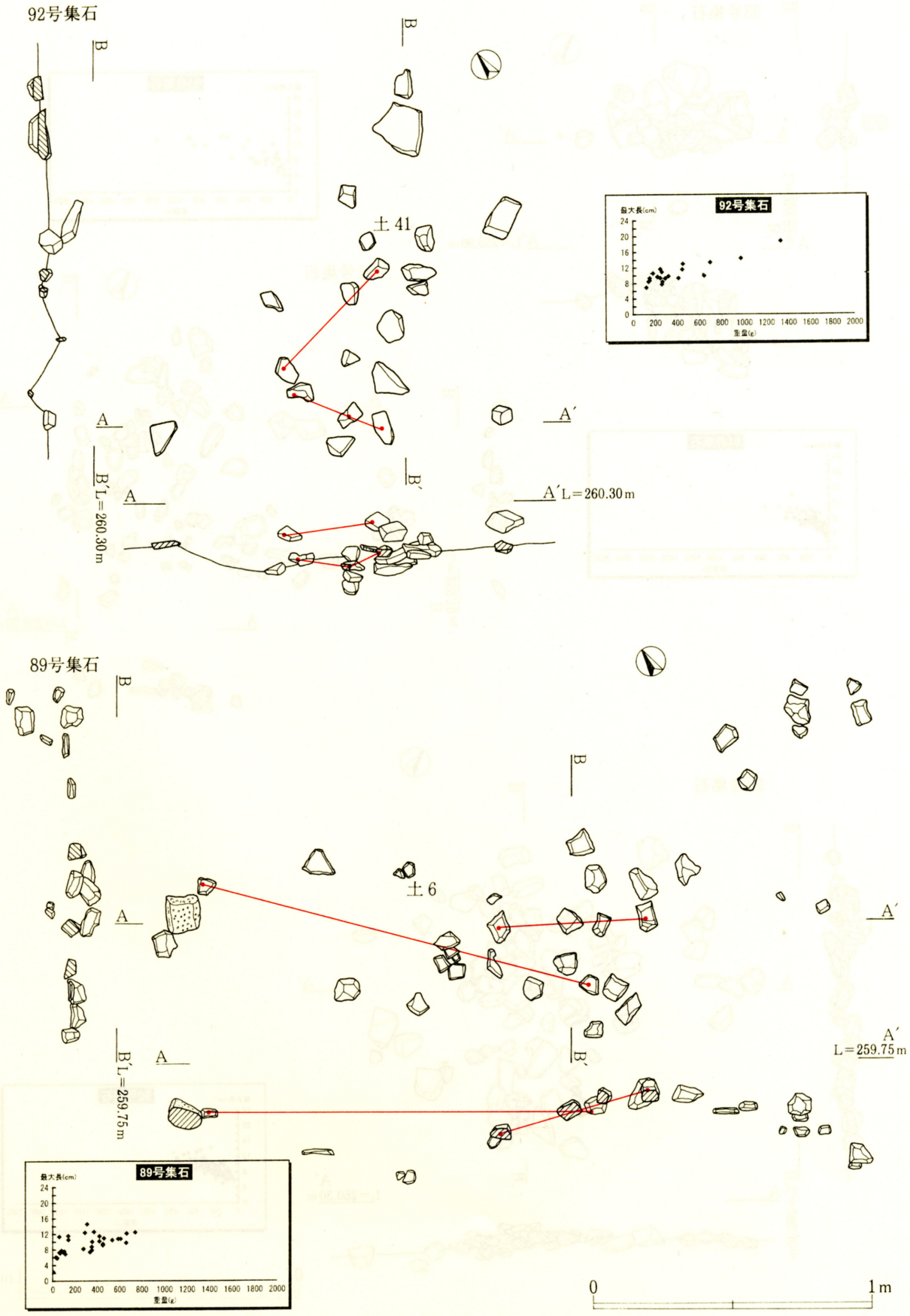


第55図　Q−10区集石遺構配置図　0　10m

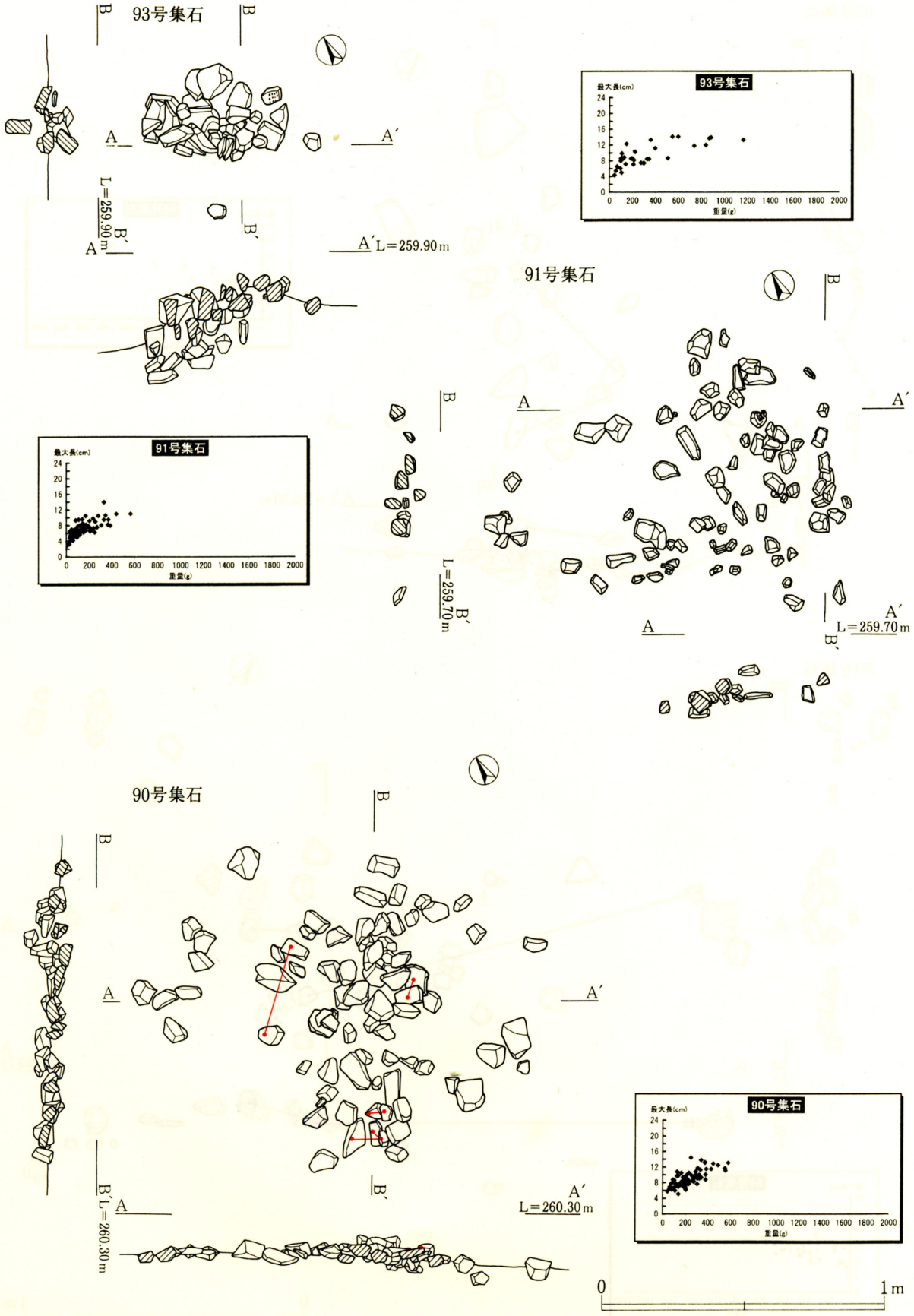
89号集石	大きさ	252*100		出土層	VI
総礫数	33	類　型	I　類　型	取上集石番号	119号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	5	740	310	300	9900.5
最大長(cm)	2.4	14.6	9.5	9.3	

90号集石	大きさ	149*115		出土層	VII
総礫数	75	類　型	II＋I類型	取上集石番号	118号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	43	580	208	231	17328
最大長(cm)	5.1	14.4	208	9	

91号集石	大きさ	132*101		出土層	VII
総礫数	84	類　型	II＋I類型	取上集石番号	117号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	8	565	116.5	145.1	12189
最大長(cm)	3	14	6.75	7.1	

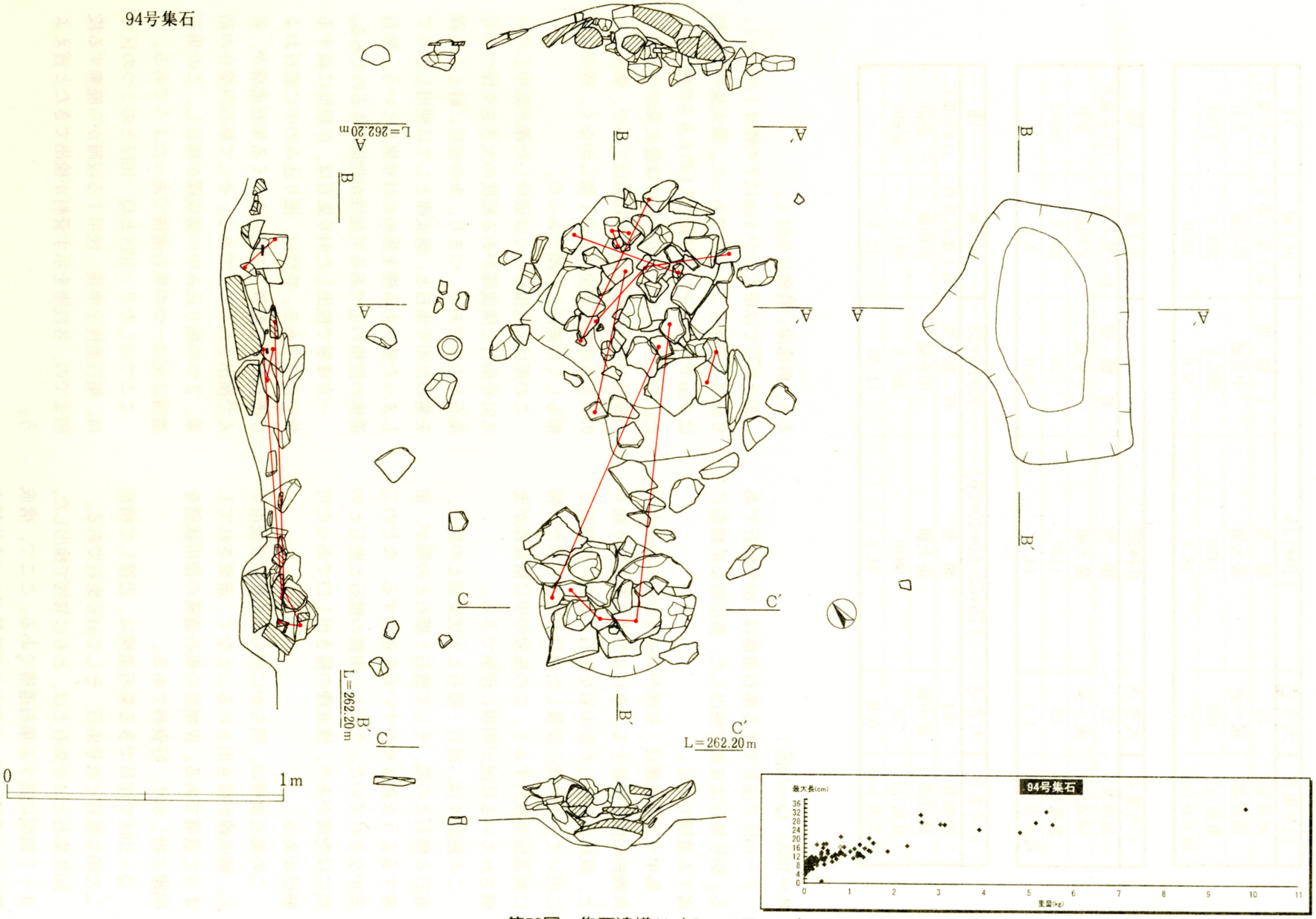


第56図　集石遺構39（Q－10区～１）



第57図　集石遺構40（Q－10区～２）

94号集石



第58図　集石遺構41（Q－10区～３）

92号集石	大きさ	140*135		出土層	Ⅵ
総礫数	20	類　型	Ⅰ　類　型	取上集石番号	116号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	120	1330	262.5	389.3	7785
最大長(cm)	7	18.8	9.8	10.6	

93号集石	大きさ	64*55		出土層	Ⅶ
総礫数	33	類　型	Ⅱ　類　型	取上集石番号	115号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	45	1167	215	328.6	10843
最大長(cm)	4.4	14.1	8.6	9.3	

94号集石	大きさ	175*55〔60*40*25〕	95*85*28	出土層	Ⅶ
総礫数	104	類　型	Ⅳ　類　型	取上集石番号	114号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	15	9840	387.5	881.7	91697
最大長(cm)	0.9	34.8	11.05	12.5	

Ｐ－10区，Ｑ－10区：

Ｐ－10区で注目できる集石遺構は，88号集石である。88号集石はⅦ層で検出した，典型的なⅣ類型に属する遺構である。

集中する構成礫は，長径が10cm後半から20cm大の角礫約50個が密集する。それらの構成礫を取り除くと，板状に整形した安山岩を底石と４方向の壁石とに用いて，花弁状に設置した施設が検出された。特に断面図を検討すると，この施設の中に構成礫が充填されている状況が明瞭に理解できる。

この施設では，底石・壁石と土坑壁面との間や，底石と壁石との間，そして壁石と壁石との間が，密着するような組ませやすい石を選択する，などの工夫がなされていた。ただし，南側の壁石と壁石との間には空間があり，構成礫の掃き出し口であった可能性がある。

この集石遺構は，明らかに何らかの理由で使用中に，構成礫が掃き出されることなく，遺棄されてしまった遺構である。Ⅳ類型の集石遺構の使用状態を明瞭に指し示す，好資料である。

Ｑ－10区で注目できる集石遺構は，近接して検出した90号集石と91号集石，そして94号集石である。

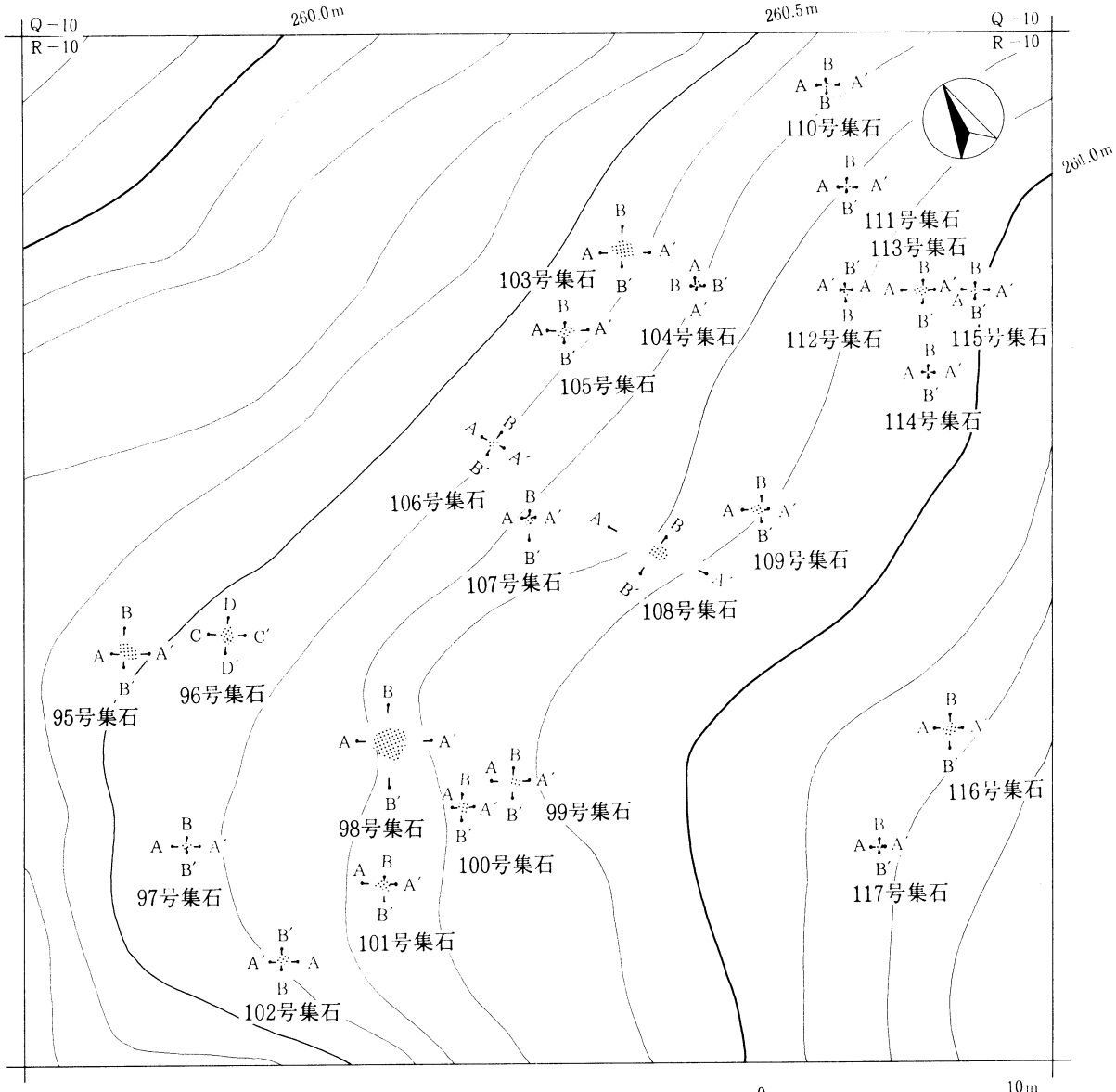
90号集石と91号集石とは，ともにⅦ層で検出した，Ⅱ＋Ⅰ類型に属する集石遺構である。ここで，構成礫の集石遺構別データ表および分散グラフを比較すると，興味深い特徴に気付く。

90号集石では最大長が４cm以下の礫は１点もなく，６cm以下の礫もごく僅かであった。最大長の平均値は９cmで，大部分の礫が拳大以上の大きさの礫であった。それに対して，91号集石では最大長が４cm以下の礫数が多く，最大長の平均値は７cmで，拳大以上の大きさの礫数が全体の約１割しかなく，残りは破損もしくは破砕した礫であった。

この差は，破損もしくは破砕した礫が集中している91号集石と構成礫がある程度の大きさを保つ90号集石との差である。つまり，次の使用に耐えうる礫を集めた90号集石と，構成礫としては使用しきってしまった感のある礫を集めた91号集石という，集石遺構の性格の差である可能性が指摘できるのである。

一方Ⅶ層で検出した94号集石は，Ⅳ類型に属する集石遺構である。特徴は，掘り込みの中に底石および壁石などを配置して施設をつくる集石遺構が，並んで検出されたことである。そして集石内接合の結果，２つの掘り込み中の構成礫が接合し，この集石遺構は元は一つの集石遺構であったようである。

ここで示したＰ－10区とＱ－10区との２つの区では，集石遺構を準備・使用する段階から廃棄する段階までの，各段階を示す資料が検出できたと言えよう。

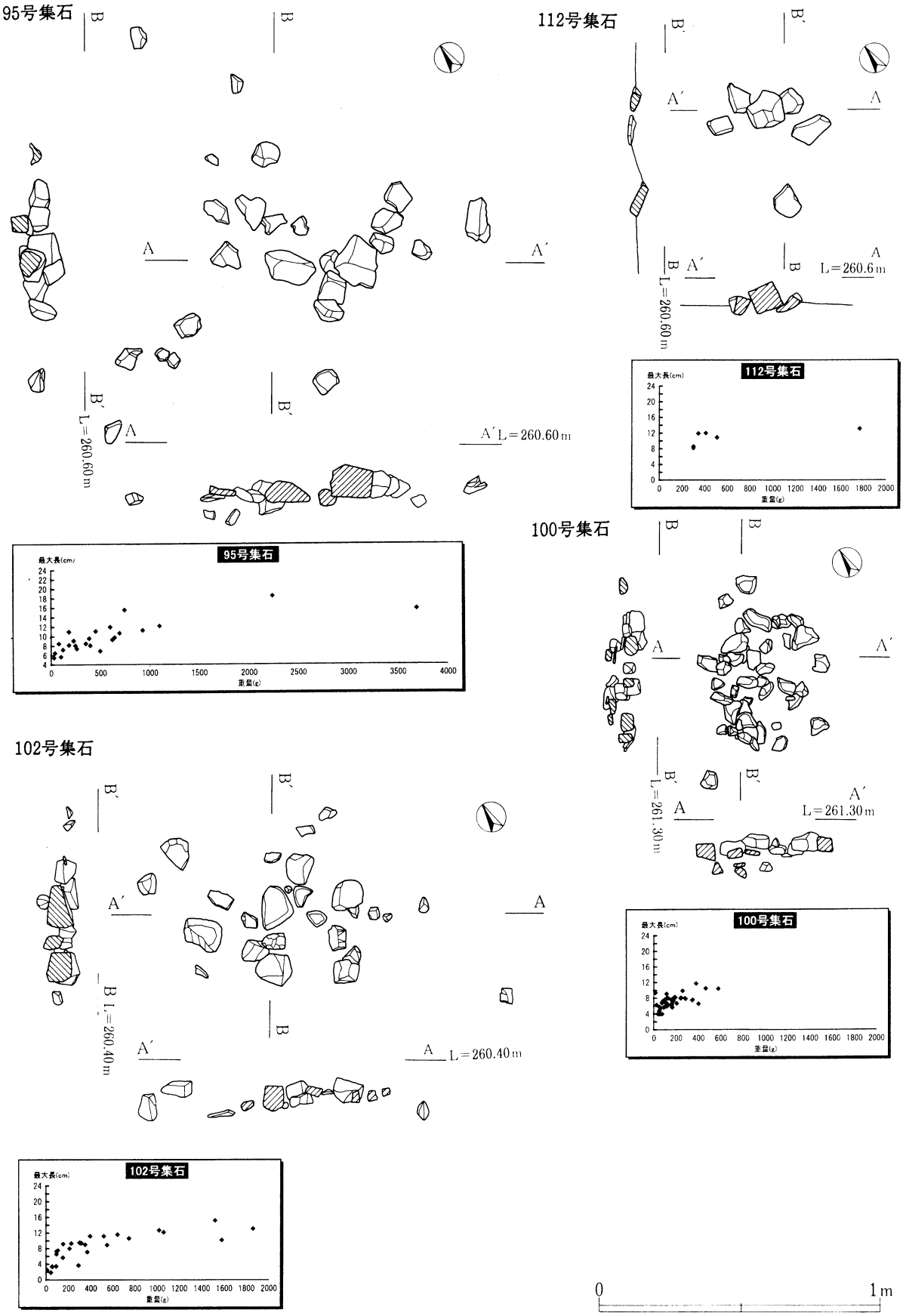


第59図　R－10区集石遺構配置図

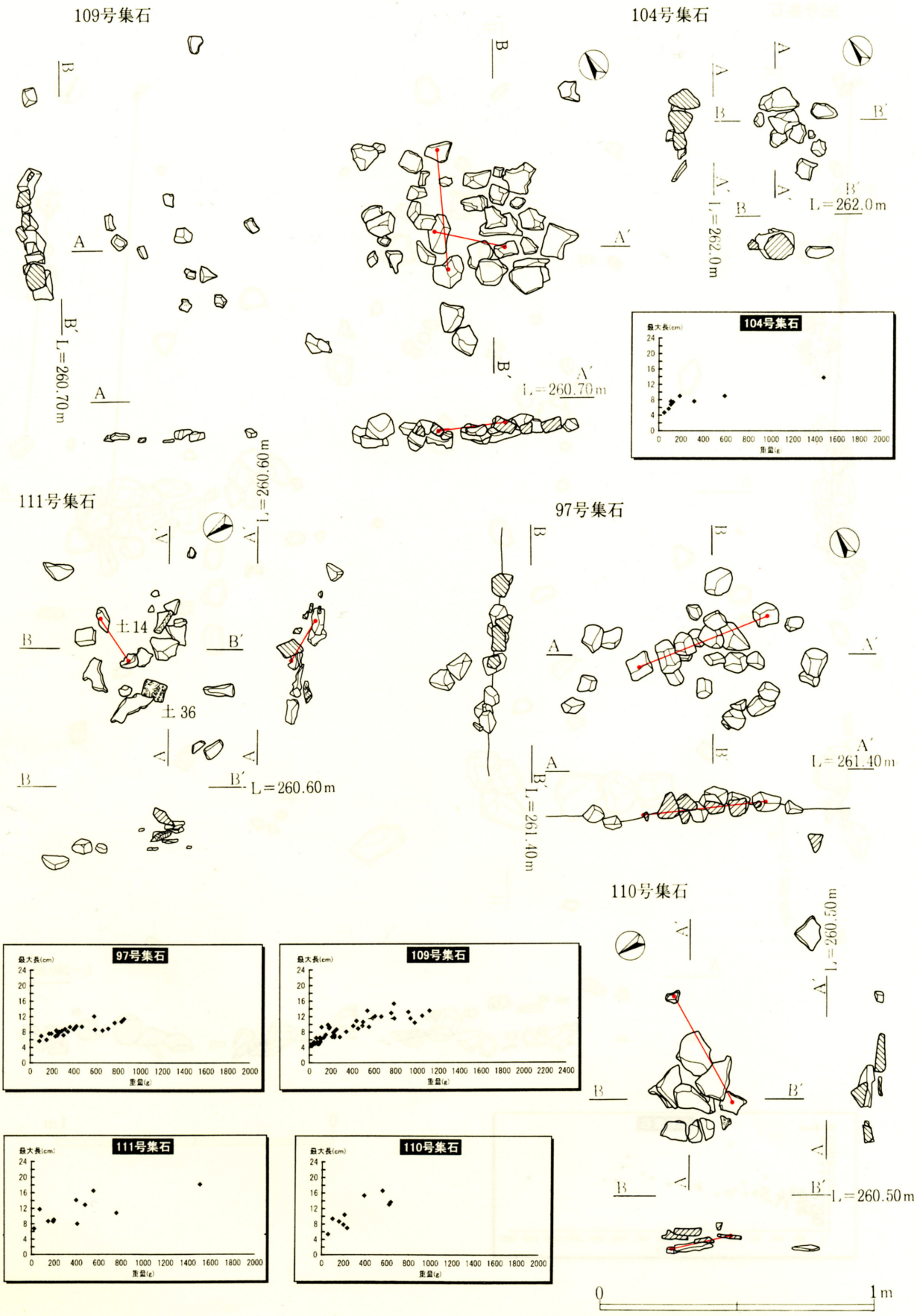
95号集石	大きさ	138*132		出土層	VI
総礫数	24	類　型	II＋I類型	取上集石番号	93号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	30	3690	390.5	616.8	14802
最大長(cm)	5.5	18.5	9.2	9.9	

96号集石	大きさ	120*90	120*75*20	出土層	VII
総礫数	141	類　型	IV　類　型	取上集石番号	94号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	10	7150	525	930.9	131261
最大長(cm)	3.4	31	11.2	12.1	

97号集石	大きさ	98*58		出土層	VI
総礫数	27	類　型	II＋I類型	取上集石番号	92号集石
構成礫	最小値	最大値	中央値	平均値	合計
重量(g)	85	852	320	389.8	10525
最大長(cm)	5.7	12.1	8.4	8.5	

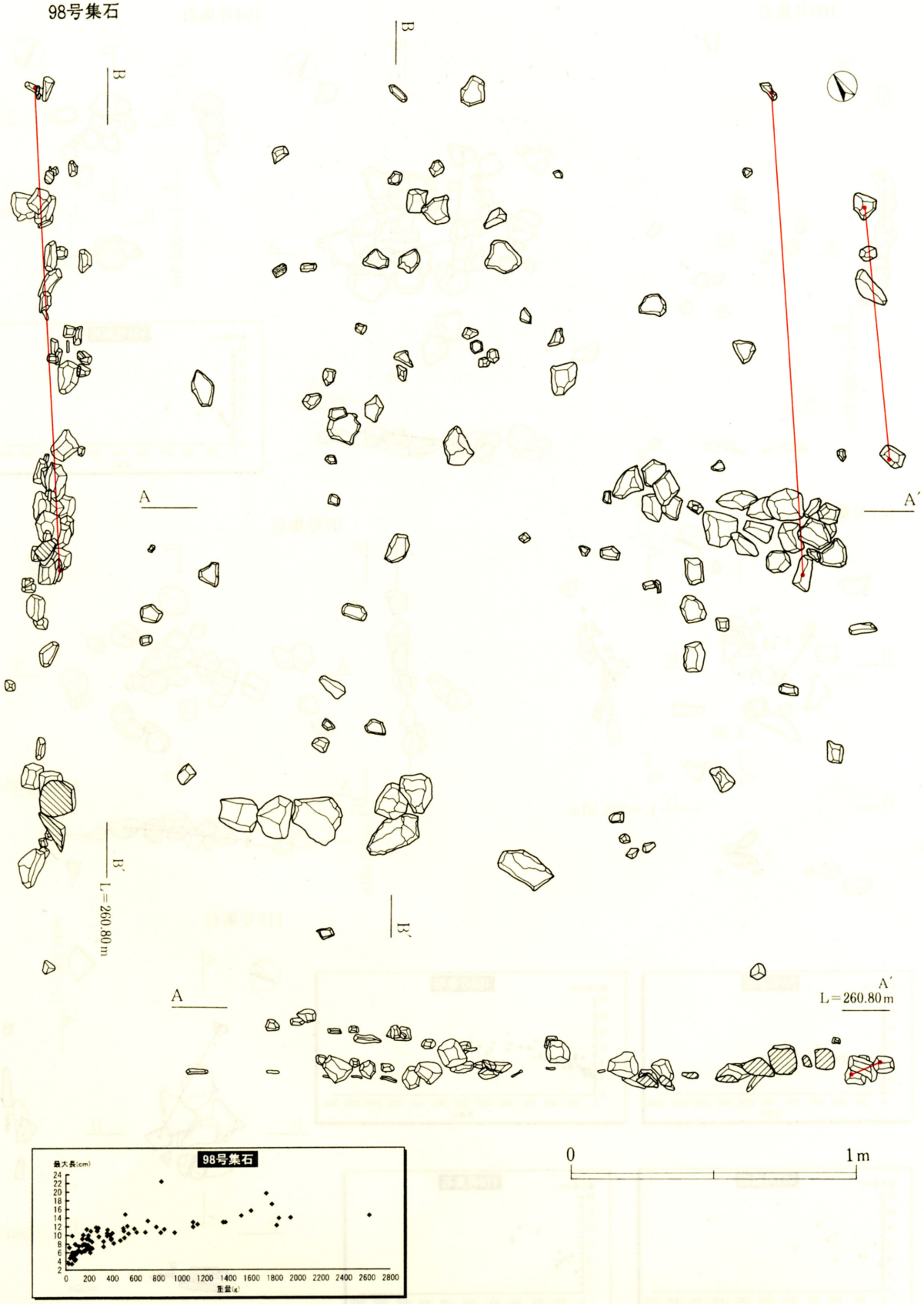


第60図　集石遺構42（R－10区～1）



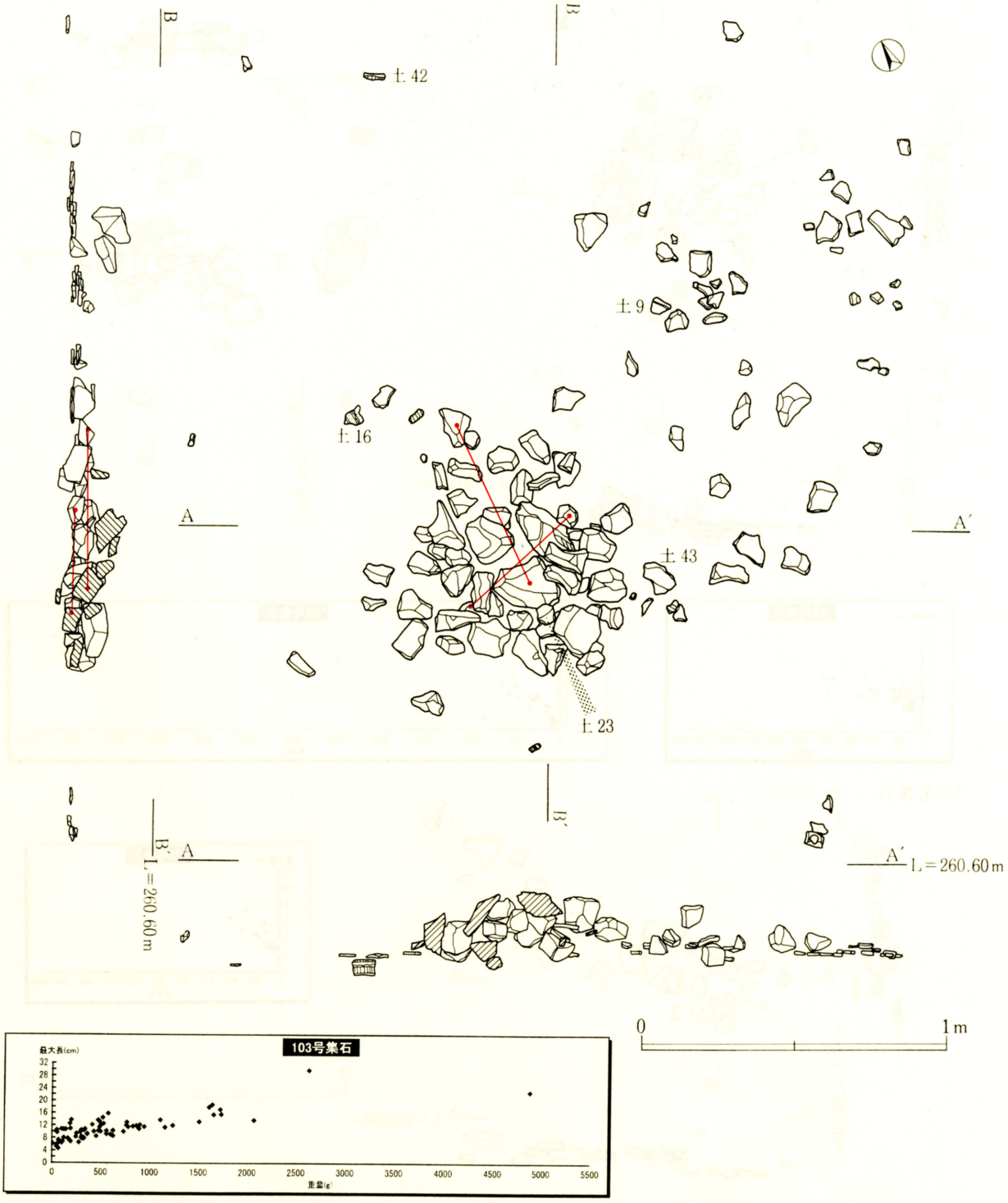
第61図　集石遺構43（R－10区～2）

98号集石

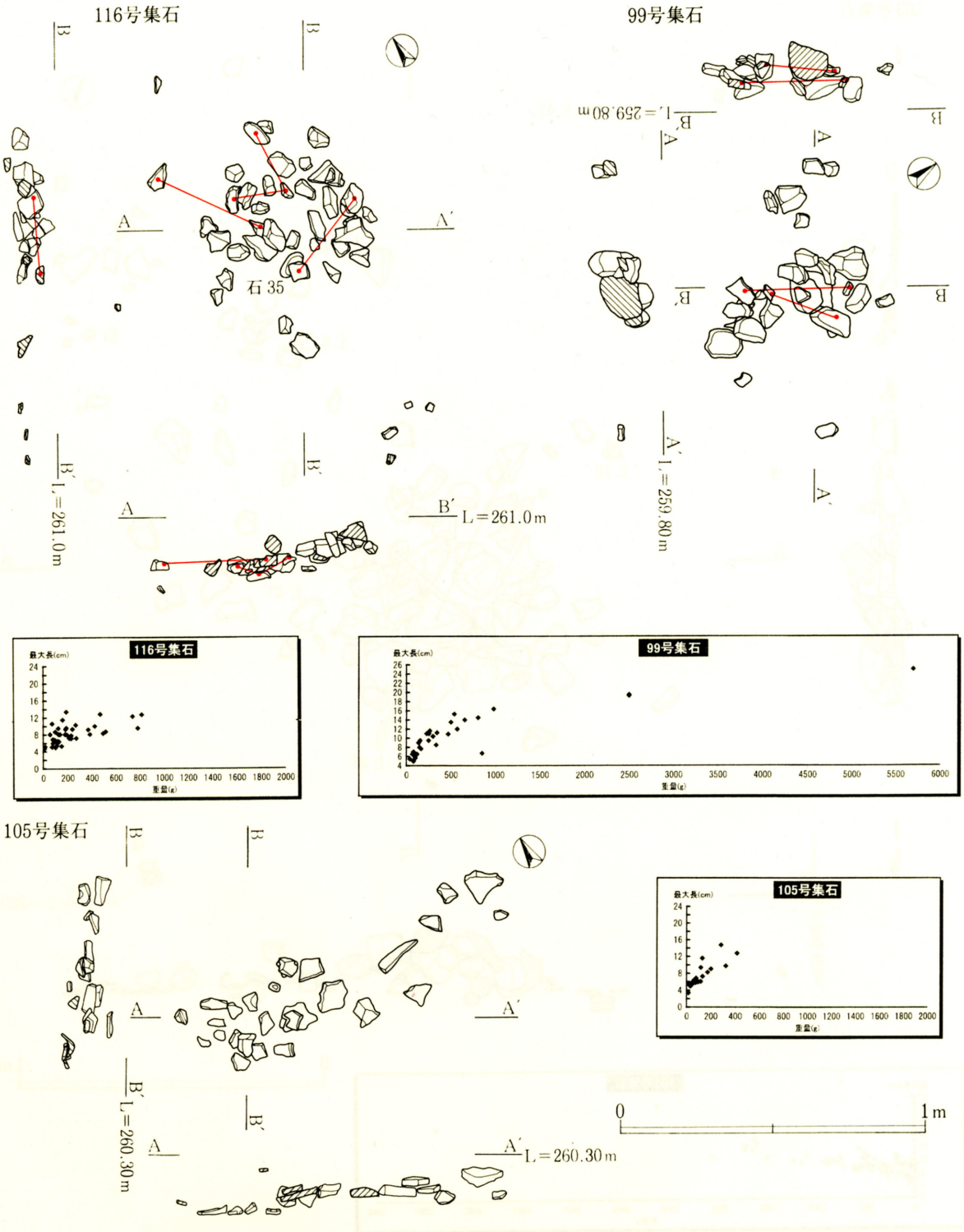


第62図　集石遺構44（R－10区～3）

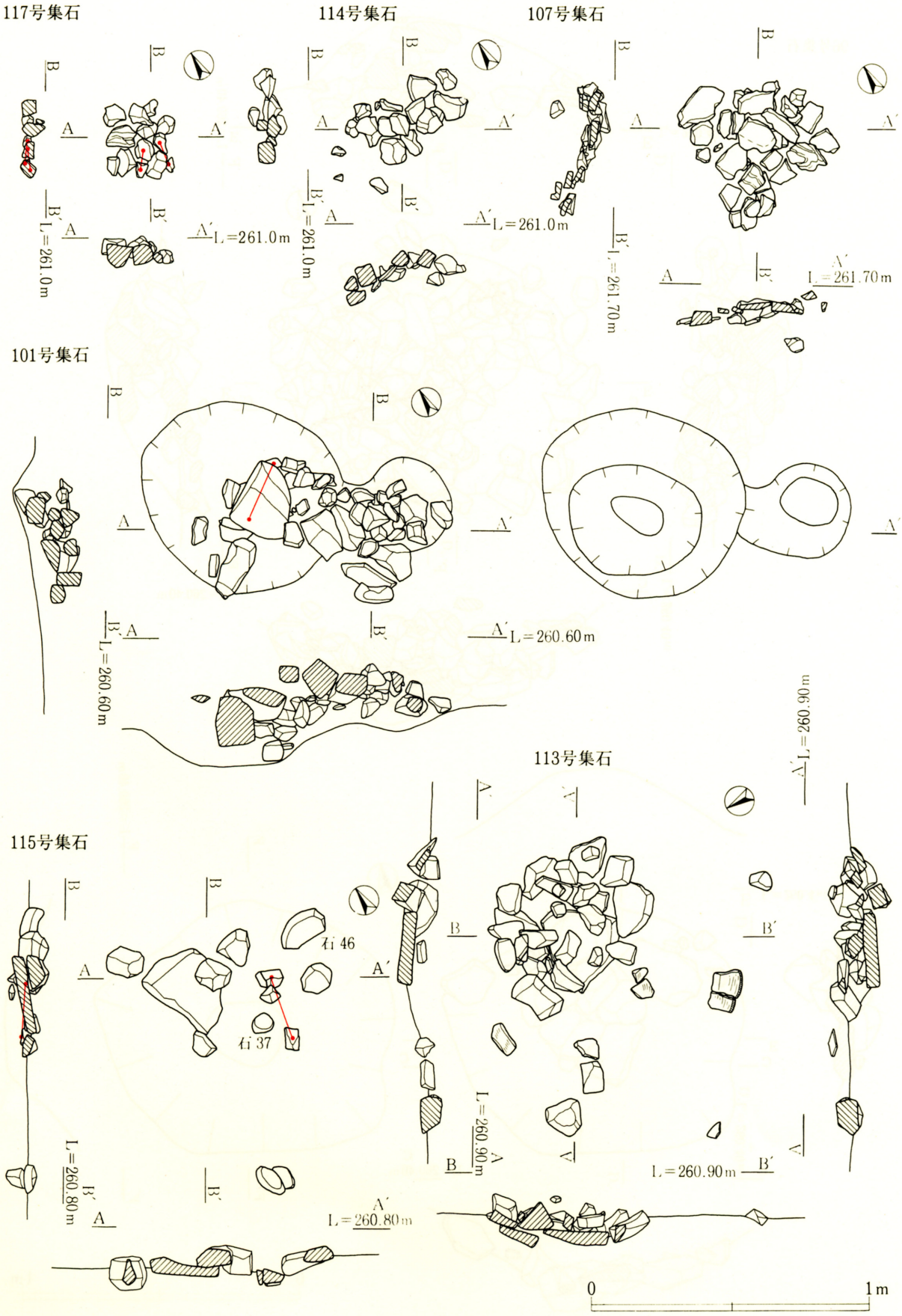
103号集石



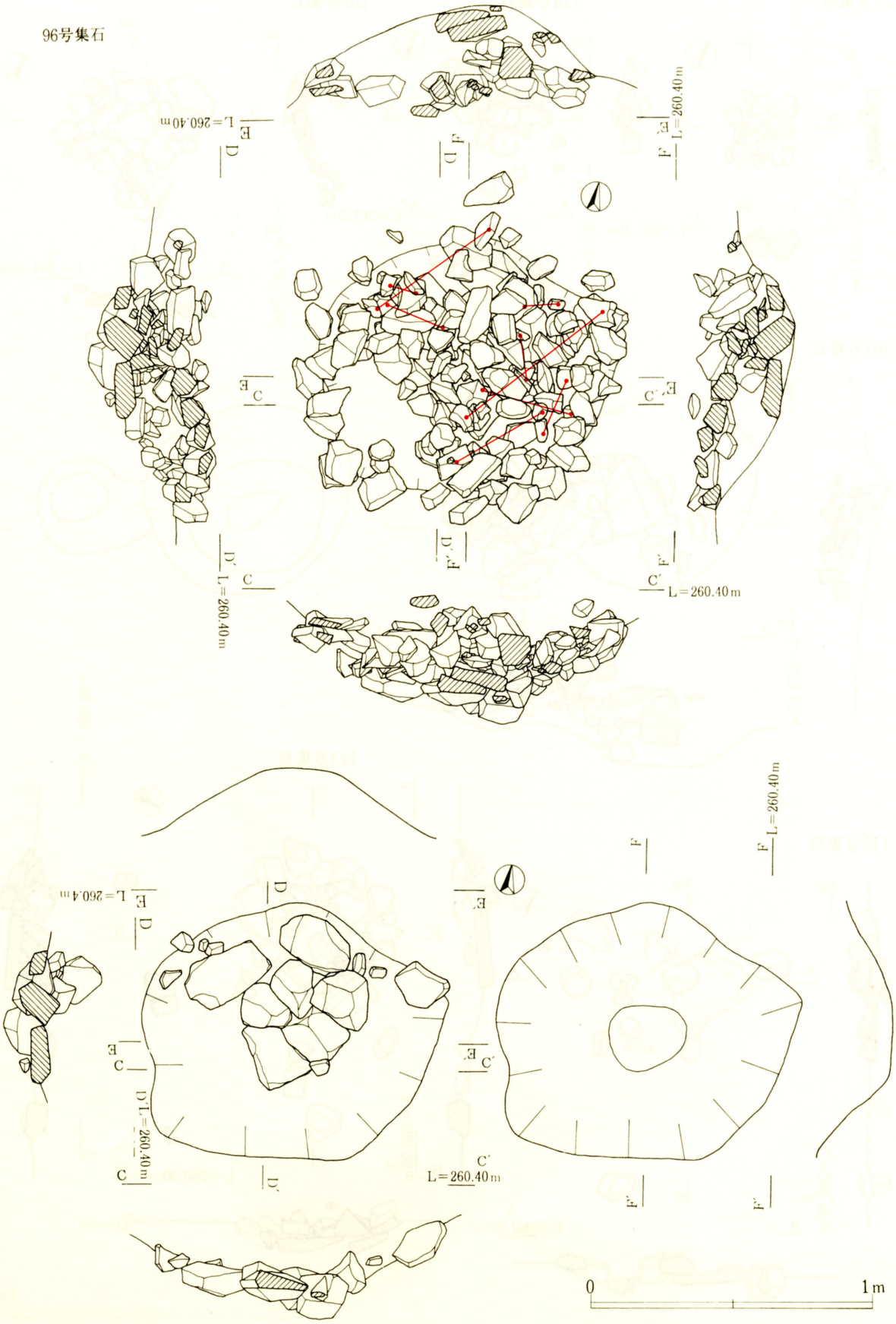
第63図　集石遺構45（R－10区～4）



第64図　集石遺構46（R－10区～5）



第65図　集石遺構47（R－10区～6）



第66図　集石遺構48（R－10区～7）